

大少輔、正權大少丞、大少總導ノ職員ト爲シ其職制ヲ定ム○同年八月二十日官位相當ヲ更定シ新ニ大中少總導ヲ置ク  
 三年五月七日外務省中文書部ヲ置ク○同年閏十月二日外務省中大中少總導使、正權大少總導ヲ置ク○四月二日漢洋  
 隔學所ヲ外務省ニ置ク○同年八月十日外務省官制審議ヲ定メ、大少輔、大少丞、正權大中少總導及大中少總導使、大少記  
 ノ職員ト爲ス○同年十月二十八日各開港場市場ノ稅務ヲ大藏省ニ屬ス○同年十月廿日全權大使隨從書記官ノ等級ヲ定  
 ム○同年十一月五日外務省中總領事、副領事、代領事ヲ置キ官等ヲ定ム○五年正月第十六號ヲ以テ外務省官等ヲ  
 改正ス○同年十月第三百八號ヲ以テ大中少總導使、正權大少總導等ヲ廢シ特命全權公使代理公使及書記官一等  
 ヨリ三等ニ至ルヲ置ク○同年十月第三百廿六號ヲ以テ書記官一等ヨリ八等ニ至ルヲ置ク○六年二月第十六號ヲ以テ  
 代領事ヲ廢ス○同年五月五日留學所ヲ文部省ニ屬ス○九年五月第九十九號ヲ以テ職制章程ヲ改正シ、大少輔、正權  
 大中少丞、正權大中少總導、特命全權公使、代理公使、總領事、正副領事、書記官、書記生ノ職員ト爲ス○同年十月  
 八日三等書記官并三等書記生以下ヲ廢ス○十年一月第三號ヲ以テ正權大少丞以下ヲ廢シ正權大少書記官屬一等ヨリ  
 十等ニ至ルヲ置ク○同年十月第四號ヲ以テ文官四等以下等給ヲ改正シ官等ヲ十七等ニ分ツ○同年九月第十六號ヲ  
 以テ總領事、副領事、代領事ノ官等ヲ改ム○十二年十二月第四十六號ヲ以テ三等書記官三等書記生ヲ置ク○十三年十  
 二月第六十號ヲ以テ外務省職制章程ヲ改正ス○十四年八月第七十三號ヲ以テ一等二等三等書記官並書記生  
 ヲ廢シ更ニ書記官書記生ヲ置ク○同年十一月第九十四號ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務章程並則ヲ定ム○同  
 年同月第九十七號ヲ以テ領事ノ官等ヲ改ム○總領事、副領事ノ官等ハ姑ク舊ニ依ル○十五年三月第十五號ヲ以テ特  
 命全權公使ノ官等ヲ改ム○十七年二月四日外務省書記生公使隨從在勤中特別ヲ以テ委任ニ進スルノ旨ヲ達ス○同年五月  
 七日外務省ハ無任所外交官條例ヲ達ス○十八年十二月第六十九號ヲ以テ各省脚ノ職制ヲ廢シ更ニ外務大臣ヲ置ク○  
 十九年三月交際官及領事ノ官制ヲ定ム○二十三年五月勅令第八十號ヲ以テ日本帝國領事規則ヲ定ム○同年六月勅令第  
 百九號ヲ以テ外務省官制ヲ改正ス○同年十月第二十五號ヲ以テ外交官及領事官官制ヲ定ム○同年十二月勅令第二  
 百八十三號ヲ以テ外交官領事官及書記生ノ定員ヲ定ム○二十四年七月勅令第八十七號ヲ以テ外務省官制ヲ改正ス○二  
 十六年十月勅令第二百二十三號ヲ以テ外務省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第二百四號ヲ以テ外交官及領事官官制ヲ改  
 正ス○同年同月勅令第二百二十五號ヲ以テ外交官領事官書記生定員令ヲ制定シ二十三年勅令第二百八十一號ヲ廢止ス○  
 同年同月勅令第二百二十六號ヲ以テ外交官及領事官試驗委員會官制ヲ定ム○同年同月勅令第七十二號ヲ以テ外交官領事  
 官赴任及退職規則ヲ制定シ二十四年勅令第七十四號ヲ廢止ス○二十七年十一月勅令第八十九號ヲ以テ領事官及領  
 事官ニシテ戰時特設ノ職務ニ從事スル者ヲ定員外トナス○二十八年六月勅令第八十二號ヲ以テ公使隨從及領事官  
 館領事館及貿易事務館ニ通譯生ヲ置ク○同年同月勅令第八十四號ヲ以テ通譯官及通譯生ニ外交官領事官赴任及退職規  
 則適用方ヲ示ス○同年同月勅令第八十七號ヲ以テ貿易事務官公使隨從通譯官待遇方ヲ定ム○同年同月勅令第八十八號ヲ  
 以テ外交官及領事官通譯官書記生通譯生定員令ヲ定ム○二十六年勅令第二百二十五號ヲ廢止ス○同年十月勅令第五百十號  
 ナリテ外交官領事官及貿易事務官更代ノ際ニ於テ臨時職員方ヲ定ム○三十一年十月勅令第二百五十八號ヲ以テ外務省

○外務省官制明治三十一年十月  
 勅令第五百五十八號

朕外務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外務省官制

- 第一條 外務大臣ハ外國ニ關スル政務ノ施行、外國ニ於ケル帝國商事ノ保護及外國在留帝國臣民ニ  
 關スル事務ヲ管理シ外交官及領事官ヲ指揮監督ス(三十三年勅令第九十九號ヲ以テ條中追加)
- 第二條 總務局ニ於テハ通則ニ揭クルモノノ外帝國ニ駐在スル各國外交官領事官、外國人叙勳、條  
 約書保管及文書翻譯ニ關スル事務ヲ掌ル(三十三年勅令第九十九號ヲ以テ條中改正)
- 第三條 外務省專任參事官ハ三人專任外務大臣秘書官ハ二人專任書記官ハ五人ヲ以テ定員トス(上)
- 第四條 外務省ニ左ノ二局ヲ置ク

政務局

通商局

- 第五條 政務局ニ於テハ外交ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第六條 通商局ニ於テハ通商航海及移民ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 外務省ニ翻譯官四人ヲ置ク奏任トス文書翻譯ニ從事ス

第八條 外務省屬ハ六十人ヲ以テ定員トス

第九條 外務省ニ翻譯官補六人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ文書翻譯及通辯ニ從事ス

第十條 外務省ニ技手三人ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ケ電信及營繕事務ニ從事ス(三十三年勅令第五十九號ヲ以テ條中改正)

附則

第十一條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

○

○外交官及領事官官制明治三十二年六月勅令第二百八十號

朕外交官及領事官官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外交官及領事官官制

第一條 外交官ハ特命全權公使、辨理公使、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官及外交官補トス

第二條 特命全權公使及辨理公使ハ勅任トシ公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官及外交官補ハ奏任トス

第三條 領事官ハ總領事、領事、副領事及領事官補トス

第四條 總領事、領事、副領事及領事官補ハ奏任トス

第五條 外交官ヲ置カサル地ニ於テハ外交事務官ヲ置クコトヲ得

第六條 外交事務官ハ領事官ヲシテ之ヲ兼ネシム

第六條 領事官ヲ置カサル地ニ於テハ貿易事務官又ハ名譽領事若ハ名譽副領事ヲ置クコトヲ得

貿易事務官ハ奏任トシ名譽領事及名譽副領事ハ奏任待遇トス

第七條 公使館、領事館及貿易事務館ニ外務書記生ヲ置ク

外務書記生ハ判任トス

第八條 英吉利語、佛蘭西語及獨逸語以外ノ外國語ノ通譯ヲ要スル公使館ニ公使館一等通譯官、公使館二等通譯官ヲ置クコトヲ得

公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ハ奏任トス

第九條 英吉利語、佛蘭西語及獨逸語以外ノ外國語ノ通譯ヲ要スル公使館、領事館及貿易事務官ニ外務通譯生ヲ置クコトヲ得

外務通譯生ハ判任トス

第十條 外交官又ハ領事官ニシテ一時外國在勤ヲ免シタル者及外務省官吏ニシテ外交官吏又ハ領事官ニ轉任シ未タ任所ヲ命セサル者ヲ待命トス

待命ノ外交官及領事官ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セシム其ノ他本令及公使館領事館費用條例ニ特別ノ規定アル事項ヲ除ク外總テ在職官吏ト異ナルコトナシ

待命ノ外交官及領事官ハ臨時外務省ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ在職官吏ニ關スル規定ヲ適用ス

待命ハ滿五箇年ヲ以テ期トス期滿レハ其ノ官ヲ免スルモノトス(三十三年勅令第二百十九號ヲ以テ三十五年改正)

待命ノ外交官及領事官ニハ休職ヲ命スルコトヲ得ス

前各項ノ規定ハ貿易事務官、公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ニ之ヲ適用ス

第二十三類 外交官及領事官官制

附則

第十一條 明治二十八年勅令第八十三號及同年勅令第八十七號ハ本令施行ノリヨリ廢止ス  
 第十二條 本令ノ施行ノ際一等領事又ハ二等領事タル者ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セザルモノハ領事ニ任セラレタルモノトス

○在外國帝國專管居留地經營事務監督ノ爲臨時職員ヲ置ク明治三十三年三月勅令第百十三號  
 朕在外國帝國專管居留地經營事務監督ノ爲臨時職員ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 在外國帝國專管居留地經營事務ノ監督ヲ爲サシムル爲臨時外務省ニ日本專管居留地經營事務監督官三人ヲ置キ外務省及大藏省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

○日本專管居留地經營事務所官制明治三十三年三月勅令第百十號  
 朕日本專管居留地經營事務所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 日本專管居留地經營事務所官制

第一條 日本專管居留地經營事務所ハ在外國帝國專管居留地ニ之ヲ設ケ外務大臣ノ管理ニ屬シ在外國帝國專管居留地經營ニ關スル事務ヲ掌理ス  
 第二條 各日本專管居留地經營事務所ニ左ノ職員ヲ置ク  
 所長 一人 奏任  
 接師 一人

技手 五人

書記 三人 判任

第三條 所長ハ所在地帝國領事ヲ以テ之ニ充ツ所中一切ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ指揮監督ス

第四條 技師ハ所長ノ指揮ヲ承ケ工務ヲ掌理ス

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ従事ス

第六條 書記ハ外務書記生及外務通譯生ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○待命外交官及待命領事官ニシテ戰時特設ノ職務ニ従事スル者ヲ定員外トナス明治二十七年十一月勅令第百九十九號  
 朕待命外交官及待命領事官ニシテ戰時特設ノ職務ニ従事スル者ヲ定員外ト爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

待命外交官及待命領事官ニシテ戰時特設ノ職務ニ従事スル者ハ之ヲ定員外ト爲スコトヲ得

○在外公館職員定員令明治三十二年六月勅令第百八十一號  
 朕在外公館職員定員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

在外公館職員定員令

第一條 外交官、領事官、貿易事務官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官、外務書記生及外務通譯生ノ定員ハ左ノ如シ(三十三年勅令第百二十號ヲ以テ定員中ヲ改正ス)  
 特命全權公使、辦理公使ハ通シテ十六人

公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官ハ通シテ三十人

總領事、領事、副領事、貿易事務官ハ通シテ三十五人  
公使館一等通譯官、公使館二等通譯官ハ通シテ七人  
外交官補、領事官補ハ通シテ三十人

外務書記生、外務通譯生ハ通シテ百二十三人

外交官ニシテ領事官ヲ兼任シ及領事官ニシテ外交官ヲ兼任スルトキハ其ノ兼官ハ定員ノ内ニ  
算入セス

第二條 待命ノ外交官、領事官、貿易事務官、公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ハ通シテ二  
十五人トシ前條定員ノ内ニ算入セス(三十二年勅令第二百二十號ヲ以テ十五人ヲ二十五人ニ改ム)

附則

外交官、領事官、通譯官、書記生、通譯生定員令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○外交官領事官及貿易事務官更代ノ際ニ於テ臨時増員方明治二十八年十月勅令第五百十號

朕外交官領事官及貿易事務官更代ノ際ニ於テ臨時増員スルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公  
布セシム

外交官領事官貿易事務官及外務書記生外務通譯生ヲ更代セシムルトキハ定員ノ外ニ臨時増員ス  
ルコトヲ得但増員ノ日ヨリ六箇月以内ニ定員ニ復スヘシ(三十二年勅令第二百八十號ヲ以テ本項中追加)

臨時増員ハ左ノ定限ニ超過スルコトヲ得ス

特命全權公使辦理公使代理公使ハ通シテ二人

公使館一等書記官公使館二等書記官公使館三等書記官ハ通シテ四人

總領事一等二等領事貿易事務官ハ通シテ五人

外務書記生外務通譯生ハ通シテ四人(三十二年勅令第二百八十四號ヲ以テ本項追加)

○外交官及領事官試驗委員官制明治二十六年十月勅令第二百六號

朕外交官及領事官試驗委員官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外交官及領事官試驗委員官制

第一條 外交官及領事官試驗ヲ施行スル爲ニ外交官及領事官試驗委員ヲ置キ外務大臣ノ管轄ニ  
屬セシム

第二條 外交官領事官試驗委員ハ左ノ人員ヲ以テ組織ス

委員長 外務次官

委員

外務省政務局長

外務省通商局長

文官高等試驗委員二名

帝國大學教授二名

外務次官、外務省政務局長又ハ外務省通商局長ニ副員又ハ事故アルトキハ臨時他ノ高等官ヲ

以テ之ニ充ツ

第三條 前條委員ノ外臨時必要アルトキハ臨時試験委員ヲ命スルコトヲ得

第四條 外交官及領事官試験委員ハ職務上當然委員長又ハ委員タル者ヲ除クノ外外務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス臨時委員亦同シ

第五條 試験事務ニ關シ庶務ニ從事セシムル爲ニ書記ヲ置キ外務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 外交官及領事官試験委員並臨時試験委員ニハ外務省官吏ヲ除クノ外年額百圓以内ノ手當金ヲ給スルコトヲ得

附則

第七條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○外交官領事官赴任及賜暇規則 明治二十六年十月勅令第百七十二號

朕外交官領事官赴任及賜暇規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外交官領事官赴任及賜暇規則

第一條 外交官及領事官ハ特別ノ命令アルトキノ外新ニ本邦ヨリ赴任スルトキハ其命令ヲ受ケタル日ヨリ五週間以内其ノ他ノ赴任又ハ歸朝ノ場合ニハ其命令到達ノ日ヨリ三週間以内ニ事務引繼ヲ爲シ出發スヘシ

第二條 外交官及領事官ニシテ滿三年以上外國ニ在勤シタル者ニハ往返日數ヲ除キ左ノ割合ニ

依リ賜暇歸朝ヲ許可スルコトヲ得 (三十三年勅令第百九十二號ヲ以テ四十二年改メ)

第一條 滿四年以上ノ者ハ六箇月以内

第二條 滿四年以上滿五年未満者ハ每ニ一箇月ヲ加ス但通算シテ十箇月ヲ超スルコトヲ得

第三條 賜暇歸朝中ハ其ノ本俸全額ヲ給ス特別ノ命令アルトキノ外其ノ期限ヲ過キ出發スルコトヲ得サルトキハ其ノ本俸半額ヲ減ス但病ニ罹リ外務大臣ノ許可ヲ得テ其ノ赴任ヲ延引シタ

ルトキハ九十日間ヲ限リ其ノ本俸全額ヲ給ス

第四條 養病ノ爲歸朝ノ許可ヲ得タル者ハ往返日數ヲ除キ本邦滯留九十日間ハ其ノ本邦全額ヲ給ス九十日ヲ超エ出發スルコトヲ得サルトキハ其ノ本俸半額ヲ減ス

附則

第五條 本令ハ貿易事務官、公使館書記生及領事官書記生ニモ適用ス

第六條 本令ハ明治二十六年十一月一日ヨリ施行ス

明治二十四年勅令第七十四號外交官、領事官、貿易事務官、公使館書記生及領事官書記生賜暇歸朝規則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○通譯官及通譯生ニ外交官領事官赴任及賜暇規則適用方 明治二十八年六月勅令第百八十四號

朕通譯官及通譯生ニ外交官領事官赴任及賜暇規則ヲ適用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十六年勅令第百七十二號外交官領事官赴任及賜暇規則ハ公使館一等通譯官、公使館二等

通譯官、公使館通譯生、領事官通譯生、貿易事務館通譯生ニモ之ヲ適用ス

○領事官ノ職務明治三十二年三月法律第七十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル領事官ノ職務ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 條約中特ニ領事官ノ權限ニ屬セシメタル事項ニ關シテハ法律ニ抵觸セサル範圍ニ於テ命令ヲ以テ其ノ制限ヲ設クルコトヲ得

第二條 條約中領事官ノ職務ニ關シテ法律ノ規定ヲ要スル事項ニ付法律ノ規定ナキトキハ命令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第三條 領事官其ノ他本法ニ依リテ職務ヲ行フ者ハ法令及條約ノ規定ニ從テ其ノ職務ヲ行フヘシ但シ國際法ニ基因スル慣例又ハ駐在地特別ノ慣例ニ從フコトヲ得

前項ニ依リ難キトキハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條 外國ニ於ケル施行期日ニ定メサル法律ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ施行期日ヲ定ムルコトヲ得

第五條 領事官ノ職務ニ關スル管轄區域ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 條約又ハ慣例ニ因リ領事裁判權ヲ行フコトヲ得ル領事官ハ第七條乃至第十七條ノ規定ニ從ヒ訴訟事件並非訟事件ニ關スル事務及登記事務ヲ行フ

第七條 前條ノ事務ニ關シテハ領事官ハ法令、條約及慣例ニ抵觸セサル範圍ニ於テ地方裁判所及區

裁判所ノ職務ヲ行フ

第八條 領事官ハ重罪ノ公判ヲ爲スコトヲ得ス

輕罪ノ裁判ニ付テハ豫審ヲ須弁ス

第九條 領事官ノ豫審ヲ爲シタル重罪ノ公判ハ長崎地方裁判所ヲ管轄ス

第十條 領事官ノ管轄ニ屬スル刑ニ關シテ國交上必要アルトキハ外務大臣ハ其ノ事件ヲ管轄スヘカラサルコトヲ領事官ニ命シ且被告人ヲ內國ノ監獄ニ移送セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ司法大臣ハ其ノ事件地方裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ長崎控訴院檢察事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ控訴院ニ爲サシメ其ノ事件區裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ長崎地方裁判所檢察事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ地方裁判所ニ爲サシムヘシ

第十一條 前條ノ申請及裁判ニ關シテハ刑事訴訟法第二十三條ノ規定ヲ準用ス

第十二條 地方裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シテ領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ長崎控訴院之ヲ管轄ス

區裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シテ領事官ノ爲シタル裁判ニ屬スル控訴又ハ抗告ハ長崎地方裁判所之ヲ管轄ス

第十三條 領事官ハ領事館員又ハ警察官ヲシテ檢察事又ハ裁判所書記ノ職務ヲ行ハシムヘシ

裁判所書記ノ職務ヲ行ハシムヘキ前項ノ官吏ナキトキハ領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在留スル帝國臣民中ヨリ選任シテ臨時其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十四條 領事官ハ領事館員又ハ警察官吏ヲシテ執達吏ノ職務ヲ行ハシムヘシ  
前項ノ職務ヲ行フ者ハ自己ノ責任ヲ以テ自ラ適當ト認ムル者ニ臨時其ノ職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

第十五條 法令ノ規定ニ依ルモノヲ除ク外訴訟代理人又ハ辯護人タラントスル者ハ領事官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第十六條 通常裁判所ニ於ケル忌避又ハ回避ニ關スル規定ハ領事官其ノ他本法ニ依リテ職務ヲ行フ者ニハ之ヲ適用セス

第十七條 第十三條及第十四條ニ掲ケタル職務ヲ行フ者ナキトキハ外務大臣ハ同一國內ノ他ノ領事館官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十八條 領事館ノ設置ナキ地ニ限り命令ノ規定ヲ以テ本法其ノ他ノ法律中領事官ノ取扱フヘキ事項ハ領事官ニアラサル者ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十九條 本法其ノ他ノ法律中單ニ領事又ハ領事官ト稱スルハ名譽領事ニアラサル領事及其ノ代理ヲ謂フ

第二十條 本法施行ノ爲必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 清國並朝鮮國駐在領事裁判規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○領事官職務規則 明治三十三年四月  
勅令第百五十三號  
朕親密顧問ノ諮詢ヲ經テ領事官職務規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

領事官職務規則

第一條 領事官ハ外務大臣ノ指揮監督及其ノ駐在國ニ在ル帝國公使ノ監督ヲ受クヘシ

外務大臣カ特定ノ事項ニ關シテ領事官ヲ指揮スルコトヲ其ノ駐在國ニ在ル帝國公使ニ命シタルトキハ領事官ハ該事項ニ關シテ帝國公使ノ指揮ヲ受クヘシ

第二條 領事官ハ駐在國ニ於テ日本臣民ヲ保護シ帝國ノ通商航海ニ關スル利益ヲ維持増進スヘシ

第三條 領事官ハ駐在國カ條約又ハ國際法ニ依リ帝國ニ對シテ負フ所ノ義務ノ遵守ヲ視察シ日本臣民ノ利益又ハ帝國ノ通商航海ニ關スル利益ヲ害セラレタル場合ニ於テハ駐在國ノ官廳ニ對シテ必要ナル措置ヲ爲スヘシ

第四條 領事官ハ其ノ駐在國ニ在ル帝國軍艦ニ對シテ必要ナル幫助ヲ爲スヘシ

第五條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣民ノ救助又ハ取締ノ爲必要ナル措置ヲ爲スヘシ  
領事官ハ救助又ハ取締ノ爲必要ナルトキハ日本臣民ノ送還ヲ日本船舶ノ船長ニ命スルコトヲ得

第六條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ於テ日本臣民ノ財産又ハ遺産ノ保護管理ニ必要ナル措置ヲ爲スヘシ

第七條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣民ノ名簿ヲ備ヘ居住及身分ニ關スル届出ヲ受理シ届出又ハ其ノ他ノ事實ニ依リテ確知シタル日本臣民ノ居住及身分ニ關スル事項ヲ該名簿ニ登錄スヘシ

- 第八條 領事官ハ其ノ駐在國ニ在ル日本船舶及其ノ船員ニ對シテ必要ナル保護及取締ヲ爲スヘシ
- 第九條 領事官ハ帝國軍艦其ノ他日本船舶ノ乘組員カ脱船シタルトキハ艦長又ハ船長ノ請求ニ因リ脱船者ヲ復役セシムル爲必要ナル措置ヲ爲スヘシ
- 第十條 領事官ハ其ノ駐在國ノ官廳又ハ公署ノ發シタル文書ノ真正ヲ證明スルコトヲ得
- 第十一條 領事官ハ日本臣民又ハ外國人ノ申請ニ因リ其ノ職務上取扱フヘキ事項及職務ヲ行フ際知リ得タル事實ノ認證ヲ爲スコトヲ得
- 第十二條 領事官ハ日本臣民ニ旅券ヲ付與シ又ハ其ノ旅券ヲ查證スルコトヲ得
- 領事官ハ日本ニ旅行セムトスル外國人ノ申請ニ因リ其ノ旅券ヲ查證スルコトヲ得
- 第十三條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ於テ日本臣民又ハ外國人ノ申請ニ因リ日本臣民又ハ日本ニ在ル土地ニ關スル法律行爲ニ付公證ヲ爲スコトヲ得
- 第十四條 領事官ハ日本臣民相互ノ間又ハ日本臣民及外國人ノ間ニ生シタル民事上ノ爭論ニ關シ和解ヲ爲サシメ又ハ仲裁ヲ爲スコトヲ得
- 第十五條 條約又ハ慣例ニ依リ領事裁判權ヲ行フコトヲ得ル領事官ハ其ノ所管事務ニ付命令ヲ發スルコトヲ得
- 領事官ノ發スル命令ニハ十圓以内ノ罰金又ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得
- 領事官ノ發スル命令ノ公布ニ關スル規程ハ領事官之ヲ定ム
- 第十六條 外務大臣ハ領事官ノ發シタル命令ニシテ條約若ハ法令ニ違反シ又ハ公益ニ害アリト

- 認ムルトキハ其ノ取消ヲ命スルコトヲ得
- 領事官ノ駐在國ニ在ル帝國公使ハ領事官ノ發シタル命令ニシテ條約若ハ法令ニ違反シ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ其ノ施行停止ヲ命スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ外務大臣ニ報告スルコトヲ要ス
- 前項ノ施行停止ハ三箇月ヲ經過スルトキハ其ノ效ヲ失フ
- 第十七條 領事官ハ其ノ職務上必要アルトキハ帝國軍艦ニ幫助ヲ求ムルコトヲ得
- 第十八條 領事官ハ其ノ職務上ノ事項ニ付外務大臣ニ報告スヘシ
- 第十九條 領事官ハ豫メ外務大臣ノ認可ヲ得タル場合ノ外帝國ノ他ノ官廳又ハ公署ト直接通信ヲ爲スコトヲ得ス
- 第二十條 領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ニ關スル規程ハ外務大臣之ヲ定ム
- 第二十一條 名譽領事及貿易事務官ハ外務大臣ノ訓令ニ基キ本令其ノ他領事官ノ職務ニ關スル法令及條約ノ規定ニ準依シテ其ノ職務ヲ行フ
- 第二十二條 本令ノ施行期日ハ外務大臣之ヲ定ム
- 第二十三條 日本帝國領事規則及明治二十三年勅令第二百五十八號ハ之ヲ廢止ス

○内務省

沿革略記

明治六年十一月第三百七十五號ヲ以テ内務省ヲ設ク○七年一月第一號告示ヲ以テ内務省中事務、警察、刑務、地籍、土木、地租ノ六寮及測量司ヲ置キ同時ニ大藏省中戶籍、土木、鑛務三寮及地籍司ヲ置キ、地籍ノ事務ハ



部省中音樂歌舞ノ事務工部省中測量司司法省中警察官ノ事務ヲ引渡シシム○同年三月十日内務省職制并事務章程ヲ定メ職官ヲ少輔大少輔大少輔中少輔ト爲シ新ニ記帳庶務ノ二課ヲ設ク○同年同月廿二日土木寮ノ事務ヲ整理シ工部省ニ屬ス○同年同月第三十二號達ヲ以テ土木寮並測量司中務員改置ニ等級ヲ定ム○同年七月十二日地球儀事務内務省ニ於テ管理セシム○同年同月第九十二號達ヲ以テ測量司ヲ廢シ事務地理寮ニ屬ス是日正院地誌課ヲ地理寮ニ併ス○同年同月第十三號達ヲ以テ地理寮ニ大少技師、大中少技師、技手、技生ノ藝員ヲ置キ等級ヲ定ム○同年三月第三十八號達ヲ以テ内務大藏兩省間ニ地租改正事務局ヲ置キ地租改正ニ關スル一切ノ事務ヲ管理セシム○同年同月第四十三號達ヲ以テ正院博覽會事務局ヲ博物館ト改稱シ内務省ニ屬ス○同年六月二十八日交通部管理衛生、准刻ノ事務内務省ニ屬ス是ヨリ先キ七月三日交通部第十一號布告ヲ以テ東京ニ同場ヲ立テ八月二日同省第二號布告ヲ以テ京都ニ同場ヲ立テ同三月同省第六號布告ヲ以テ大阪同場ヲ立ツ○同年九月第十六號達ヲ以テ地理寮中地誌課ノ正院地誌局ニ併ス○同年同月第四十七號布告ヲ以テ内務省中圖書寮ヲ置ク○同年十二月第十七號達ヲ以テ内務省職制并事務章程改定ニ新ニ權大少技師ヲ置ク○九年二月廿四日交通部管理衛生事務内務省ニ屬ス○同年四月第五十二號布告ヲ以テ戸籍、警察、圖書ノ三寮ヲ廢ス○九年五月内務省第七十五十二號達ヲ以テ内務省、戶籍警察、圖書、博物、庶務ノ六局及會計性復ノ二課ヲ改置ス○同年同月内務省第七十六十二號達ヲ以テ勸商局ヲ置ク○同年六月内務省第七十二號達ヲ以テ同場試驗掛名補給ヲ定ム○同年八月内務省第九十三號達ヲ以テ授産局ヲ置ク○同年同月内務省甲第三十二號布告ヲ以テ京都同場試驗掛名補給長崎、同場試驗掛名補給長崎、同場試驗掛名補給長崎ヲ以テ授産局并東京同場試驗掛名補給事務内務省ニ屬ス○同年同月第三號達ヲ以テ各省中諸寮及正權大少技師以下ヲ廢シ更ニ正權大少技師官屬一第ヨリト等ニ至ルヲ置ク○同年同月第四號達ヲ以テ文官四等以下等級改メ官等ヲ十七等ニ分ツ○同年同月内務省第七十二號達ヲ以テ勸農、醫務、地理、土木、社寮、會計ノ七局ヲ置キ警備局及警備課ヲ廢ス○同年同月第十五號達ヲ以テ内務省中二大警備正權中少警備、大中少警備、警備課、巡査及警備課ヲ置キ官等ヲ定ム○同年十一月第八十三號達ヲ以テ警備ノ官等ヲ改正ス○同年十二月第九十八號達ヲ以テ修史館地誌課ヲ地誌局ニ併ス○十一年二月第六號達ヲ以テ内務省中陸軍事務官内省ニ屬ス○同年四月第十二號達ヲ以テ大警備以下二等警備補ヲ廢シ一等二等警備補ニ正權大中少警備、警備課及警備課補ヲ置ク○同年九月内務省第七十九號達ヲ以テ取調局ヲ置ク○同年十二月内務省第七十三號達ヲ以テ勸商局ヲ廢ス○十二年四月第十七號達ヲ以テ集治監三三等守長以下ヲ廢置ス○同年五月内務省第七十一號達ヲ以テ山林直轄セシム○同年七月内務省第七十八號達ヲ以テ監獄局ヲ置ク○同年同月二十二日無號達ヲ以テ内務省中二中央衛生會ヲ開ク○同年十二月第五十四號達ヲ以テ中央衛生會職制並事務章程ヲ定ム○十三年三月第二十一號達ヲ以テ内務省中陸軍總監、醫務官、警備官、警備課、警備課補、警備課補等ノ職官官等ヲ定ム○同年四月第二十四號達ヲ以テ警察官職制ヲ定ム○同年十二月第六十號達ヲ以テ職制并事務章程改定シ内局及警備、勸農、醫務、地理、戶籍、社寮、土木、衛生、圖書、博物、會計、庶務、取調、山林、監獄ノ十五局ト爲シ職官ヲ少輔、大少輔、正權大少技師官并屬ト爲ス○十四年一月第三號達ヲ以

テ内務省中警備官ヲ廢シ警備局ヲ特務局ト改稱ス○同年三月第十四號達ヲ以テ集治監典獄以下官等俸給ヲ改メ尋テ第十九號達ヲ以テ職制ヲ定ム○同年四月第二十六號達ヲ以テ山林、博物、勸農、醫務ノ四局中勸農ノ管理ニ屬ス○同年六月第五十九號達ヲ以テ地租改正事務局ヲ廢シ地租改正事務大藏省ノ管理ニ附ス○同年七月内務省甲第六號布告ヲ以テ長崎同場試驗掛名補給長崎、同場試驗掛名補給長崎ヲ以テ石狩國樺戸郡ニ集治監ヲ置キ内務省ニ直轄セシム○同年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ中務章程ヲ廢シ省中事務章程通則ヲ定ム○十五年六月第三十六號達ヲ以テ石狩國樺戸郡ニ集治監ヲ設置シ内務省ニ直轄セシム○十六年三月第十二號達ヲ以テ筑前國三池郡ニ集治監ヲ設ク○同年五月第二十號達ヲ以テ技術官職制ヲ定ム○十七年一月内務省第七十五號ヲ以テ取調局ヲ第六號ヲ以テ登記法取調局ヲ廢ス○同年七月第六十二號達ヲ以テ兵庫ニ假置監ヲ設置シ内務省ノ直轄トシ東京宮城三池ノ三集治監中ニ假置監ヲ附設ス○同年同月第六十三號達ヲ以テ假置監ニ正副典獄、書記、看守長、看守、置キ官等俸給及職制ハ十四年第十四號達ニ依ラシム○十八年十二月第七十號達ヲ以テ各省中警備課ノ職制ヲ廢シ更ニ内務大田ヲ置ク○十九年二月勸令第二號ヲ以テ官制ヲ定ム○同年七月内務省令第七十二號ヲ以テ土木監督官制ヲ定ム○同年十一月勸令第六十九號ヲ以テ中央衛生會官制ヲ定ム○同年十二月勸令第七十七號ヲ以テ集治監官制ヲ定ム○二十年五月勸令第十七號ヲ以テ衛生試驗所官制ヲ定ム○同年八月勸令第四十一號ヲ以テ氣象測候所條例ヲ定ム之ヲ監督セシム○同年十二月勸令第六十八號ヲ以テ造神宮使廳官制ヲ定ム○二十一年勸令第八十一號ヲ以テ天象觀測及積雪觀測ノ事務ヲ交通部ニ屬ス○二十二年五月勸令第六十二號ヲ以テ醫術試驗委員組織條例ヲ定ム○二十三年三月勸令第四十九號ヲ以テ臨時建築局ヲ廢シ其事務ヲ内務省土木局ニ屬ス○同年六月勸令第五十四號ヲ以テ中央衛生會官制ヲ改正ス○同年八月勸令第五十三號ヲ以テ衛生試驗所官制ヲ改正ス○同年同月勸令第五十四號ヲ以テ中央衛生會官制ヲ改正ス○同年同月勸令第五十七號ヲ以テ土木監督官制ヲ改正ス○同年同月勸令第五十六號ヲ以テ中央衛生會官制ヲ定ム○同年同月勸令第五十九號ヲ以テ官制ヲ定ム○同年九月勸令第九十八號ヲ以テ鐵道監官制中ヲ改正シ同職ヲ遷省ノ管理トス○二十六年十月勸令第二百二十七號ヲ以テ内務省官制ヲ改正ス○同年同月勸令第二百二十八號ヲ以テ臨時建築局員ヲ内務省中ニ置キ土木局ニ屬セシム○同年同月勸令第三百三十號ヲ以テ集治監假置監官制ヲ改正ス○同年同月勸令第三百三十二號ヲ以テ中央氣象臺官制中ヲ改正シ交通部ノ管理ニ移ス○二十七年一月勸令第五號ヲ以テ神宮衛生長及衛生ニ關スル件ヲ定ム○同年二月勸令第二十二號ヲ以テ府社縣社以下神社ノ職制ヲ定ム○同年六月勸令第六十六號ヲ以テ土木技師官制ヲ置ク○同年六月勸令第七十四號ヲ以テ獎勵勸勵試驗委員組織條例ヲ定ム○同年七月勸令第八十四號ヲ以テ河川道路港灣測量ニ關スル職官ヲ定ム○同年八月勸令第八十五號ヲ以テ臨時土木工事ニ關スル職官ヲ定ム○同年同月勸令第八十六號ヲ以テ土木監督官制ヲ改正ス○同年八月勸令第九十五號ヲ以テ土木會規則ヲ定ム○二十八年四月勸令第四十三號ヲ以テ内務省三臨時檢校局ヲ置ク○同年同月勸令第五十七號ヲ

以テ中央衛生官制ヲ改正ス○同年七月勅令第九十八號ヲ以テ集積器假留監官制ヲ改正ス○廿九年三月勅令第九十四號ヲ以テ血清濾過院官制ヲ定ム○同年同月勅令第九十五號ヲ以テ痘苗製造所官制ヲ定ム○同年同月勅令第九十八號ヲ以テ醫術開業試驗委員官制ヲ定ム○二十三年勅令第六十二號醫術開業試驗委員組織權限ヲ廢止ス○同年同月勅令第九十九號ヲ以テ藥劑師試驗委員官制ヲ定ム○二十七年勅令第七十四號藥劑師試驗委員組織權限ヲ廢止ス○同年同月勅令第四百七十七號ヲ以テ古社寺保存會規則ヲ定ム○內務大臣ノ監督ニ屬ス○同年五月勅令第二百二十四號ヲ以テ血清濾過院ニ附屬シ置ク  
○同年十一月勅令第三百七十一號ヲ以テ神宮司官制ヲ制定ス○三十年六月勅令第四百七十一號ヲ以テ臨時檢疫局官制ヲ改正ス○同年同月勅令第四百八十八號ヲ以テ土木監督官ニ技監及事務官ヲ置ク○同年十月勅令第四百六號ヲ以テ古社寺保存會規則ヲ改正ス○三十一年二月勅令第二十四號ヲ以テ警察事務局ヲ內閣所屬ヨリ內務省ニ移ス○同年六月勅令第四百二號ヲ以テ神宮使廳官制ヲ改正ス○同年八月勅令第八十九號ヲ以テ神宮衛士長衛士副長衛士ニ關スル件ヲ制定シ○七年勅令第五號ヲ廢止ス○同年十月勅令第二百五十九號ヲ以テ內務省官制ヲ改正シ警察事務局官制ヲ廢止ス○同年同月勅令第二百六十號ヲ以テ土木監督官及事務官設置ノ件ヲ廢止ス○同年同月勅令第二百六十八號ヲ以テ臨時檢疫職員ヲ置キ臨時檢疫局官制ヲ廢止ス○三十二年三月勅令第九十三號ヲ以テ傳染病研究所官制ヲ定ム○同年四月勅令第二百二十九號ヲ以テ警察監獄學校官制ヲ定ム○三十二年三月勅令第九十三號ヲ以テ傳染病研究所官制ヲ定ム○同年四月勅令第二百五十四號ヲ以テ警察監獄學校官制ヲ定ム○三十二年三月勅令第七十五號ヲ以テ臨時海陸檢疫所官制ヲ定ム○同年同月勅令第八十號ヲ以テ日本藥局方調查會規則ヲ定ム○同年四月勅令第四百六十八號ヲ以テ集積器假留監官制ヲ定ム○法大臣ノ監督ニ屬ス○同年六月勅令第二百六十二號ヲ以テ港灣關查會規則ヲ定ム○同年同月勅令第二百六十五號ヲ以テ臨時檢疫局官制ヲ定ム

○內務省官制明治三十一年十月勅令第二百五十九號

朕內務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

內務省官制

第一條 內務大臣ハ神社、地方行政、議員選舉、警察、土木、衛生、地理、宗教、出版、著作權、賑恤及救濟

ニ關スル事務ヲ管理シ臺灣總督、警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ監督ス(三十三年勅令第六十三號及第三百六十六號ヲ以テ改正)

第二條 總務局ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外褒賞、臺灣及北海道ニ關スル事務ヲ掌ル(三十三年勅令第九十一號ヲ以テ改正)

テ條中改正

第三條 內務省專任參事官ハ四人專任書記官ハ十人ヲ以テ定員トス(全)

第四條 內務省ニ左ノ六局ヲ置ク(三十三年勅令第六十三號ヲ以テ六局ヲ七局ニ改メ神社局ヲ加ヘ社寺局ヲ宗)

神社局

地方局

警保局

土木局

衛生局

宗教局

第四條ノ二 神社局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(三十三年勅令第六十三號ヲ以テ追加)

一 神宮、官國幣社、府縣鄉村社、招魂社其ノ他總テ神社ニ關スル事項

二 神官及神職ニ關スル事項

第五條 地方局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 議員選舉ニ關スル事項

二 府縣會、府縣經濟其ノ他總テ府縣行政ニ關スル事項

三 郡會、郡經濟其ノ他總テ郡ノ行政ニ關スル事項

- 四 市町村會公共組合會及市町村公共組合ノ經濟其ノ他總テ市町村公共組合ノ行政ニ關スル事項  
(三十三勅令第九十號ヲ以テ本號刪除)
- 五 賑恤及救濟ニ關スル事項
- 六 府縣立以下ノ貧院、盲啞院、癡癲院及育兒院其ノ他慈惠ノ用ニ供スル營造物ニ關スル事項
- 七 徵兵及徵發ニ關スル事項
- 第六條 警保局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(三十三勅令第六十三號ヲ以テ第三號中ヲ改正ス)
  - 一 行政警察ニ關スル事項
  - 二 高等警察ニ關スル事項
  - 三 圖書出版及著作權ニ關スル事項
- 第七條 土木局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 本省直轄ノ土木工事ニ關スル事項
  - 二 府縣經營ノ土木工事其ノ他公共ノ土木工事ニ關スル事項
  - 三 產轉工費及府縣工費補助ノ調査ニ關スル事項
  - 四 水面埋立ニ關スル事項
  - 五 土地收用ニ關スル事項
- 第八條 衛生局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 傳染病及地方病ノ豫防、種痘其ノ他總テ公衆衛生ニ關スル事項

- 二 檢疫停船ニ關スル事項
- 三 醫師及藥劑師ノ業務並藥品賣藥取締ニ關スル事項
- 四 衛生會及地方病院ニ關スル事項
- 第九條 宗教局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(三十三勅令第六十三號ヲ以テ改正)
  - 一 神佛各派、寺院、宗教ノ用ニ供スル堂宇其ノ他總テ宗教ニ關スル事項
  - 二 僧侶及教師ニ關スル事項
- 第十條 (三十三勅令第六十六號ヲ以テ刪除)
- 第十一條 (全)
- 第十二條 內務省ニ專任技師五人ヲ置ク内一人ヲ勅任トス  
內務省ニ專任技師十六人ヲ置ク(三十三勅令第九十一號ヲ以テ定員ヲ改正ス)  
內務省屬ハ二百九人ヲ以テ定員トス(三十三勅令第六十三號第六十六號第九十二號及第九十二號ヲ以テ定員ヲ改正ス)
- 附則
- 第十三條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス  
臺灣事務局官制及明治二十七年勅令第六十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○土木監督官制(明治二十七年七月勅令第八十六號)

朕土木監督官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土木監督官制

第一條 地方土木事業監督ノ爲メ府縣ヲ分班シテ七土木監督區トス其ノ區域左ノ如シ

第一區

東京府 神奈川縣 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣 山梨縣

第二區

宮城縣 福島縣 巖手縣 青森縣 山形縣 秋田縣

第三區

新潟縣 長野縣 石川縣 富山縣

第四區

三重縣 愛知縣 靜岡縣 岐阜縣 福井縣

第五區

京都府 大坂府 兵庫縣 奈良縣 滋賀縣 和歌山縣 德島縣 高知縣

第六區

鳥取縣 島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 香川縣 愛媛縣

第七區

長崎縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣

第二條 各土木監督區ニ土木監督ヲ置ク其ノ位置ハ内務大臣之ヲ定ム

第三條 各土木監督署ニ左ノ職員ヲ置ク

署長

技師

技手

書記

第四條 署長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署務ヲ管理シ所屬職員ヲ指揮ス

第五條 署長ハ區内地方土木事業ヲ監視シ利害得失ヲ查覈シ内務大臣ニ報告ス

第六條 署長ハ第一條ニ記載シタル事務ノ外内務大臣ノ命ヲ承ケ内務省直轄ノ土木事業ヲ計畫シ及

其ノ施行ヲ管理ス

第七條 技師ハ各署ヲ通シ二十一人ヲ以テ定員トシ内四人以内ヲ勅任トス署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ

分掌シ並第六條ノ事務ヲ補助ス(三十一一年勅令第二百六十號三十三年勅令第六十號ヲ以テ改正)

土木監督署ニ勅任技師ヲ置クトキハ勅任技師ヲ以テ署長トス

第八條 技手ハ各署ヲ通シ二十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ従事ス(上全)

第九條 書記ハ判任トシ各署ヲ通シ二十一人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス(上全)

第十條 直轄土木事業ノ管理ハ第一條ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

附則

第三十六十二  
第十一條 本令ハ明治二十七年十月一日ヨリ施行ス

○土木會規則明治二十七年八月勅令第五百五十四號

朕土木會規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土木會規則

第一條 土木會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ治水修路ニ關スル重要事項ニ付内務大臣ノ諮詢ニ應シ意見ヲ開申ス(三十三年勅令第三百十七號ヲ以テ條中刪除)

第二條 土木會ハ土木ニ關スル事項ニ付主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 土木會ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 土木會ハ會長一人委員二十人以上以内ヲ以テ之ヲ組織ス

内務省高等官三人、陸軍省及參謀本部高等官二人、遞信省高等官二人、海軍省農商務省高等官及工

科大學教授各一人ハ委員中ニ加フヘキモノトス

土木監督署長ハ定員ノ外委員トシテ會議ニ列席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第五條 特別ノ事件ヲ審議スル爲メ臨時必要ノ場合ニ於テ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第六條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

高等官ノ内ヨリ命スヘキ委員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ其ノ他ノ委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請

ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條 會長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ會議ノ決議ヲ内務大臣及主任各省大臣ニ具申ス

第八條 會長事故アルトキハ内務大臣ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第九條 土木會ニ幹事一人ヲ置キ内務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條 會長、委員及幹事ニハ一箇年五百圓以内臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應シ其ノ都度相當ノ手

當ヲ給スルコトヲ得

第十一條 土木會ニ書記ヲ置ク會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

書記ハ内務屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 書記ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附則

第十三條 從前ノ會長及委員ハ別ニ辭令ヲ用非ス本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

○臨時土木工事ニ關スル職員明治二十七年七月勅令第八十五號

朕内務省直轄臨時土木工事ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内務省直轄ノ臨時土木工事ヲ施行セシムル爲メ土木監督署ニ臨時左ノ職員ヲ置ク(二十九年勅令第六十四號三十一年勅令第二百

六十二號三十三年勅令第五  
十號ヲ以テ定員ヲ改正ス

技師 二十三人

技手 九十八人

書記 二十六人 判任

本令ハ明治二十七年十月一日ヨリ施行ス

○臨時建築職員ヲ置ク明治二十六年十月  
勅令第百二十八號

朕臨時建築職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時建築ノ事務ヲ掌理セシムル爲内務省ニ左ノ職員ヲ置キ土木局ニ屬セシム(三十一年勅令第百六十  
三號ヲ以テ定員ヲ改正)

技師 一人

技手 五人

附則

本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○河川道路港灣調査ニ關スル職員明治二十七年七月  
勅令第百八十四號

朕河川道路港灣調査ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

河川道路及港灣ニ關スル事業ノ臨時調査ヲ爲サシムル爲メ内務省及土木監督署ニ臨時左ノ職員ヲ置

内務省

技師 一人(三十一年勅令第百六十一  
號ヲ以テ二人ヲ一人ニ改ム)

土木監督署

技師 七人(三十一年勅令第百六十一號三十三年  
勅令第六十一號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

技手 二十一人(上)

本令ハ明治二十七年十月一日ヨリ施行ス

○港灣調査會規則明治三十三年六月  
勅令第百六十二號

朕港灣調査會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

港灣調査會規則

第一條 港灣調査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ港灣制度ニ關スル調査ヲ爲シ及港灣ニ關スル重要事項

ニ付關係各省大臣ノ諮詢ニ應シ意見ヲ開申ス

第二條 港灣調査會ハ港灣ニ關スル事項ニ付關係各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 港灣調査會ノ議事及會務整理ニ關スル規則ハ內務大臣之ヲ定ム

第四條 港灣調査會ハ會長一人委員十六人ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要ノ場合ニ於テハ臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第五條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ內務省高等官三人大藏省、農商務省、逓信省高等官各二人外務省、陸軍省、參謀本部、海軍省、海軍軍令部、水陸部高等官及東京帝國大學工科大學教授各一人ヲ以テ之ニ充ツ

土木監督署長ハ定員ノ外委員トシテ調査ヲ爲シ又會議ニ列席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第六條 會長ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

委員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ臨時委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條 會長ハ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ內務大臣ニ具申ス但シ其ノ議事ノ關係各省大臣ノ諮詢ニ係ルトキハ其ノ決議ヲ關係各省大臣ニ具申シ及之ヲ內務大臣ニ報告スヘシ

會長事故アルトキハ內務大臣ノ指名シタル委員其ノ事務ヲ代理ス

第八條 港灣調査會ニ幹事一人ヲ置キ內務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第九條 港灣調査會ニ書記若干人ヲ置キ內務屬ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○警察監獄學校官制明治三十二年四月勅令第五百四十四號

朕警察監獄學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警察監獄學校官制

第一條 警察監獄學校ニ左ノ職員ヲ置ク(三十三年勅令第五百十五號ヲ以テ通譯官ヲ加フ)

- 校長 一人 勅任
- 教授 專任五人 奏任
- 幹事 專任一人 奏任
- 通譯官 專任三人 奏任
- 書記 專任四人 判任

第二條 校長ハ內務、次官ヲシテ之ヲ兼ネシメ內務大臣ノ指揮ヲ承ケ校中一切ノ事務ヲ統理ス

第三條 教授ハ校長ノ指揮ヲ承ケ教授ノ事ヲ掌ル

第四條 幹事ハ校長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計及生徒監督ノ事ヲ掌ル

第四條ノ二 通譯官ハ校長ノ指揮ヲ承ケ通譯及翻譯ノ事ヲ掌ル(三十三年勅令第五百十五號ヲ以テ本條追加)

第五條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

○

○古社寺保存會規則明治三十年十月  
勅令第四百六號

朕古社寺保存會規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

古社寺保存會規則

第一條 古社寺保存會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ古社寺保存法第二條及第四條ニ關スル事項其ノ他古

社寺保存ニ關スル事項ニ付内務大臣ノ諮詢ニ應シ意見ヲ開申ス

第二條 古社寺保存會ハ古社寺保存ニ關スル事項ニ付内務大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 古社寺保存會ハ會務整理ノ爲規則ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 古社寺保存會ハ會長一人委員二十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 特別ノ事件ヲ審議スル爲ニ臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第六條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 委員及臨時委員ハ官吏又ハ學識若ハ經驗アル者ノ中ニ就キ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第八條 古社寺保存會ニ幹事一人ヲ置キ内務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第九條 會長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ内務大臣ニ具申ス

第十條 會長事故アル下キハ内務大臣ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第十一條 會長委員及幹事ニハ一箇年五百圓以内臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十二條 古社寺保存會ニ書記ヲ置ク會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

書記ハ内務屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十三條 書記ニハ事務ノ繁閑ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十四條 内務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ委員又ハ其ノ他ノ者ヲシテ古社寺保存ニ關スル諸般ノ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十八

第二十八

○神宮司廳官制明治二十九年十一月  
勅令第三百七十一號

朕神宮司廳官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

神宮司廳官制 一 人

第一條 神宮司廳ニ左ノ職員ヲ置ク



祭主	一人
宮司	一人
權宮司	一人
禰宜	三人
權禰宜	七人
主典	二十人
宮掌	四十人

第二條 祭主ハ親任トシ皇族ヲ以テ之ニ任ス大御手代トシテ奉齋シ祭事ヲ管理ス但公爵ヲ以テ之ニ任スルコトアルヘシ

第三條 宮司ハ勅任又ハ奏任トス祭主ノ命ヲ承ケテ祭祀ニ奉仕シ諄辭ヲ奏讀シ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケテ所部ノ職員ヲ統督シ廳中ノ事務ヲ管理ス

第四條 宮司ハ廳中ノ事務ヲ分掌スル爲メ課ヲ置キ及庶務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第五條 權宮司ハ奏任トス宮司ヲ佐ケテ祭祀ニ奉仕シ廳中ノ事務ヲ整理ス

第六條 禰宜ハ奏任トス宮司又ハ權宮司ノ命ヲ承ケテ神前ニ祗候シ神膳ヲ供撤シ殿内一切ノ事ヲ辨シ臨時祈禱祓除ヲ爲シ廳中ノ庶務ニ從事ス

第七條 權禰宜ハ奏任トス宮司又ハ權宮司ノ命ヲ承ケテ禰宜ヲ佐ク

第八條 主典ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケテ神饌ヲ調理シ大麻及楮ヲ製造シ其ノ他祭事及庶務ニ從事ス

第九條 宮掌ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケテ祭事及雜務ニ從事ス

○造神宮使廳官制明治三十二年六月勅令第百二號

朕造神宮使廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 造神宮使廳ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ神宮造營及神寶裝束調進ノ事ヲ掌ル

第二條 造神宮使廳ニ左ノ職員ヲ置ク

副使
主事
技師
屬
技手

第三條 使ハ一人神宮祭主ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ廳中ノ事務ヲ管理ス

第五條 副使ハ一人内務省神社局長ヲ以テ之ニ充ツ使ノ事務ヲ佐ケ使事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス(三十三年勅令第六十四號ヲ以テ社務局ヲ神社局ニ改ム)

第六條 主事ハ二人奏任トス使、副使ノ命ヲ承ケ廳中ノ事務ヲ分掌ス

第七條 技師ハ使、副使ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事ヲ掌ル

第八條 屬ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第九條 技手ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ従事ス

○神宮衛士長衛士副長衛士ニ關スル件(明治三十一年八月勅令第八十九號)

朕神宮衛士長衛士副長衛士ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 神宮ニ左ノ職員ヲ置キ神宮警衛ノ事ヲ掌ラシム

衛士長 一人

衛士副長 二人

衛士 四十人(三十三年勅令第九十一號ヲ以テ三十八人ヲ四十人ニ改ム)

第二條 衛士長ハ官司ノ命ヲ承ケ部下ノ職員ヲ監督シ警衛事務ヲ掌理ス

第三條 衛士副長ハ衛士長ヲ佐ケ衛士長故障アルトキハ上席ノ衛士副長其ノ職務ヲ代理ス

第四條 衛士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警衛ニ従事ス

第五條 衛士長衛士副長及衛士ハ判任官ノ待遇トス

第六條 衛士長衛士副長及衛士ノ俸給、服制其ノ他服務ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム

第七條 明治二十七年勅令第五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○中央衛生會官制(明治二十八年四月勅令第五十七號)

朕中央衛生會官制ヲ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中央衛生會官制

第一條 中央衛生會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ニ就キ各省大臣ノ諮詢

ニ應ジ意見ヲ陳申ス

第二條 中央衛生會ハ各省主管事務中衛生ニ關スル事項ニ就テハ其ノ主任大臣ニ建議スルコトヲ

得

第三條 中央衛生會ハ衛生各般ノ事項ニ關シ警視總監北海道廳長官及府縣知事ニ尋問ヲ要シ或ハ臨

時會員ヲ各地方ニ派遣シテ調査檢察ヲ要スト認ムルトキハ之ヲ内務大臣ニ具申スヘシ

第四條 中央衛生會ハ議事整理ヲ爲シ規則ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 中央衛生會ハ會長一人委員二十八人以内ヲ以テ之ヲ組織ス(三十二年勅令第二百九十九號ヲ以テ各項トモ改正)

會長ハ勅任トス

委員ハ宮内省待醫局長内務省參典官内務省地方局長内務省警保局長内務省土木局長内務省衛生

局長内務省高等官三名傳染病研究所長陸軍省醫務局長陸軍獸醫監一名海軍省醫務局長東京帝國大學醫科大學長農商務省農務局長農商務省高等官一名及醫師藥學者衛生工學者若干人ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 特別ノ事件ヲ審議スル爲ニ臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第七條 委員中内務省高等官陸軍獸醫監農商務省高等官醫師藥學者衛生工學者及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス(三十二年勅令第二百九十號六號ヲ以テ次項トモ改正)

第八條 會長ハ會務ヲ總管シ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ内務大臣及主任大臣ニ具申ス

第九條 會長事故アルトキハ内務大臣ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第十條 中央衛生會ニ幹事一人ヲ置ク

幹事ハ奏任トス會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第十一條 會長及幹事ニハ俸給ヲ給セス  
會長委員及幹事ニハ一箇年五百圓以内臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應シ其ノ都度相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十二條 中央衛生會ニ書記ヲ置キ内務屬ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ議事ノ雜記及庶務ニ従事ス

第十三條 書記ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附則

第十四條 従前ノ委員ハ別ニ辭令ヲ用非ス本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

○

○衛生試驗所官制明治二十三年八月勅令第五百十五號

朕衛生試驗所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

衛生試驗所官制

第一條 東京大阪横濱ニ衛生試驗所ヲ置ク

第二條 衛生試驗所ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ衛生上試驗ニ關スル事項ヲ取扱フ所トス

第三條 各衛生試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師

(二十六年勅令第三百三十一號ヲ以テ技師試験ノ以テ創設ス)

助手

書記

第四條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所内ノ事務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス

第五條 技師ハ奏任下シ專任九人ヲ以テ定員トス各試験所ニ分屬シ所長ノ指揮ヲ承ケ試験ノ事務ヲ分掌ス(二十四年勅令第百五十五號二十六年勅令第百三十一號二十九年勅令第百六十一號三十三年勅令第百六十二號以テ條中改正)

第六條 技師ハ判任トシ專任二十三人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス(二十四年勅令第百五十五號二十六年勅令第百三十一號三十一年勅令第百六十一號三十三年勅令第百六十二號以テ條中改正)

第七條 書記ハ判任トシ專任七人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス(二十四年勅令第百五十五號二十六年勅令第百三十一號三十一年勅令第百六十一號三十三年勅令第百六十二號以テ定員ヲ改正)

第八條 各試験所事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム

○ 傳染病研究所官制明治三十二年三月勅令第九十三號

朕傳染病研究所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

傳染病研究所官制

第一條 東京ニ傳染病研究所ヲ置ク

第二條 傳染病研究所ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ傳染病其ノ他病原ノ檢索、豫防、治療方法ノ研究、豫防消毒藥治療材料ノ檢査及傳染病研究ノ方法ノ講習ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 傳染病研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

三十二年勅令第九十三號  
以テ所長ハ奏任ト爲スニトシ得

所長 一人 勅任

部長 三人 奏任

助手 三人 判任

書記 四人 判任

前項定員ノ外二十人以内ノ無給助手ヲ置クコトヲ得

第四條 所長ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

第五條 部長ハ所長ノ命ヲ承ケ研究檢査講習ヲ掌ル

第六條 助手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ研究檢査講習ニ従事ス

第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 傳染病研究所事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

○ 血清藥院官制明治二十九年三月勅令第百四號

朕血清藥院官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

血清藥院官制

第一條 東京ニ血清藥院ヲ置ク

第二條 血清藥院ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ血清製造ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 血清藥院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長 一人

技師 專任一人(三十二年勅令第二百六十六號ヲ以テ二人ヲ一人ニ改ム)

技手 專任五人

書記 專任二人(三十二年勅令第二百六十六號ヲ以テ三人ヲ二人ニ改ム)

第四條 院長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ院内ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第五條 技師ハ院長ノ指揮ヲ承ケ製造ニ關スル事務ヲ分掌ス

第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製造ニ關スル事務ニ從事ス

第七條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 血清藥院事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム

○血清藥院ニ顧問ヲ置ク(明治二十九年五月勅令第二百二十四號)

朕血清藥院ニ顧問ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

血清藥院ニ顧問一人ヲ置キ手當ヲ給スルコトヲ得(三十二年勅令第五十八號ヲ以テ改正)

顧問ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

○痘苗製造所官制(明治二十九年三月勅令第五號)

朕痘苗製造所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

痘苗製造所官制

第一條 東京大阪ニ痘苗製造所ヲ置ク

第二條 痘苗製造所ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ痘苗製造ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 各痘苗製造所ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

所長 二人

技師 專任二人

技手 專任二十二二人

書記 專任四人(三十二年勅令第二百六十七號ヲ以テ五人ヲ四人ニ改ム)

第四條 所長ハ各所一人技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所内ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第五條 技師ハ所長ノ命ヲ承ケ製造ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製造ニ關スル事務ニ従フ

第七條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス  
第八條 痘苗製造所事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム

第四〇痘苗製造所ニ顧問ヲ置ク 明治三十二年四月  
勅令第三百二十九號

腺痘苗製造所ニ顧問ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 痘苗製造所ニ顧問一人ヲ置クコトヲ得

第二條 顧問ハ所務ニ關シ意見ヲ開陳ス

第三條 顧問ハ高等官又以テ之ニ充ツ

第四條 顧問ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條 顧問ニハ手當ヲ給セシム

○醫術開業試驗官制

○醫術開業試驗委員官制 明治三十九年四月  
勅令第三百十八號

朕醫術開業試驗委員官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醫術開業試驗委員官制

第一條 醫術開業試驗委員ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ醫術開業試驗ニ關スル事務ヲ管掌ス

第二條 醫術開業試驗委員ハ委員長一人主事二人委員若干人ヲ以テ組織ス

醫術開業試驗委員長及主事ハ高等官ヲ以テ之ニ充ツ

高等官ニアラサル醫術開業試驗委員ノ待遇ハ奏任トス

第三條 醫術開業試驗委員長主事委員及附屬病院長ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

(三十二年勅令第九十二號  
ヲ以テ本項及次項中追加)

醫術開業試驗委員及附屬病院長ノ任期ハ四箇年トス但滿期ノ後再任セララルコトヲ得

第四條 醫術開業試驗委員長ハ醫術開業試驗主事委員及附屬病院長ヲ監督シ其ノ事務ヲ掌理ス (三十二年勅令第九十二號  
ヲ以テ條中追加)

第五條 醫術開業試驗委員長ハ醫術開業試驗委員ノ提出シタル試験ノ成績ヲ査定シ及第シタル者ニ

及第證書ヲ付與ス

及第證書ニハ醫術開業試驗委員長署名スヘシ

第六條 醫術開業試驗委員長ハ試験了ルノ後其ノ成績及試験事務ノ要領ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

第七條 醫術開業試驗主事ハ醫術開業試驗委員長ノ指揮ヲ承ケ試験ニ關スル庶務ヲ整理ス

醫術開業試驗主事ハ醫術開業試驗委員長ノ命ヲ承ケ其ノ職務ヲ代理スルコトヲ得

第八條 醫術開業試驗委員ハ醫術開業試驗委員長ノ指揮ヲ承ケ學說試験及實地試験ヲ掌ル

第九條 醫術開業試驗委員長主事及委員ニハ事務ノ繁簡ニ從ヒ手當ヲ給ス

第十條 醫術開業試驗ニ附屬病院ヲ置ク附屬病院長ノ待遇ハ奏任トス (三十二年勅令第九  
十二號ヲ以テ改正)

附屬病院長ノ年俸ハ二千五百圓以內トス (三十三年勅令第六十三號ヲ以テ  
二千圓ヲ二千五百圓以內ニ改ム)

第十一條 附屬病院長ハ醫術開業試驗委員長ノ命ヲ承ケ病院ノ事務ヲ整理ス(三十二年勅令第九十條ヲ以テ本條追加)

第十二條 醫術開業試驗書記專任四人ヲ置ク判任トス(上全)

醫術開業試驗書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則

第十三條 従前ノ醫術開業試驗委員長ハ別ニ辭令ヲ用ヰス本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス(三十二年勅令第九十二號ヲ以テ第十一條ヲ第十三條ニ改メ以下順次繰下ク)

第十四條 明治二十二年勅令第六十二號醫術開業試驗委員組織權限ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○藥劑師試驗委員官制明治二十九年四月勅令第九十九號

朕藥劑師試驗委員官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

藥劑師試驗委員官制

- 第一條 藥劑師試驗委員ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ藥劑師試驗ニ關スル事務ヲ管掌ス
- 第二條 藥劑師試驗委員ハ委員長一人主事二人委員若干人ヲ以テ組織ス
- 藥劑師試驗委員長及主事ハ高等官ヲ以テ之ニ充ツ
- 高等官ニアラサル藥劑師試驗委員ノ待遇ハ奏任トス
- 第三條 藥劑師試驗委員長主事及委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

藥劑師試驗委員ノ任期ハ四箇年トス但滿期ノ後再任セララル、コトヲ得

第四條 藥劑師試驗委員長ハ藥劑師試驗主事及委員ヲ監督シ其ノ事務ヲ掌理ス

第五條 藥劑師試驗委員長ハ藥劑師試驗委員ノ提出シタル試驗ノ成績ヲ査定シ及第シタル者ニ及第證書ヲ付與ス

及第證書ニハ藥劑師試驗委員長署名スヘシ

第六條 藥劑師試驗委員長ハ試驗了ルノ後其ノ成績及試驗事務ノ要領ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

第七條 藥劑師試驗主事ハ藥劑師試驗委員長ノ指揮ヲ承ケ試驗ニ關スル庶務ヲ整理ス

藥劑師試驗主事ハ藥劑師試驗委員長ノ命ヲ承ケ其ノ職務ヲ代理スルコトヲ得

第八條 藥劑師試驗委員ハ藥劑師試驗委員長ノ指揮ヲ承ケ學說試驗及實地試驗ヲ掌ル

第九條 藥劑師試驗委員長主事及委員ニハ事務ノ繁簡ニ從ヒ手當ヲ給ス

第十條 藥劑師試驗書記ヲ置キ内務屬若ハ醫術開業試驗委員書記ヲ以テ之ニ充ツ(三十二年勅令第二百十號ヲ以テ本條追加)

藥劑師試驗書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

藥劑師試驗書記ニハ事務ノ繁簡ニ從ヒ手當ヲ給ス

附則

第十一條 従前ノ藥劑師試驗委員長及主事ハ別ニ辭令ヲ用ヰス本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

第十二條 明治二十七年勅令第七十四號藥劑師試驗委員組織權限ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○日本藥局方調查會官制 明治三十三年三月  
勅令第八十號

朕日本藥局方調查會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本藥局方調查會官制

- 第一條 日本藥局方調查會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ日本藥局方改正ニ關スル事項ヲ調査ス
- 第二條 日本藥局方調查會ハ會長一人委員十六人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第三條 會長及委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第四條 日本藥局方調查會ニ幹事一人ヲ置ク  
幹事ハ内務省高官ヲ以テ之ニ充ツ
- 第五條 日本藥局方調查會ニ主査委員ヲ置クコトヲ得  
主査委員ハ内務大臣委員中ヨリ之ヲ命ス
- 第六條 會長ハ會務及議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ内務大臣ニ具申ス  
會長事故アルトキハ内務大臣ノ指名シタル委員其ノ事務ヲ代理ス  
幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
- 第七條 日本藥局方調查會ハ議事規則ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 第八條 會長、委員及幹事ニハ一箇年五百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得
- 第九條 日本藥局方調查會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ  
書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 第十條 書記ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海港檢疫所官制 明治三十二年四月  
勅令第三百三十七號

朕海港檢疫所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海港檢疫所官制

- 第一條 海港檢疫所ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ海港檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二條 海港檢疫所ノ名稱及位置左ノ如シ  
  - 橫濱海港檢疫所 武藏國橫濱
  - 神戸海港檢疫所 攝津國和田岬
  - 長崎海港檢疫所 肥前國女神



門司海港檢疫所

豐前國門司(三十三年勅令第十號ヲ以テ本號追加)

前項ノ外肥前國口ノ津ニ長崎海港檢疫所ノ支所ヲ置ク

第三條 各海港檢疫所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人

海港檢疫官 專任一人 奏任

海港檢疫醫官 專任一人 奏任

海港檢疫官補 專任三人 判任

海港檢疫醫官補 專任二人 判任

海港檢疫所調劑手 專任一人 判任

海港檢疫所書記 專任二人 判任

海港檢疫所支所ニ左ノ職員ヲ置ク

支所長 三人 判任

海港檢疫官補 專任一人 判任

海港檢疫醫官補 專任二人 判任

海港檢疫所書記 專任二人 判任

第四條 所長ハ海港檢疫官ノ中ヨリ内務大臣之ヲ補ス

所長ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

支所長ハ海港檢疫官補ノ中ヨリ内務大臣之ヲ補ス

支所長ハ所長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

第五條 海港檢疫官ハ所長ノ命ヲ承ケ檢疫ヲ掌ル

第六條 海港檢疫醫官ハ所長ノ命ヲ承ケ醫務ヲ掌ル

第七條 海港檢疫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ檢疫ニ従事ス

第八條 海港檢疫醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ従事ス

第九條 海港檢疫所調劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ従事ス

第十條 海港檢疫所書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十一條 内務大臣ハ臨時必要アリト認ムルトキハ檢疫又ハ醫務ニ従事セシムル爲檢疫費豫算定額

内ニ於テ海港檢疫所又ハ支所ニ檢疫員又ハ檢疫醫員ヲ置クコトヲ得

檢疫員及檢疫醫員ハ判任ノ待遇トス

臨時檢疫局官制(明治三十三年六月)

朕臨時檢疫局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 内務省ニ臨時檢疫局ヲ置ク

臨時檢疫局ニ於テハ傳染病豫防ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二條 臨時檢疫局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁 一人  
 副總裁 一人 勅任  
 委員 十人以内  
 事務官長 一人  
 事務官 專任三人 奏任  
 技師 專任四人  
 技手 專任十人  
 書記 專任十人 判任

第三條 委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス  
 第四條 總裁ハ内務大臣ヲ以テ之ニ充ツ  
 總裁ハ局中一切ノ事務ヲ總理シ所部ノ職員ヲ指揮監督ス  
 副總裁ハ總裁ヲ輔ケ總裁事故アルトキハ之ヲ代理ス  
 第五條 委員ハ總裁及副總裁ノ命ヲ承ケ傳染病豫防ニ關スル事項ヲ審議ス  
 總裁ハ必要ト認ムルトキハ委員ヲシテ特ニ防疫事務ヲ分掌セシムルコトヲ得  
 第六條 事務官長ハ内務省衛生局長ヲ以テ之ニ充ツ  
 事務官長ハ總裁及副總裁ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌理ス  
 第七條 事務官及技師ハ總裁、副總裁及事務官長ノ指揮ヲ承ケ防疫事務其ノ他局中ノ庶務ヲ分掌ス  
 第八條 技手及書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ防疫事務其ノ他局中ノ庶務ニ従事ス  
 第九條 總裁ハ必要ト認ムルトキハ地方ニ出張所ヲ置クコトヲ得

第十條 總裁ハ事務官又ハ技師ニ就キ出張所長ヲ命シ所内ノ事務ヲ統理セシメ所員ヲ指揮監督セシム

第十一條 委員ニハ一箇月三百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十二條 出張所勤務ノ職員ニハ事務官、技師ニ在リテハ一箇月百二十圓以内、技手、書記ニ在リテハ一箇月七十五圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

○ 臨時海港檢疫所官制 明治三十三年三月勅令第七十五號  
 朕臨時海港檢疫所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時海港檢疫所官制

第一條 臨時海港檢疫所ハ臨時海港檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 臨時海港檢疫所ハ内務大臣ノ命ヲ承ケ地方長官之ヲ管理ス

第三條 臨時海港檢疫所ノ開設及附屬ハ内務大臣之ヲ告示ス

第四條 臨時海港檢疫所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人  
 臨時海港檢疫官補

臨時海港檢疫所書記

臨時海港檢疫員

臨時海港檢疫醫員

第五條 所長ハ臨時海港檢疫所所在道廳府縣ノ警部長ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

第六條 臨時海港檢疫官補及臨時海港檢疫所書記ハ道廳府縣判任官ヲ以テ之ニ充テ地方長官之ヲ命

ス

第七條 臨時海港檢疫員及臨時海港檢疫醫員ハ地方長官之ヲ命シ其ノ待遇ハ判任トス

第八條 臨時海港檢疫官補ハ所長ノ命ヲ承ケ檢疫ニ従事ス

第九條 臨時海港檢疫所書記ハ所長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十條 臨時海港檢疫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ檢疫ニ従事ス

第十一條 臨時海港檢疫醫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ従事ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

○大藏省 附會計事務局 會計官

沿革略記 明治元年二月五日會計事務局ヲ置キ職制ヲ定メ督、正權判、正權判事等ヲ置ク○同年二月某日銅會所ヲ大阪ニ  
 設ク○同年四月二十一日會計事務局ヲ廢シ會計官ヲ建テ出納、用度、運送、營繕、稅銀、貨幣、民政ノ七司ヲ管  
 ス本管ニ正副知官事、正權判官事等ヲ置キ七司ニ知司事、正權判司事ヲ置ク○同年八月二十五日南法司ヲ置ク○同年同  
 月某日租稅司ヲ置ク○同年七月二十五日銅會所ヲ改テ鑛山司ト稱ス○同年八月八日民政裁判所ヲ改テ會計局トス○二  
 年二月五日貨幣司ヲ廢シ更ニ貨幣改所ヲ東京、攝及兵庫、長崎ニ置ク○同年三月十五日南法司ヲ廢ス○同年五月八日會計  
 官職制并條例ヲ定メ造幣局及監督、租稅、出納、用度、營繕、鑛山ノ六司ヲ管ス○同年五月十六日外國官所船通商司ヲ會  
 計官ニ屬ス○同年六月二十一日通商司ヲ東京、大阪及神奈川ニ置ク○同年七月八日會計官ヲ廢シ大藏省ヲ置キ造幣寮  
 及出納、用度、租稅、營繕、鑛山、營繕ノ七司ヲ管シ本省ニ卿、大少輔、正權大少丞、大少丞等ヲ置キ寮ニ正權頭正權  
 助正權允等各司ニ正權正、正權佐等ヲ置キ職制ヲ定ム○同年八月十一日租稅、監督、通商、鑛山ノ四司ヲ民部省ニ屬ス○  
 同年同月十二日民部大藏兩省ヲ合併ス○同年同月二十日官位相當ヲ改正ス○三年五月二十日大藏省所管事務ヲ管ス○同年  
 七月十日民部大藏兩省ヲ分テ大藏省ニ出納、用度、營繕、造幣、租稅、監督ノ六司及度量衡改正掛ヲ管セシム○同年同月  
 廿二日民部省通商司ヲ大藏省ニ屬ス○同年八月九日民部大藏兩省ノ事務ヲ劃定ス是日造幣司ヲ廢トス○同年同月十  
 八日大藏省所管事務ヲ大學ニ屬ス○四年七月五日通商司ヲ廢ス○同年同月二十七日監督、用度、租稅ノ三司ヲ廢シ更ニ租稅  
 寮及勸業、統計、紙幣、戶籍、運送ノ五司ヲ置ク○同年八月十日造幣、租稅、戶籍、營繕、出納、統計、檢査、記帳、運送、  
 勸業ノ十一寮及正算司ヲ改置シ本省ニ卿、大少輔、大少丞等ヲ置キ寮ニ正權頭助等ヲ置キ司ニ正權正等ヲ置キ官制等級  
 ヲ定ム○同年同月二十三日勸業寮ヲ勸業寮ト改稱ス○同年同月二十八日各開港場市場ノ稅務ヲ管ス○同年九月十四日  
 勸業事務司ヲ司法省ニ屬ス○同年十月八日營繕寮ヲ廢シ工部省土木寮ニ合併シ大藏省ノ管轄トス○五年五月第十六號ヲ  
 以テ官等ヲ改定シ省中ニ造幣、租稅、戶籍、土木、紙幣、出納、統計、檢査、記帳、勸業、運送等ノ十一寮及正算司一  
 寮ヲ置ク○同年九月第八十四號ヲ以テ運送寮ヲ二等寮ト定ム○同年十月第三十三號ヲ以テ勸業寮及正算司ヲ廢ス○六年  
 一月八日稅關監督寮ヲ設ケ監督寮ト定ム○同年二月七日土木寮事務員等級ヲ定ム○同年七月第二十四十八號ヲ以テ勸  
 業寮ヲ置キ二等寮ト定ム○同年八月第三十二號ヲ以テ郵便取扱役ヲ置キ等級ヲ定ム○同年十月第三十五十八號ヲ以テ  
 記帳寮ヲ二等寮ト定ム○同年十一月第三百六十九號ヲ以テ郵便取扱役中管級ヲ加フ○同年十二月五日海軍省所轄橫濱  
 製鐵所ヲ大藏省ニ管轄セシム○七年一月九日戶籍、土木、運送ノ三寮及租稅寮中地理、勸業ノ事務內務省ニ屬ス○同年  
 同月十九日稅關職制ヲ定ム○同年五月十三日鹽地稅關及品川等問所ノ事務ヲ管ス○同年同月十八日稅關司長副司長ヲ  
 改テ稅關長副長トス○同年七月五日鹽地稅關ヲ橫濱稅關出張所ト改稱シ品川等問所ヲ監史出張所ト改稱ス○同年九月  
 十五日租稅寮出張所ヲ東京萬世橋ニ設ク○八年三月第三十八號達ヲ以テ內務大藏兩省間ニ地租改正事務局ヲ置ク○同  
 年八月十日稅關監督出張所ヲ長州下ノ關ニ置ク○同年同月十五日關稅使、函館稅關事務ヲ管ス○同年同月二十四日補選  
 稅關築地出張所ヲ租稅寮出張所ト改稱シ並品川監史出張所ヲ廢シ其事務ヲ東京府ニ屬ス○同年九月第五十六號達ヲ  
 以テ正院印書局ヲ紙幣寮ニ屬ス○同年同月第五十七號達ヲ以テ陸前關仙臺豐前關小倉へ出納寮出張所ヲ置ク○同年同

月第六十五號達ヲ以テ造幣寮技師等被シ定メ大中少技監技師、技生ト爲ス。○同年同月二十一日新幣監事務ヲ廢ス。○同年十月十四日佐渡國炭港稅關事務ヲ管シ新島稅關出張所ト稱ス。○同年同月二十五日大阪紙幣寮出張所ヲ廢ス。○同年同月三十一日抄紙局ヲ王子村ニ設ク。○同年同月三十一日抄紙局ヲ王子村ニ設ク。○同年十一月十五日大藏省職制並事務章程ヲ改正ス。○同年十二月第二十七號達ヲ以テ關制並事務章程ヲ改正シ租稅、造幣、紙幣出納、稅關、檢査、國債、記帳、八等ニ支分シ職員ヲ卿、大少輔、正權大少丞、正權大中少丞、正權大少丞ニ正權一號達ヲ以テ小倉出納寮出張所ヲ長崎ヘ移ス。○十年一月第三號達ヲ以テ各省中審察及正權大中少丞以下ヲ廢シ更ニ正權大少丞監官廳一等ヨリ十等ニテルヲ置ク。○同年同月第四號達ヲ以テ文官四等以下等給ヲ改メ官等ヲ十七等ニ分ツ。○同年同月大藏省第七號達ヲ以テ租稅、關稅、檢査、國債、出納、造幣、紙幣、幣平、記帳ノ九局ヲ置ク。○同年二月大藏省第七號達ヲ以テ大坂仙臺長崎出張所ヲ出納局出張所ト改稱ス。○同年同月第二十三號達ヲ以テ造幣寮技師等被シ定メ。○同年五月第四十三號達ヲ以テ監更九等監更補四等ヲ置キ官等月俸ヲ定ム。○十一月六月大藏省第七號達ヲ以テ幣平局ヲ置ク。○同年十月第四十四號達ヲ以テ鑑定役ヲ置キ官等月俸ヲ定ム。○同年十二月第四十九號達ヲ以テ一等監更補以下ノ官等ヲ改正ス。○同年同月大藏省第七號達ヲ以テ紙幣寮ヲ改メ印刷局トス。○同年同月內務省第七十九號達ヲ以テ內務省管理勸業事務大藏省ニ屬ス。○十二年一月大藏省乙第一號達ヲ以テ商務局ヲ置ク。○同年同月大藏省乙第三十七號達ヲ以テ大坂廣島熊本名古屋ノ五ヶ所ニ租稅局出張所ヲ置ク。○同年同月大藏省乙第四十六號達ヲ以テ大藏省案課ヲ廢シ更ニ書紀課案ノ二局ヲ置ク。○十三年三月第十八號達ヲ以テ檢査局ヲ廢ス。○同年同月大藏省乙第七十五號達ヲ以テ精算局ヲ置ク。○同年五月大藏省乙第二十三號達ヲ以テ銀行課ヲ廢シ銀行局ヲ置ク。○同年六月大藏省乙第七十五號達ヲ以テ精算局ヲ置ク。○同年十二月第六十號達ヲ以テ大藏省職制並事務章程ヲ改正シ書紀、課案、租稅、勸業、國債、出納、造幣、印刷、幣平、記帳、國債、銀行ノ十局ト爲ス。○十四年四月第二十六號達ヲ以テ商務局農務省ノ管理ニ屬ス。○同年五月第四十三號達ヲ以テ仙臺長崎出張所出張所ヲ廢ス。○同年六月第五十七號達ヲ以テ會計局ヲ置ク。○同年同月第五十九號達ヲ以テ地租改正事務局ヲ廢シ殘務大藏省ノ管理ニ屬ス。○同年七月大藏省乙第十二號達ヲ以テ國債局大坂支局ヲ廢ス。○同年八月第七十五號達ヲ以テ租稅局出張所ヲ東京大坂名古屋廣島熊本仙臺ノ外更ニ二十四ヶ所ヲ附置ス。○同年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ從前ノ程通則ヲ定ム。○十五年五月大藏省第十二號達ヲ以テ租稅局出張所ヲ東京大坂名古屋廣島熊本仙臺ノ五ヶ所ニ租稅局出張所ヲ置ク。○同年同月大藏省乙第七十五號達ヲ以テ三號達ヲ以テ幣平局ヲ廢シ庶務局ヲ置ク。○十六年三月大藏省第十號達ヲ以テ東京大坂名古屋廣島熊本仙臺ノ外更ニ四ヶ所ニ附置ス。○同年五月第二十四號達ヲ以テ福井租稅局出張所ヲ金澤ニ移シ名稱ヲ改メ盛岡、青森、兩出張所ヲ廢シ更ニ四ヶ所ニ附置ス。○十七年五月八日大藏省號外達ヲ以テ庶務局ヲ廢ス。○同年同月二十日主稅官ヲ置キ職制ヲ定メ監更監更補ヲ廢シ大藏省第三十二號達ヲ以テ主稅局ヲ置キ租稅關稅兩局并各地租稅局出張所ヲ廢ス。○同年六月第五十八號達ヲ以テ鑑定役ヲ主稅監定役ト號定見習主稅監定見習ト改稱ス。○十八年十二月第六十九號達ヲ以テ各省卿職制ヲ廢シ更ニ大藏大臣ヲ置ク。○十九年一月第一號達ヲ以テ三池、佐渡、生野、鐵山ノ事務大藏省ニ屬ス。○同年同月大藏省第三號達ヲ以テ官房及金庫局ヲ

置キ職案局ヲ主計局ト改稱ス。○同年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定ム。○同年三月勅令第七號ヲ以テ稅關官制ヲ定ム。○同年四月勅令第十七號ヲ以テ造幣寮印刷局官制ヲ定ム。○同年同月閣令第六號ヲ以テ三池、佐渡、生野ノ三鐵山局官制ヲ定ム。○二十二年十二月勅令第六十號ヲ以テ造幣寮官制ヲ改正ス。○同年同月勅令第七十號ヲ以テ稅關鑑定官定更ノ官等俸給ヲ定ム。○二十二年三月閣令第十三號ヲ以テ佐渡生野兩鐵山局官制ヲ廢ス。○二十三年六月勅令第六號ヲ以テ大藏省官制ヲ改正ス。○同年七月勅令第四百十號ヲ以テ造幣寮官制ヲ改正ス。○同年七月勅令第四百一號ヲ以テ印刷局官制ヲ改正ス。○同年同月勅令第四百二十號ヲ以テ稅關官制ヲ改正ス。○同年九月勅令第二百四號ヲ以テ稅關管理區域ヲ定ム。○二十四年七月勅令第八十九號ヲ以テ大藏省官制ヲ改正ス。○二十六年十月勅令第三百三號ヲ以テ貨幣制度調查會規則ヲ定ム。○同年同月勅令第三百五號ヲ以テ大藏省官制ヲ改正ス。○同年同月勅令第三百三十六號ヲ以テ造幣寮官制ヲ改正ス。○同年同月勅令第三百三十八號ヲ以テ稅關官制ヲ改正ス。○同年同月勅令第三百三十九號ヲ以テ稅關出張所ヲ定ム。○同年同月勅令第四百號ヲ以テ庶務局官制ヲ定ム。○二十八年十一月勅令第六十二號ヲ以テ貨幣制度調查會規則ヲ廢止ス。○二十九年十月勅令第三百三十七號ヲ以テ稅關管理官制ヲ定ム。○同年同月勅令第四百六號ヲ以テ稅務管理局稅務署及管轄區域ヲ定ム。○三十年四月勅令第四百二十號ヲ以テ大藏省官制ヲ改正ス。○同年同月勅令第二百一號ヲ以テ葉煙草專賣所官制ヲ定ム。○同年六月勅令第二百七十八號ヲ以テ葉煙草專賣所二見習ヲ置ク。○同年同月勅令第二百二號ヲ以テ稅關官制ヲ改正ス。○同年同月勅令第二百六號ヲ以テ稅關出張所ノ關稅支辨及監稅署ト改ム。○三十一年七月勅令第四百四號ヲ以テ臨時沖繩縣土地整理事務官制ヲ定ム。○同年十月勅令第二百五十六號ヲ以テ印刷局官制ヲ改正シ內閣ノ所屬ニ移ス。○同年同月勅令第二百六十九號ヲ以テ大藏省官制ヲ改正シ二十七號勅令第九十八號勅令第九十八號主稅官及庶務官ノ件ヲ廢止ス。○同年同月勅令第二百七十四號ヲ以テ專賣局官制ヲ定ム。○同年同月勅令第二百九十四號ヲ以テ廣島鐵山官制ヲ農商務省ノ所管ニ移ス。○三十二年四月勅令第四百六十一號ヲ以テ臨時官制ヲ改正ス。○同年同月勅令第四百六十九號ヲ以テ稅關支辨名稱位置及管轄區域ヲ定ム。○二十六年勅令第四百二十九號ヲ廢止ス。○同年同月勅令第四百七十號ヲ以テ專賣局官制ヲ改正シ葉煙草專賣所官制ヲ廢止ス。○同年五月勅令第二百七號ヲ以テ臨時稅關工事官制ヲ定ム。○同年六月勅令第二百四十九號ヲ以テ關稅證照審查委員會規則ヲ定ム。○三十三年三月勅令第六十六號ヲ以テ神戶稅關長崎稅關二臨時職員ヲ附置ス。○同年同月勅令第二百二十四號ヲ以テ臨時稅關處分調查局官制ヲ定ム。

○大藏省官制 勅令第三百一十九號

朕大藏省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大藏省官制

第一條 大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計、出納、租稅、國債、貨幣、預金、保管物及銀行ニ關スル事

務ヲ管理シ府縣都市町村及公共組合ノ財務ヲ監督ス

第二條 大藏省專任參事官ハ二人專任書記官ハ十人ヲ以テ定員トス

第三條 大藏省ニ左ノ三局ヲ置ク

主計局

主稅局

理財局

第四條 主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 總豫算總決算ニ關スル事項
- 二 特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項
- 三 什拂豫算ニ關スル事項
- 四 主計簿ノ登記ニ關スル事項
- 五 歲入歲出現計書ノ調製ニ關スル事項
- 六 諸計算書ノ下検査ニ關スル事項
- 七 出納官吏ノ監督及身元保證ニ關スル事項
- 八 豫備金支出ニ關スル事項
- 九 定額繰越ノ承認及定額戻入年度開始前支出ニ關スル事項
- 十 收入支出ノ科目ニ關スル事項

十一 金錢及物品會計ノ統一ニ關スル事項

十二 府縣都市町村其ノ他公共組合ノ歲計ニ關スル事項

第五條 主稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
- 二 稅務ノ管理監督ニ關スル事項
- 三 民有地地租目變換ニ關スル事項
- 四 土地臺帳ニ關スル事項
- 五 稅關輸出入ノ調査ニ關スル事項
- 六 外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項
- 七 保稅倉庫ニ關スル事項
- 八 大藏省所管稅外諸收入ニ關スル事項
- 九 府縣都市町村其ノ他公共組合ノ諸收入ニ關スル事項

第六條 理財局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 國資ノ運用出納ニ關スル事項
- 二 國庫ノ出納管理ニ關スル事項
- 三 國庫ノ出納計算書ニ關スル事項
- 四 國債ノ募集借入償還及利拂ニ關スル事項

- 五 國債簿及國庫簿ノ登記ニ關スル事項
- 六 貨幣ニ關スル事項
- 七 紙幣國債證券、大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項
- 八 國債計算書ノ調製ニ關スル事項
- 九 年金恩給及諸祿ノ給與ニ關スル事項
- 十 備荒儲蓄ニ關スル事項
- 十一 金庫ノ監督ニ關スル事項
- 十二 銀行ノ管理監督ニ關スル事項
- 十三 國立銀行紙幣交換基金ニ關スル事項
- 十四 預金保管物及供託物ニ關スル事項
- 十五 地方財務ノ監督ニ關スル事項
- 十六 會社債券ニ關スル事項
- 十七 一般金融ニ關スル事項
- 十八 府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ公債ニ關スル事項
- 第七條 大藏省ニ專任鑑定官二人技師一人ヲ置ク奏任トス鑑定官ハ主稅局ニ技師ハ必要ニ依リ官房其ノ他ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル
- 第八條 大藏省ニ鑑定官補二人技師四人ヲ置ク判任トス鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ鑑定ノ事務ニ

從事シ技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ建築又ハ電信ノ事務ニ從事ス(三十三年勅令第六十五號ヲ以テ改正)

第九條 大藏省屬ハ二百四十人ヲ以テ定員トス

附 則

第十條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

明治二十七年勅令第九十八號ヲ廢止ス

○ 造幣局官制明治二十六年十月勅令第三百三十六號

朕造幣局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

造幣局官制

第一條 造幣局ハ大阪市ニ置キ大藏大臣ノ管理ニ屬シ貨幣ノ鑄造、舊貨幣ノ銷潰、賞牌ノ製造、地金銀ノ精製分析及諸鑛物ノ試験ヲ掌ル

第二條 造幣局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 局長 一人 勅任(三十一年勅令第二百七十號ヲ以テ奏任ヲ勅任ニ改ム)
- 技師 四人
- 屬 二十三人 判任(三十一年勅令第四百四十一號ヲ以テ定員ヲ改正ス)
- 技手 二十五人(全)

第三十二年勅令第三百二十八號ハ  
造幣局長ハ  
奏任ト爲ス  
ト得

第三條 局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ管理ス

第五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ従事ス

第七條 東京市ニ造幣支局ヲ置キ地金ノ買入及代リ貨幣拂渡ノ事務ヲ分掌セシム  
造幣支局長ハ大藏省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

附則

第八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○ 稅關官制 明治三十二年四月  
勅令第六十一號

朕稅關官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

稅關官制

第一條 稅關ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 關稅、噸稅及稅關諸收入ニ關スル事項

二 保稅倉庫其ノ他ノ倉庫ニ關スル事項

三 船舶及貨物ノ取締ニ關スル事項

四 關稅法及噸稅法犯則者ノ處分ニ關スル事項

五 酒類造石稅、醬油稅下戻及製造煙草輸出交付金ニ關スル事項

六 關稅通路ノ取締ニ關スル事項

第二條 左ノ六港ニ稅關ヲ置ク

武藏國橫濱

攝津國神戸

攝津國大阪

肥前國長崎

波島國西館

越後國新潟

第三條 稅關ニ稅關長一人ヲ置ク奏任トス  
滿三年以上高等官三等ニ在リテ功績顯著ナル者ハ高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得

第四條 稅關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク (三十三号勅令第二百四十九號ヲ以テ定員中ヲ改正ス)

事務官 專任 奏任 八人

監視官 專任 奏任 四人

鑑定官 專任 奏任 十二人

事務官補 專任 判任 三百十三人

監視 專任 七十八人  
 鑑定官補 專任 判任 百十八人  
 監吏 專任 判任 六百八十二人  
 技手 專任 三十六人

第五條 税關長ハ大藏大臣ノ指揮ヲ承ケ税關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第六條 事務官ハ税關支署長タル者ノ外税關ニ分屬シ税關長ノ事務ヲ助ク

第七條 監視官ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

第八條 鑑定官ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス

第九條 事務官補ハ税關支署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條 監視ハ税關監視部長若ハ税關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス

第十一條 鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ從事ス

第十二條 監吏ハ税關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス

第十三條 税關ニ税關監視部ヲ置ク

税關監視部ニ部長一人ヲ置キ監視官又ハ監視ヲ以テ之ニ充ツ

税關監視部長ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

三十二年大藏省令第十四號ヲ以テ税關監視署ノ位置ヲ定ム

第十四條 税關管轄区域内必要ナル場所ニ税關支署及税關監視署ヲ置クコトヲ得

税關監視署ノ位置ハ大藏大臣之ヲ定ム

第十五條 税關支署ニ支署長二人ヲ置ク事務官若ハ事務官補ヲ以テ之ニ充テ

第十六條 税關監視署ニ署長一人ヲ置ク監視官若ハ監吏ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條 税關支署長ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ其ノ管轄内ノ税關事務ヲ掌理ス

第十八條 税關監視署長ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

附 則

第十九條 本令ハ明治三十二年四月二十五日ヨリ施行ス

○

○神戶税關長崎税關ニ臨時職員増置明治三十三年三月勅令第六十六號

朕神戶税關及長崎税關ニ臨時職員増置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

神戶税關長崎税關新築工事ヲ掌理セシムル爲メ税關ニ臨時左ノ職員ヲ置ク

技師 專任二人  
 書記 專任二人 判任  
 技手 專任六人

附 則

第二十三號 神戶税關長崎税關ニ臨時職員増置



本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

三十二年勅令  
第三百六十八號  
ヲ以テ各稅關  
管轄區域中沿  
岸ヲ削ル

○稅關管轄區域明治三十三年九月勅令第三百四號

朕稅關管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム本令ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

稅關管轄區域左ノ通之ヲ定ム

橫濱稅關管轄區域

陸前 磐城 常陸 下總 上總 安房 武藏 相摸 伊豆 駿河 遠江

十一箇國及小笠原島

大阪稅關管轄區域

參河 尾張 伊勢 志摩 紀伊 和泉 攝津四成郡以東

七箇國

神戸稅關管轄區域三十二年勅令第三百六十八號ヲ以テ周防長門ヲ削ル

攝津川邊郡以東 播磨 備前 備中 備後 安藝 石見 出雲 伯耆 因幡 但馬 丹後 隱岐

伊豫 土佐 阿波 讃岐 淡路

十八箇國

長崎稅關管轄區域三十二年勅令第三百六十八號ヲ以テ周防長門ヲ削ル

周防 門門 肥前 肥後 筑前 筑後 豐前 豐後 日向 大隅 薩摩 壹岐 對馬 琉球

十四箇國

新潟稅關管轄區域

若狹 越前 加賀 能登 越中 越後 羽前 羽後 佐渡

九箇國

函館稅關管轄區域

陸奥 陸中 渡島 後志 石狩 天鹽 北見 根室 千島 釧路 十勝 日高 膽振

十三箇國

○稅關支署名稱位置及管轄區域明治三十二年四月勅令第三百六十九號

朕稅關支署ノ名稱位置及管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

稅關支署ノ名稱位置及管轄區域別表ノ通之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十二年四月二十五日ヨリ施行ス

明治二十六年勅令第三百九號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(別表各之)(三十二年勅令第三百五十一號三十二年三月三十一日勅令第三百四十九號ヲ以テ別表中改正追加)

○關稅訴願審査委員會規則(明治三十二年六月勅令第三百四十九號)

朕關稅訴願審査委員會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○關稅訴願審査委員會規則

第一條 關稅法第六十九條ニ依ル委員會ハ關稅訴願審査委員會ト稱シ會長一人委員九人ヲ以テ組織ス

第二條 會長ハ大藏「次官」委員ハ大藏省高等官三八帝國大學教授三內務商務省高等官二人司法省高等官一人ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 特別ノ必要アル場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第四條 委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ヲ於テ之ヲ命ス

第五條 會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第六條 關稅訴願審査委員會ニ幹事一人ヲ置キ大藏省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 關稅訴願審査委員會ニ書記二人ヲ置キ大藏屬ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○

○臨時稅關工事部官制(明治三十二年五月勅令第三百七號)

朕臨時稅關工事部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時稅關工事部官制

第一條 臨時稅關工事部ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ橫濱稅關ノ埋立工事ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第二條 臨時稅關工事部ニ左ノ職員ヲ置ク

- 部長 一人 勅任
  - 副部長 一人 奏任
  - 事務官 專任一人 奏任
  - 技師 專任五人
  - 書記 專任八人 判任
  - 技手 專任十六人
- 第三條 部長ハ大藏省勅任官ヲシテ之ヲ兼ネシム

部長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ部務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス  
 第四條 副部長ハ部長ヲ補佐シ部長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス  
 第五條 事務官ハ部長ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌ル  
 第六條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ヲ掌ル  
 第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス  
 第八條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工事ニ従事ス

○稅務管理局官制明治二十九年十月 勅令第三百三十七號

朕稅務管理局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

稅務管理局官制

第一條 稅務管理局ハ大藏大臣ノ管轄ニ屬シ内國稅ニ關スル事務ヲ掌ル  
 第二條 稅務管理局ノ名稱位置及管轄區域ハ別表ニ依ル  
 第三條 稅務管理局管轄内須要ノ地ニ稅務署ヲ置ク其ノ位置及管轄區域ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
 第四條 稅務管理局ニ左ノ職員ヲ置ク(三十一年勅令第百八十五號同年勅令第二百七十二號及三十二年勅令第三十四號ヲ以テ改正)

局長

司稅官

稅務屬

技手

第五條 局長ハ奏任トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ稅務ニ關スル法律命令ヲ執行シ其ノ管轄内ノ事務ヲ管理ス(三十一年勅令第百八十五號及同年勅令第二百七十二號ヲ以テ條中改正)  
 第六條 局長ハ所部ノ官吏ヲ監督シ判任官ノ任免ヲ大藏大臣ニ具狀ス(三十二年勅令第七十四號ヲ以テ稅務屬判任官ニ改正)  
 第七條 (三十一年勅令第二百七十二號ヲ以テ本條創設)  
 第八條 司稅官ハ奏任トシ各局各署ヲ通シテ百人ヲ以テ定員トス第十條ニ依リ署長タル者ノ外各局ニ分屬シ局長ノ指揮ヲ承ケ稅務ノ監督ニ従事ス(三十一年勅令第百八十五號及三十二年勅令第二百七十二號ヲ以テ改正)  
 第九條 稅務屬及技手ハ判任トシ稅務屬ハ五千八百十九人技手ハ三百七十五人ヲ以テ定員トス稅務屬及技手ハ稅務管理局若ハ稅務署ニ分屬シ稅務屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及檢査ニ従事シ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ酒類ノ鑑定其ノ他技術ニ關スル事務ニ従事ス(三十一年勅令第二百七十二號ヲ以テ定員ヲ改正又三十二年勅令第三十四號ヲ以テ全文ヲ改正)  
 第十條 各稅務署ニ署長一人ヲ置キ司稅官若クハ稅務屬ヲ以テ之ニ充ツ(三十一年勅令第二百七十二號ヲ以テ司稅官ノ下補ヲ創設)  
 稅務署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

附則

第十二條 本令ハ明治二十九年十一月一日ヨリ施行ス但シ北海道ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

明治二十六年勅令第百二十二號各省官制通則及同年勅令第百六十三號地方官官制并收稅長收稅屬收稅部收稅署ニ係ル條項ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(別表略之)(三十二年勅令第百八十號及三十二年勅令第百八十號ヲ以テ本令改正ス)

○稅務管理局見習員(明治三十二年三月勅令第百五十五號)

朕稅務管理局見習員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 酒類ノ鑑定事務ヲ練習セシムル爲メ稅務管理局ニ見習員ヲ置ク事ヲ得ルハ各府縣ノ稅務管理局ニ見習員ノ數ハ各稅務管理局ヲ通シテ百五十人ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 見習員ハ高等小學校ヲ卒業シ又ハ尋常中學校五年以上ノ課程ヲ修メ且ハ各府縣及之ト同等以上ノ學科ヲ修メタル者ヨリ之ヲ採用ス

第三條 二箇年以上見習員トシテ勤績シタル者ハ文官普通試驗委員ノ銜ヲ經テ稅務管理局ノ見習員ニ任スルコトヲ得

第四條 見習員ニハ月額十五圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第五條 本令施行ノ後二箇年間ハ本令第三條ノ年限ニ拘ラス見習員ヨリ技手ニ任用スルコトヲ得

附則 本令施行ノ後二箇年間ハ本令第三條ノ年限ニ拘ラス見習員ヨリ技手ニ任用スルコトヲ得

得

○稅務管理局稅務署及管轄區域(明治二十九年十月勅令第百四十六號)

朕稅務管理局稅務署及其ノ管轄區域ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

稅務管理局稅務署及管轄區域別表ニ通定ス

附則

本令ハ明治二十九年勅令第百三十七號實施ノ日ヨリ施行ス

明治二十六年勅令第百六十四號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(別表略之)(三十二年勅令第百五十二號及三十二年勅令第百八十六號三十二年勅令第百八十號及三十二年勅令第百八十二號ヲ以テ本令改正ス)

○專賣局官制(明治三十二年四月勅令第百七十號)

朕專賣局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

專賣局官制

第一條 專賣局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ葉煙草ノ検査、收納、輸入、保管、賣渡、營業免許及專賣取締ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 專賣局ハ之ヲ東京ニ置ク

第二十三類 稅務管理局稅務署及管轄區域 專賣局官制

各地方ニ專賣支局ヲ置キ專賣局ノ事務ヲ分掌セシム

第三條 專賣局ニ左ノ職員ヲ置ク(三十三年勅令第七十六號ヲ以テ事務官  
鑑定官ノ定員ヲ改正シ事務官補ヲ削ル)

局長

一人

勅任

事務官

專任四十八人

奏任

鑑定官

專任五人

奏任

屬

專任千八十八人

判任

鑑定官補

專任三百五十人

判任

監視

專任二百二十八人

判任

技手

專任三人

第四條 局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第五條 事務官ハ局長ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ分掌ス(三十三年勅令第七十  
六號ヲ以テ條中削除)

第六條 鑑定官ハ局長ノ指揮ヲ承ケ葉煙草ノ鑑定保存ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ葉煙草ノ鑑定保存ニ從事ス

第九條 監視ハ上官ノ指揮ヲ承ケ葉煙草專賣ノ取締ニ從事ス

第十條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工事ニ從事ス

第十一條 各專賣支局ニ支局長一人ヲ置キ專賣局事務官ヲ以テ之ニ充ツ(三十三年勅令第七十  
六號ヲ以テ條中削除)

第十二條 專賣支局長ハ專賣局長ノ指揮ヲ承ケ支局一切ノ事務ヲ掌理ス

第十三條 大藏大臣ハ必要ト認ムル地ニ專賣局出張所ヲ設クルコトヲ得

第十四條 專賣支局ノ名稱位置ハ別表ニ依ル其ノ管轄區域ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十二年五月一日ヨリ施行ス

明治三十年勅令第二百一十一號葉煙草專賣所官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(別表畧之)(三十三年勅令第七十六  
號ヲ以テ別表ヲ改正ス)

○專賣局ニ見習員ヲ置ク明治三十年六月  
勅令第三百七十八號

朕葉煙草專賣所見習員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 葉煙草ノ鑑定保存ヲ練習セシムル爲メ專賣局ニ見習員ヲ置クコトヲ得

見習員ノ數ハ百人ヲ超ユルコトヲ得ス(三十二年勅令第七十  
七號ヲ以テ條中改正)

第二條 見習員ハ高等小學校ヲ卒業シ若ハ尋常中學校二年以上ノ課程ヲ修メタル者又ハ之ト同

等以上ノ學科ヲ修メタル者若ハ相當ノ教育ヲ受ケ葉煙草ノ取扱ニ經驗アル者ヲ以テ之ニ充ツ

(上全)

第三條 二箇年以上見習員トシテ葉煙草ノ鑑定保存ニ從事シタル者ハ文官普通試験委員ノ銜ヲ經テ專賣局鑑定官補ニ任用スルコトヲ得(全)

第四條 見習員ニハ毎月十五圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附則

第五條 葉煙草專賣法施行ノ後二箇年間ハ本官ニ缺員アルトキニ限り本令第三條ノ年限ニ拘ハラス見習員ヨリ任用スルコトヲ得

○

○臨時秩祿處分調査局官制明治三十三年三月勅令第三百二十四號

朕臨時秩祿處分調査局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時秩祿處分調査局官制

第一條 臨時秩祿處分調査局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ臨時秩祿處分ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 臨時秩祿處分調査局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人 勅任

事務官 專任二人 奏任

屬 專任五十人 判任

第三條 局長ハ大藏省勅任官ヲシテ之ヲ兼シシム

臨時秩祿處分調査局官制  
明治三十三年三月二十四號

第四條 局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ事務ヲ掌理ス

第五條 事務官ハ局長ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第六條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○臨時秩祿處分調査委員會規則明治三十一年四月勅令第六十九號

朕臨時秩祿處分調査委員會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時秩祿處分調査委員會規則

第一條 大藏省ニ臨時秩祿處分調査委員會ヲ設ケ大藏大臣ノ指揮監督ニ屬シ明治三十年法律第五十

號家祿賞典祿處分法ヲ執行ニ關スル事項ヲ調査セシム

第二條 臨時秩祿處分調査委員會ハ委員長一人委員九人ヲ以テ組織ス

第三條 委員長ハ大藏次官ヲ以テ委員ハ内閣高等官二人内務省高等官一人大藏省高等官四人司法

省高等官二人ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 委員長ハ調査ニ關スル議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ大藏大臣ニ具申ス

委員長事故アルトキハ委員中首班ノ高等官ヲシテ事務ヲ代理セシム

第五條 委員長ハ調査事項ニツキ必要アルトキハ各官廳ニ照會スルコトヲ得

第六條 臨時秩祿處分調査委員會ニ幹事一人ヲ置ク委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

幹事ハ委員中ヨリ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條 臨時秩祿處分調査委員會ニ書記三人ヲ置ク委員長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

書記ハ大藏屬ヲ以テ之ニ充ツ

○臨時沖繩縣土地整理事務局官制明治三十一年七月 勅令第四百四十四號

朕臨時沖繩縣土地整理事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時沖繩縣土地整理事務局官制

第一條 臨時沖繩縣土地整理事務局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ沖繩縣土地整理ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第二條 臨時沖繩縣土地整理事務局ニ左ノ職員ヲ置ク(三十二年勅令第二十四號ヲ以テ職員中加除)

長官 勅任 一人

事務官 奏任 專任一人

技師 奏任 專任一人

三十一勅令  
第四百四十六號  
ナリテ  
額内ニ於テ  
手ヲ置クコト  
ヲ得

三十二年勅令  
第六十三號文  
官廳派令  
ヲ得

書記 判任 專任三十六人

技手 判任 五十人

第三條 長官ハ沖繩縣知事ヲシテ之ヲ兼テシム

第四條 長官ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ内務省ノ主務ニ就テハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第五條 長官ハ判任官定員ニ缺員アルトキハ判任官俸給豫算定額内ニ於テ臨時雇員ヲ使用スルコトヲ得

第六條 長官ハ所部ノ官吏ヲ監督シ奏任官ノ進退ハ大藏大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第七條 長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其ノ奏任官ニ係ルモノハ大藏大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條 (三十二年勅令第二十號ヲ以テ本條削除)

第九條 那霸稅務管理局長沖繩縣參事官及那霸稅務管理局ニ在勤スル司稅官ハ事務官ヲ兼任ス(三十二年勅令第二十四號ヲ以テ改正)

第十條 事務官ハ長官ノ指揮監督ヲ承ケ局務ニ従事ス長官事故アルトキハ首席ノ事務官之ヲ代理ス

第十一條 書記ハ上官ノ指揮監督ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十二條 技手ハ上官ノ指揮監督ヲ承ケ土地測量ニ關スル事務ニ従事ス

陸軍省

沿革略記 明治五年二月第六十二號ヲ以テ兵部省ヲ廢シ陸軍省ヲ置ク...

第二十三類 陸軍省沿革

月十八日勅令ヲ以テ參謀本部條例ヲ改正ス...





軍大臣參謀總長教育總監海軍ノミニ關スルモノハ海軍大臣海軍軍令部長ヲシテ其議ニ參セシム  
(三十三年勅令第二百十二號ヲ以テ陸軍ヲ教育總監ニ改ム)

○防務條例 明治二十八年二月 勅令第八號

朕防務條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

防務條例

要 領

第一條 本條例ハ陸海軍協同作戰ノ指揮及其任務ヲ規定ス

第二條 首府及永久ノ目的ヲ以テ海岸ニ建設シタル防禦地點ノ作戰ハ陸海軍協同シテ之ニ任スト雖

モ陸海兩軍ノ性質ニ因リ各自專任スヘキモノアリ其區別概ネ左ノ如シ

甲 陸軍ノ擔任

其一 陸地警戒勤務

其二 陸地防禦工事

其三 諸砲臺ノ勤務

其四 堡壘通信勤務

乙 海軍ノ擔任

其一 海上警戒勤務

其二 海中障碍物、水雷ノ布設及之ニ屬スル諸勤務

其三 艦船若クハ水雷艇ヲ以テスル諸勤務

其四 海上通信勤務

司令權

第三條 首府及永久ノ目的ヲ以テ建設シタル海岸防禦地點ノ防禦ヲ四種ニ分ツ

其一 東京防禦

東京防禦ハ東京防禦總督ヲシテ要塞司令官、師團長(若クハ野戰隊指揮官)及橫須賀鎮守府司令長官ヲ統ヘ東京防禦ニ關スル全般ノコトヲ計畫指揮セシム

東京防禦總督部ノ編制及平時ノ業務ハ別に定ムル所ニ依ル

總督幕僚中ニハ海軍參謀ヲ兼務セシメ諸計畫指揮ニ遺算ナカシムヘシ

橫須賀鎮守府司令長官ハ軍港ノ直接防禦ニ關シ橫須賀堡壘團守備諸兵及海軍各部ヲ統ヘ軍港防禦

ニ關スル全般ノコトヲ計畫指揮ス

鎮守府司令長官及要塞司令官ノ下ニハ平時ヨリ互ニ參謀一名ヲ交換兼務セシメ計畫ニ遺算ナカラ

シムヘシ

其二 吳、佐世保防禦

吳、佐世保ノ防禦ハ鎮守府司令長官ヲシテ要塞司令官及海軍各部ヲ統ヘ軍港防禦ニ關スル全般ノコトヲ計畫指揮セシム

鎮守府司令長官ノ下ニハ陸軍參謀一名ヲ兼務セシメ計畫ニ遺算ナカシムヘシ

其三 紀淡、鳴門、藝豫、下ノ關海峽ノ防禦  
 紀淡、鳴門、藝豫、下ノ關ノ各海峽防禦ハ要塞司令官ヲシテ海上防禦司令官及守備諸兵ヲ統ヘシメ  
 海峽防禦ニ關スル全般ノコトヲ計畫指揮セシム  
 要塞司令官ノ幕僚ニ海軍參謀ヲ兼務セシメ計畫ニ遺算ナカラシムヘシ

其四 對馬防禦

對馬防禦ハ警備隊司令官及要港司令官中高級古參ノ者ヲシテ對馬防禦司令官ヲ兼任セシメ其所屬  
 部隊及他ノ司令官ヲ統ヘ防禦ニ關スル全般ノコトヲ計畫指揮セシム  
 第四條 以上諸防禦ニ任スル各府各司令部及各隊各艦ハ作戰上ニ就テハ東京防禦總督鎮守府司令長  
 官要塞司令官若クハ對馬防禦司令官等ニ屬スト雖モ人事、經理、衛生及兵器彈藥其他物品ノ補給ニ  
 關シテハ陸海軍各其關係官衙ノ區處ヲ受クルモノトス

附則

第五條 本條例實施ノ期限ハ陸海軍大臣告示ヲ以テ之ヲ定ム  
 ○參謀本部條例(明治三十二年一月勅令第六號)  
 朕參謀本部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 參謀本部條例

三十九年四月  
 三十日陸海軍  
 兩省告示ヲ以  
 テ同年五月十  
 日ヨリ施行

第一條 參謀本部ハ國防及用兵ノ事ヲ掌ル所トス  
 第二條 參謀總長ハ陸軍大將若クハ陸軍中將ヲ以テ親補シ  
 天皇ニ直轄シ帷幄ノ軍務ニ參畫シ國防及用兵ニ關スル一切ノ計畫ヲ掌リ又參謀本部ヲ統轄ス  
 第三條 參謀總長ハ國防ノ計畫及用兵ニ關スル命令ヲ立案シ  
 親裁ノ後之ヲ陸軍大臣ニ移ス  
 第四條 參謀總長ハ陸軍參謀將校ヲ統督シ其教育ヲ監視シ陸軍大學校、陸地測量部、陸軍文庫及在外  
 國公使館附陸軍武官ヲ統轄ス  
 第五條 參謀本部次長ハ陸軍中將若クハ陸軍少將ヲ以テ之ニ補シ參謀總長ヲ輔佐シ本部一切ノ事務  
 整理ニ任ス  
 第六條 參謀本部ノ編制ハ別ニ定ムル所ニ據ル

○陸軍參謀條例(明治三十一年二月勅令第二十號)

朕陸軍參謀條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 陸軍參謀條例  
 第一條 參謀將校ハ高等將帥ノ職務ヲ輔佐シ殊ニ國防及用兵ニ關スル機務ヲ參畫シ又軍隊練成ノ事  
 務ヲ掌ル其ノ他特別ノ任務ハ各條規ノ定ムル所ニ依ル

第二條 參謀將校ハ參謀總長之ヲ統轄シ編制ノ定ムル所ニ於テ服務セシム

第三條 參謀ノ職ニ補スヘキ者ハ各兵科ノ大尉以上ニシテ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ選抜ムヘキモノトス

一 陸軍大學校卒業後一箇年以上陸隊勤務ニ服シタル將校ニシテ參謀總長ノ適任ト認ムル者

二 學識才能卓越セル將校ニシテ參謀總長ノ適任ト認ムル者

第四條 參謀將校ハ進級スル毎ニ少クモ一箇年間陸隊勤務ニ服セシムルヲ例トス

第五條 參謀將校ハ其ノ職務ニ熟達セシムル爲メ彼此交任セシムルモノトス

第六條 參謀將校ハ毎年凡ソ二箇月間兵科ヲ選テ隊附勤務ニ服セシムルコトヲ得

附則

第七條 本條例ハ明治三十一年二月十日ヨリ施行ス

第八條 明治二十一年五月勅令第二十五號參謀職制ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○ 陸軍大學校條例明治三十一年六月勅令第百二十一號

朕陸軍大學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍大學校條例

第一條 陸軍大學校ハ高等兵學ヲ教授シ參謀其他樞要ノ職務ニ充ツヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 少將若クハ大佐

副官 大中尉

庶長 騎兵科大尉

軍醫

獸醫

軍吏

教頭

兵學教官

教官

同

同

同

同

同

同

- 第六條 副官ハ事務ヲ分掌シ廳長ハ校庭ニ關スル一切ノ事ヲ擔任ス
- 第七條 教頭ハ校中一般ノ教育ヲ監督シ校長ニ對シ教育方法ヲ參畫スルノ責ニ任メ時トシテハ自ら一部ノ教授ヲ擔任スルコトアルヘシ
- 第八條 兵學教官及教官ハ學術ノ教授ヲ分擔シ又時トシテハ翻譯ニ從事セシムルコトアリ
- 第九條 兵學教官ノ外武官教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ
- 第十條 本校學生候補者ハ左ノ資格ヲ具フル者ヨリ選抜ス  
各兵科ノ中少尉ニシテ二年以上五月滿日滿 隊務ニ服シ身體強健、勤務精勵、氣節アツテ識量ニ富ミ且學術材幹卓越ニシテ判斷力ヲ有シ將來充分發達ノ見込アル者
- 第十一條 聯隊長獨立隊ニ在テハ其隊長校團其  
他ニ在テハ其所屬長以下做之ハ前條ノ資格アルモノヲ選抜シ學生候補名簿ヲ製シ順序ヲ經テ所管長官ニ呈ス同長官ハ之ヲ取捨シテ候補者ヲ決定シ且ツ選抜順次名簿兵科及階級  
ニ關セズヲ製シ候補名簿ヲ併セテ三月盡日迄ニ參謀總長ニ進達ス
- 第十二條 聯隊長ハ學生候補者ノ性行才能ニ關シテハ特ニ擔保ノ責ニ任ス
- 第十三條 入學人員及學生候補者試驗課目並ニ初審試驗開始ノ時日ハ參謀總長ノ移牒ニ由リ毎年二月陸軍大臣之ヲ告達ス
- 第十四條 參謀總長ハ候補者ノ學力ヲ檢定スル爲メニ試驗委員ヲ設ケ校長ヲ委員長トナシ以テ左ノ試驗ヲ行フ  
其 一 初審試驗

- 初審試驗ハ候補者ノ學識如何ヲ檢定スルモノニシテ近衛及第一師管内ノ候補者ニ在テハ陸軍大學校、其他ノ師管旅團守備區  
旅團守備區ニ在テハ當該師團長旅團長以下之ニ依リノ定ムル場所ニ於テ各地同時ニ之ヲ行フ依テ各所屬長官ハ其時日ニ候補者ヲ試驗場ニ派遣スヘシ其試驗問題ハ試驗委員長ヲシテ毎年六月之ヲ封緘シ人名簿ヲ添ヘ關係アル師團長ニ送付セシム
- 前項ニ依リ陸軍大學校ニ集合スル者ノ爲メ試驗委員長ハ試驗委員、各師團ニ於テスル者ノ爲メ當該師團長ハ參謀長若クハ參謀ヲシテ之ヲ監視セシメ候補者ヲシテ筆記ノ答解ヲナサシメ其書類ヲ七月二十日迄ニ試驗委員長ニ送付スルモノトス
- 其二 再審試驗  
再審試驗ハ其學力ノ活用如何ヲ檢定スルモノニシテ參謀總長受験人名ヲ陸軍大臣ニ移ス陸軍大臣ハ各所管長官ヲシテ其受験者ヲ大學校ニ派遣セシム
- 第十五條 參謀總長ハ前條ノ試驗及第十一條ノ書類ヲ參照シ入學者ヲ決定シ之ヲ陸軍大臣ニ移牒ス陸軍大臣ハ之ニ入學ヲ命ス
- 第十六條 學生ノ名籍ハ原所管ヲ離ル、コトナシ但入學中願屆其他業務上ニ關シテハ總テ校長ノ管理ニ屬ス
- 第十七條 本校ノ修學期限ハ三箇年トス但疾病ノ爲メニ缺課多キモノニ在リテハ校長ノ上申ニ由リ參謀總長更ニ一箇年滯學ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十八條 校長ハ學生入學ノ後ニ其資格不適合ト認ムル者アルトキハ參謀總長ニ具狀ス參謀總長ハ

之ヲ查覈シ陸軍大臣ニ移牒シ退學ヲ命シ原所管ニ復歸セシムルコトアルヘシ  
 第十九條 學生ハ校外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ圖書器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ  
 第二十條 學生ヲシテ毎年七八月ノ間ニ隊附服務セシム尙第二第三學年者ニアリテハ野戰及要塞砲  
 兵射擊學校若クハ要塞砲兵聯隊ニ派遣シ野戰及要塞砲兵射擊術及其用法ヲ實地ニ研究セシム又時  
 宜ニ依リ第二學年者ニ限リ其年附屬セシ軍隊ノ秋季演習ニ從事セシムルコトアルヘシ  
 學生ハ隊附服務中勤務上ニ關シテハ其隊長ニ隸シ野戰及要塞砲兵射擊學校並ニ要塞砲兵聯隊派遣  
 中研究ノ事項ニ關シテハ該校長若クハ該隊長ノ指揮ヲ受ケルモノトス  
 當該隊長ハ學生隊附服務ヲ終リタル後砲兵射擊學校長並ニ要塞砲兵聯隊長ハ學生研究ヲ終リタル  
 後各其成績ヲ校長ニ申報ス  
 第二十一條 學生隊附服務中ハ當該隊長學生ニ對シ懲罰ヲ科スルノ權ヲ有ス  
 第二十二條 校長ハ各學期ノ終ニ於テ教頭及兵學教官ヲ會集シ學生ノ修學結果及技術ヲ審査シ第一  
 第二學年者ノ爲ニハ其修學結果報告ヲ第三學年者ノ爲ニハ技術證明書並ニ優劣順次名簿ヲ製シ參  
 謀總長ニ呈ス  
 第二十三條 學生ノ卒業者ニハ卒業證書及之ヲ表章スルキ徽章ヲ付與シ隊附ノ者ニアリテハ直チニ  
 原隊ニ復歸セシメ隊外ノ者ニアリテハ其所管ニ復歸ノ後直チニ隊附ヲ命ス

附則

第二十四條 (三十三年勅令第八十三號ヲ以テ削除)

○ 陸地測量部條例 明治二十四年八月勅令第百七十五號

朕陸地測量部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸地測量部條例

第一條 陸地測量部ハ陸地測量ヲ施行シ兵要地圖及一般ノ國用ニ充テ可キ内國圖ヲ製造修正シ其他  
 量地ニ關スル事ヲ掌ル所トス

第二條 陸地測量部ニ三角科地形科及製圖科ヲ置キ各科ヲ數班ニ分チ又別ニ修技所ヲ置ク

第三條 陸地測量部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 少將或各兵科大佐 (明治二十九年勅令第一二百三號ヲ以テ改正)

事務官 各兵科少佐及尉官

材料主管官 各兵科大尉

軍吏 (二十八勅令第三十六號ヲ以テ一(二)等軍吏ノ五字ヲ削リ)

科長 各兵科佐官 (二十九勅令第二百三號ヲ以テ追加)

科僚 各兵科中尉或少尉

班長 各兵科少佐或大尉

班員 各兵科大中少尉或相當陸地測量師及陸地測量手  
 修技所幹事 各兵科大尉  
 修技所教官 各兵科大中少尉或相當陸地測量師  
 修技所助教 陸地測量手

第四條 部長ハ參謀總長ニ隸シ部事ヲ整理シ及陸地測量官養成ノ責ニ任ス

第五條 事務官ハ部長ノ命ヲ受ケ部内ノ庶務ヲ掌ル其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第六條 材料主管ハ部長ノ命ヲ受ケ器具材料及圖籍ノ整理ニ任シ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第七條 軍吏ハ部長ノ命ヲ受ケ會計一般ノ規定ニ據リ部内ノ會計物品ノ購買供給ヲ掌リ其下ニ書記或ハ陸軍屬ヲ置ク

第八條 三角科ハ量地ノ事ヲ管シ三角測量及水準測量ヲ施行シ諸測量ノ基點ヲ設爲シ地形科ハ地形測量ヲ施行シテ原圖ヲ製造修正シ製圖科ハ諸地圖ヲ製造シテ製版印刷スルヲ掌ル

第九條 修技所ハ陸地測量官ヲ養成スルノ所ニシテ測量手タル學生及生徒ヲ置ク其教授科目ハ陸地測量部長之ヲ定ム

第十條 科長ハ部長ノ指揮監督ヲ受ケ班長以下ニ職務ヲ課シ各其科ノ整理ニ任ス

第十一條 科僚ハ科長ノ命ヲ受ケ科内ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十二條 班長ハ科長ノ命ヲ受ケ其班員以下ニ職務ヲ課シ各班ノ事業ヲ管理ス

第十三條 班員ハ上官ノ命ヲ受ケ各其業務ヲ分掌ス

第十四條 科長及班長ハ陸地測量官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得(二十五年勅令第百號ヲ以テ及班長ノ三字ヲ加フ)

第十五條 修技所幹事ハ部長ノ命ヲ受ケ學生及生徒ノ養成ニ任シ所内ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十六條 修技所教官及助教ハ部長ノ命ヲ受ケ學術科ノ教授ヲ分掌ス

第十七條 修技所教官ハ定員ノ外他ニ本職アル者ヲ以テ兼勤セシメ若シハ學識アル者ヲ選ヒテ之ニ囑托スルヲ得

附 四(二十四年勅令第百八十號ヲ以テ附則追加)  
 九(二十九勅令第百號)  
 三(二十九勅令第百號)

第十八條 (二十九勅令第百號)

○ 陸軍省官制(明治三十三年五月勅令第百九十三號)

朕陸軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍省官制

第一條 陸軍大臣ハ陸軍軍政ヲ管理シ陸軍軍人軍屬ヲ統督シ及所管諸部ヲ監督ス

第二條 陸軍省ニ副官ヲ置キ秘書官ニ兼補ス

第三條 陸軍省ニ左ノ六局ヲ置ク

總務局

人事局

軍務局

經理局

醫務局

法務局

第四條 總務局ニ機密課及庶務課ヲ置ク

第五條 機密課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 機密ニ屬スル事項

二 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項

三 外國駐在員及留學將校同相當官ニ關スル事項

四 徵發物件表、報告及統計ニ關スル事項

五 翻譯ニ關スル事項

六 各局課ニ屬セザル事項

第六條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 例規ニ依リ取扱フヘキ庶務ニ關スル事項

二 公文書類ノ接受發送ニ關スル事項

三 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項

四 印刷ニ關スル事項

五 軍旗及勳章神社ニ關スル事項

六 省内ノ風紀ニ關スル事項

七 省屬判任文官ノ人事ニ關スル事項

八 本省ノ諸給與及用度ニ關スル事項

第七條 人事局ニ補任課及恩賞課ヲ置ク

第八條 補任課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 將校、同相當官准士官並文官ノ進退、任免、補職、命課、增俸、增給ニ關スル事項

二 將校並准士官兵籍、陸軍文官名簿、停年名簿、列次名簿及充員名簿ニ關スル事項

三 退職將校、同相當官准士官ノ人事及名簿ニ關スル事項

第九條 恩賞課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 恩給ニ關スル事項

二 叙位、叙勳、記章、褒章、賞與ニ關スル事項

三 准士官下士文官採用ニ關スル事項

四 賜暇ニ關スル事項

五 結婚ニ關スル事項



- 第十條 軍務局ニ軍事課、歩兵課、騎兵課、砲兵課、工兵課及獸醫課ヲ置ク
- 第十一條 軍事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 建制及編制ニ關スル事項
  - 二 動員計畫、戒嚴及徵發ニ關スル事項
  - 三 演習及檢閱ニ關スル事項
  - 四 教育總監部及同總監部直轄諸學校ニ關スル事項
  - 五 團隊配置ニ關スル事項
  - 六 鐵道及兵站業務ニ關スル事項
  - 七 水陸交通路ニ關スル事項
  - 八 儀式、禮式、服制、徽章ニ關スル事項
  - 九 風紀軍紀ニ關スル事項
  - 十 參謀本部、陸軍大學校、鐵道大隊ニ關スル事項
- 第十二條 歩兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 兵役、召集及解兵ニ關スル事項
  - 二 各兵科將校ノ補充ニ關スル事項
  - 三 各兵科各部准士官以下補充ノ規定ニ關スル事項
  - 四 憲兵、歩兵、屯田兵、警備隊、軍樂隊ノ下士以下補充ニ關スル事項

- 五 同上及聯隊區司令部ノ本務ニ關スル事項
- 六 現役、豫備役、後備役軍人及國民軍ニ關スル事項
- 七 軍隊ノ內務、衛戍勤務及軍事警察ニ關スル事項
- 八 練兵場及小銃射擊場ニ關スル事項(築設及管理ヲ除ク)
- 第十三條 騎兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 騎兵及輜重兵ノ本務ニ關スル事項
  - 二 騎兵、輜重兵下士以下ノ補充ニ關スル事項
  - 三 軍馬ノ供給、飼養、保續及徵發ニ關スル事項
  - 四 蹄鐵ニ關スル事項
  - 五 各兵科蹄鐵工長ノ補充ニ關スル事項
  - 六 騎兵實施學校及軍馬補充部ニ關スル事項
- 第十四條 砲兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 野戰砲兵及要塞砲兵ノ本務ニ關スル事項
  - 二 砲兵下士以下ノ補充ニ關スル事項
  - 三 砲兵射擊場ニ關スル事項(築設、維持及管理ヲ除ク)
  - 四 兵器ノ供給、保續及兵器監部ニ關スル事項
  - 五 砲兵會議ニ關スル事項

- 六 野戰及要塞砲兵射擊學校、砲兵工科學校ニ關スル事項
- 七 國防上砲兵ニ關スル事項
- 八 陸軍職工ニ關スル事項
- 第十五條 工兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 工兵ノ本務ニ關スル事項
  - 二 工兵下士以下補充ニ關スル事項
  - 三 工兵會議及築城部ニ關スル事項
  - 四 東京防禦總督部、要塞司令部、陸地測量部ニ關スル事項
  - 五 國防上工兵ニ關スル事項
  - 六 通信及電氣術、電信術、電燈ニ關スル事項
  - 七 橋梁及隧道等破壞ニ關スル事項
  - 八 輕氣球及使鳩ニ關スル事項
  - 九 運輸及臺灣補給廠ニ關スル事項
- 第十六條 獸醫課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 獸醫材料ニ關スル事項
  - 二 獸醫部ノ勤務及教育ニ關スル事項
  - 三 獸醫部ノ人員補充及兵籍ニ關スル事項

- 四 蹄鐵術ノ教育ニ關スル事項
- 五 獸醫學校及軍馬衛生會議ニ關スル事項
- 第十七條 軍務局長ハ獸醫部上長官士官ノ人事ヲ掌ル
- 第十八條 經理局ニ主計課、被服課、糧秣課及建築課ヲ置ク
- 第十九條 主計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 陸軍總豫算、決算報告及動員計畫ニ係ル豫算彙輯ニ關スル事項
  - 二 諸給與及會計規定ノ審査ニ關スル事項
  - 三 俸給、諸手當旅費ノ規定及簿記證書ニ關スル事項
  - 四 監督部、軍吏部ノ勤務ニ關スル事項
  - 五 監督部及軍吏部ノ教育補充及其ノ士官以上ノ兵籍ニ關スル事項
  - 六 金錢ニ係ル出納官吏ニ關スル事項
  - 七 經理學校ニ關スル事項
- 第二十條 被服課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 被服一切ノ經理ニ關スル事項
  - 二 被服給與ノ規定ニ關スル事項
  - 三 被服ノ検査ニ關スル事項
  - 四 馬匹手入具ニ關スル事項

五 被服廠及千住製絨所ニ關スル事項

第二十一條 糧秣課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 平時及戰時ノ糧秣諸給與、野戰軍ノ給養準備ニ關スル事項
- 二 要塞ノ糧秣準備ニ關スル事項
- 三 監督部ノ野戰給養勤務ノ規定ニ關スル事項
- 四 糧秣及馬匹ニ係ル給與ノ規定ニ關スル事項
- 五 給養ノ實驗ニ關スル事項
- 六 戰用炊具ニ關スル事項
- 七 中央糧秣廠ニ關スル事項

第二十二條 建築課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 陸軍用地及諸建築(工兵事業及砲兵工廠ニ關スルモノヲ除ク)ニ關スル事項
  - 二 宅料、陣營具及永續料、消耗品料、埋葬料並諸調度ノ規定ニ關スル事項
  - 三 物品會計及出納官吏ニ關スル事項
  - 四 官有財産ニ關スル事項
  - 五 金櫃、公用行李ニ關スル事項
  - 六 東京陸軍經營部ニ關スル事項
- 第二十三條 經理局長ハ監督部及軍吏部士官以上ノ人事ヲ掌ル
- 第二十四條 醫務局ニ衛生課及醫事課ヲ置ク

第二十五條 衛生課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 衛生部ノ勤務及教育ニ關スル事項
  - 二 衛生部ノ人員補充及士官以上ノ兵籍ニ關スル事項
  - 三 軍事衛生及治病上ノ審案ニ關スル事項
  - 四 恩給診斷及傷病ニ因ル除役ニ關スル事項
  - 五 衛生報告及衛生部員學術上ノ業績ニ關スル事項
  - 六 軍醫學及衛生會議ニ關スル事項
- 第二十六條 醫事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 病院、休養室及轉地療養所ニ關スル事項
  - 二 衛生材料ニ關スル事項
  - 三 衛生統計ニ關スル事項
  - 四 身體検査ニ關スル事項
  - 五 衛生材料廠及恤兵團體ニ關スル事項
  - 六 其ノ他醫事ニ關スル事項
- 第二十七條 醫務局長ハ衛生部士官以上ノ人事ヲ掌ル
- 第二十八條 法務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 軍事司法ニ關スル事項
  - 二 監獄ニ關スル事項



- 第二條 陸軍編修官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其業務ニ關シテハ參謀總長ノ指揮監督ヲ承ク
- 第三條 陸軍編修官ヲ分テ陸軍編修及陸軍編修書記トス
- 第四條 陸軍編修ハ奏任トシ陸軍編修書記ハ判任トス
- 第五條 陸軍編修官ノ定員ハ左ノ如シ
  - 編修 四人
  - 編修書記 十四人

○陸地測量官官制明治二十二年三月勅令第三十四號

朕陸地測量官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 陸地測量官官制
- 第一條 陸地測量ノ業務ニ從事セシムル爲メ陸地測量官ヲ置ク
- 第二條 陸地測量官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其業務ニ關シテハ陸地測量部長ノ指揮監督ヲ承ク
- 第三條 陸地測量官ヲ分テ陸地測量師及陸地測量手トス
- 第四條 陸地測量師ハ奏任トシ陸地測量手ハ判任トス

○陸軍經理學校條例明治二十九年五月勅令第二百二十三號

朕陸軍經理學校ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布トシム

陸軍經理學校條例

- 第一條 陸軍經理學校ハ陸軍監督補、陸軍軍吏及陸軍縫工長靴工長ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス(三十二年勅令第四百十八號)  
(三十二年勅令第四百十八號ヲ以テ本條及次項中改正)
- 監督補ト爲スヘキ者ヲ監督學生、軍吏ト爲スヘキ者ヲ軍吏學生、縫工長靴工長ト爲スヘキ者ヲ工長候補生ト稱ス
- 第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 校長 一、二等監督
  - 副官 一、二等軍吏
  - 軍醫 一等軍醫
  - 教官 參謀中、少佐騎兵大尉二、三等醫官監督補一、二等軍吏陸軍教授陸軍技師
- 第三條 前條ニ掲グル職員ノ外下士屬及教員トシテ判任文官若クハ雇員並傭人ヲ置ク(三十年勅令第四百七十七號ヲ加フ)
- 第四條 校長ハ陸軍省經理局長ニ錄シ校務ヲ總理シ學生及生徒教育ノ責ニ任シ軍吏學生及工長候補生入學試験ニ係ル事ヲ掌ル(三十二年勅令第四百十八號ヲ以テ條中改正)
- 第五條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第六條 軍醫ハ衛生事務ヲ擔任ス

第七條 教官ノ内參謀官ハ監督學生、軍吏ハ軍吏學生、教員ハ工長候補生ノ教授ヲ擔任シ其他ノ教官ハ各學生及生徒ノ教授ヲ分擔ス(三十二年勅令第四百十、八號ヲ以テ條中改正)

第八條 監督學生ハ年齢四十歳以下ノ現役(休職停職を除ク)各兵科大尉一等軍吏及實役停年一箇年以上ノ各兵科中尉二等軍吏ノ志願者ニシテ試験ニ合格シタル者ヲ選抜シテ採用ス但陸軍大學卒業ノ者ハ試験ヲ行ハス(三十年勅令第二百九十九號ヲ以テ改正)

前項ノ年齢及停年ヲ算スルハ七月一日ヲ以テス(三十年勅令第二百九十九號ヲ以テ年齢及ノ三字ヲ加フ)

第九條 監督學生志願者ハ六月三十日迄ニ願書ヲ聯隊長又ハ所屬長官ニ出スヘシ聯隊長又ハ所屬長官ハ之ヲ調査シ其ノ願書ニ自己ノ意見書及考科表寫ヲ添ヘ順序ヲ經テ之ヲ所屬長官ニ呈ス所屬長官ハ七月三十一日迄ニ之ヲ經理局長ニ送附スヘシ但軍吏ヨリ志願スル者ノ願書ハ聯隊長又ハ所屬長官ヨリ當該監督部長ニ送附シ監督部長ハ之ヲ調査シ自己ノ意見書及考科表寫ヲ添ヘ經理局長ニ呈スヘシ

陸軍省及陸軍省經理局所屬官衙ノ軍吏ヨリ志願スル者ノ願書ハ所屬長官ヨリ經理局第一課長ニ移シ同課長前項但書ノ取扱ヲ爲スヘシ

第十條 經理局長ハ前條ノ書類ヲ審査シ受験者名簿ヲ製シ陸軍大臣ニ進達ス

第十一條 陸軍大臣ハ監督學生志願者ノ學力ヲ檢定スル爲メ監督學生試験委員ヲ設ケ經理局長ヲ委員長ト爲シ筆記及口述ノ試験ヲ行ハシム

第十二條 筆記試験ハ陸軍大臣其ノ時日ヲ定メ試験委員長ヲシテ受験者名簿及祕封問題ヲ所屬長官ニ送附セシム所屬長官ハ志願者ヲ集メ次席ノ將校同相當官ノ監視ヲ以テ之カ答解ヲ筆記セシメ答

解書ヲ直ニ試験委員長ニ送附セシム

第十三條 試験委員長ハ筆記試験ノ成績ニ依リ口述試験ヲ受クヘキ者ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ之ヲ各所屬長官ニ通知ス所屬長官ハ其ノ受験者ヲ經理局ニ派遣ス

第十四條 口述試験ハ學力應用ノ如何ヲ檢定スルモノニシテ試験委員之ヲ行フ但時宜ニ依リ筆記試験ヲ併セ行フコトアルヘシ(三十年勅令第二百九十九號ヲ以テ本項追加)

第十五條 試験委員長ハ筆記口述兩試験ノ成績ニ依リ監督學生ニ採用スヘキ者ヲ定メ陸軍大臣ニ上申ス陸軍大臣ハ之ヲ裁定シ經理學校監督學生ヲ命ス

第十六條 軍吏學生ハ年齢二十二歳以下ノ現役(休職停職を除ク)歩騎砲工輜重兵特務曹長及一箇年以上現官ニアル現役各兵科曹長一等計手ノ志願者ニシテ試験ニ合格シタル者ヲ選抜シテ採用ス(三十年勅令第四百十九號ヲ以テ條中改正)

前項ノ年齢及停年ヲ算スルハ七月一日ヲ以テス

第十七條 軍吏學生志願者ハ五月三十一日迄ニ願書ヲ聯隊長又ハ所屬長官ニ出スヘシ聯隊長又ハ所屬長官ハ之ヲ調査シ其ノ願書ニ考科表寫ヲ添ヘ之ヲ當該監督部長ニ送附スヘシ但陸軍省及陸軍省經理局所屬官衙ノ計手ヨリ志願スル者ノ願書ハ經理局第一課長ニ送附スヘシ(三十二年勅令第四百十八號ヲ以テ條中改正)

第十八條 經理局第一課長及各監督部長ハ前條ノ書類ヲ審査シ受験者名簿ヲ製シ六月三十日迄ニ經理局長ニ進達ス經理局長ハ之ヲ經理學校長ニ下附ス

第十九條 軍吏學生採用試験ハ經理局長其ノ時日ヲ定メ經理學校長ヲシテ試験問題ヲ作り之ヲ經理局第一課長及各監督部長ニ送附セシム經理局第一課長及各監督部長ハ試験委員ヲ設ケ試験ヲ施行ス

監督部所在地外ニアル者ハ監督部長ヨリ試験施行ヲ本人ノ所屬長官ニ依託スルコトヲ得

第二十條 經理局第一課長及各監督部長ハ前條試験ノ答解書ヲ審査シ優等者ノ答解書ニ得點表及受験者ニ係ル自己ノ意見書ヲ添ヘ經理局長ニ呈ス經理局長ハ之ヲ經理學校長ニ下附ス

第二十一條 經理學校長ハ前條ノ書類ヲ審査シ優劣人名簿ヲ製シ之ニ自己ノ意見書ヲ添ヘ經理局長ニ呈ス經理局長ハ之ヲ審査シ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケテ軍吏學生ニ採用スヘキ者ヲ定メ各其ノ所屬長官ニ通知ス所屬長官ハ本人ニ經理學校軍吏學生ヲ命ス但經理局所屬官衙ノ者ハ經理局長之ヲ命ス

第二十二條 工長候補生ハ各隊初年縫工靴工及陸海軍豫備役後備役ニ非サル者ニシテ召募試験ニ及第シタル者ヨリ採用ス(三十二年勅令第四百十八號ヲ以テ次項トモ改正)

工長候補生ハ縫工靴工ヨリ採用スル者ヲ學生其ノ他ヨリ採用スル者ヲ生徒ト稱ス

第二十三條 各學生及生徒人員入校時日及其採用ニ關スル規定ハ陸軍大臣之ヲ定メ告達ス

第二十四條 學生入學ノ告達アレハ聯隊長直屬長官ハ本人ノ兵籍寫ヲ經理局長ハ監督學生ノ考科表寫ヲ經理學校長ニ送附ス(三十二年勅令第四百十號ヲ以テ條中改正)

第二十五條 修學期ハ監督學生ハ概ネ二箇年、軍吏學生及工長候補生ハ概ネ一箇年半トス(上)

第二十六條 監督學生、軍吏學生ハ校外ニ工長候補生ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ書籍器具及消耗品ヲ貸與又ハ支給ス(上)

生徒ニハ被服糧食及手當金ヲ支給ス

第二十七條 各學生ノ名籍ハ原所管ニ存置シ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス(三十二年勅令第四百十號ヲ以テ條中削除)

第二十八條 各學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス

第二十九條 校長ハ期ヲ定メテ各學生及生徒ノ試験ヲ施行シ其終末試験ヲ終レハ其ノ成績ヲ審査シ列序ヲ定メ考科表ヲ製シ經理局長ニ進達シ其認可ヲ請ケテ卒業證書ヲ附與ス(三十二年勅令第四百十號ヲ以テ條中削除)

第三十條 校長ハ各學生及生徒中傷疾疾病ノ爲メ終末試験ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ詮議ノ上尙若干月間修學ヲ許シ又ハ特ニ本人ノ爲メニ試験ヲ施行スルコトアルヘシ

第三十一條 監督學生軍吏學生中疾病其他ノ事故ニテ卒業ノ目途無キ者ハ退校ノ上原所管ニ復歸セシム(三十二年勅令第四百十號ヲ以テ條中改正)

第三十二條 工長候補生中左ノ事項ノ一ニ該ル者ハ退校ヲ命シ又ハ現所管ニ復歸セシム(上)  
其一 學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ目途ナキ者  
其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四 自己ノ不攝生ヨリ發病シ久シク休業スル者

其五 長病ニ罹リ卒業ノ目途ナキ者

其六 終末試験ニ落第セシ者

三十三條 校長ハ工長候補生中優等ノ者ハ學期未滿ト雖モ臨時試験ヲ施行シ經理局長ノ認可ヲ請クテ卒業證書ヲ附與スルコトヲ得(三十二年勅令第四百十  
八號ヲ以テ條中改正)

前項ノ者ハ時宜ニ依リ第二十五條ノ學期中教員ノ助手ニ充ツルコトヲ得

第三十四條 第三十一條第三十二條ニ該ル者アルトキハ校長ハ事由ヲ悉シ經理局長ニ上申シ其認可ヲ請クヘシ(上全)

附 則

第三十五條 明治二十三年勅令第二百六十五號陸軍經理學校條例同年勅令第三十號陸軍被服工長學舍條例ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス但明治二十九年三月三十一日以前入校及入舍ノ監督講習生軍吏學生及工長學生ニハ從前ノ規定ヲ適用ス

第三十六條 各學生及生徒ノ修學期ハ補充上ノ都合ニ依リ當分ノ内短縮スルコトヲ得

○衛戍病院條例(明治三十一年二月  
勅令第二十七號)

朕衛戍病院條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

衛戍病院條例

第一條 衛戍病院ハ衛戍地ニ置キ所在地陸軍部隊(官衛學校ヲ包  
含ス以下同シ)ノ患者ヲ收療シ且衛生材料ノ保管供給及衛生部下士以下ノ教育ヲ掌ル所トス(三十二年勅令第四百十  
七號ヲ以テ條中改正)

衛戍病院ハ衛戍地ノ情況ニ依リ分院ヲ設クルコトヲ得但其ノ設置及位置ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二條 衛戍病院(普通ハ  
除ク)ハ衛戍地兵員ノ多少ニ依リ五等ニ區分ス

衛戍病院及其ノ分院ハ所在ノ地名ヲ冠シ某衛戍病院又ハ某衛戍病院某分院ト稱ス

第三條 衛戍病院ニ左ノ職員ヲ置ク(三十二年勅令第二百  
九十三號ヲ以テ改正)

病院長

軍醫

藥劑官

軍吏

下士

前項職員中藥劑官ハ五等病院ニ軍吏ハ三等以下ノ病院ニ置カサルヲ例トス

第四條 前條職員ノ外所在地部隊附軍醫ハ病院ノ勤務ニ服スルモノトス

第五條 病院長ハ所在地高級團隊長(東京ニ在テハ第一團團長、瀋陽ニ在テハ第一營營長、  
備前旅團長、要塞所在地ニ在テハ要塞司令官)ニ隸シテ院務ヲ總理シ院內ノ衛生治病及教育ノ責ニ任ス尙ホ其ノ勤務ニ關シテハ所管軍醫部長ノ監督ヲ受ク



第六條 軍醫以下ノ職員ハ病院長ノ命ヲ受ケ院務ヲ分掌ス所在地部隊附軍醫ノ病院勤務ニ服スル者亦同シ

第七條 入院患者ノ治療ニ關スル諸費ハ病院ノ支辨トス但准士官以上及自費服役ノ一年志願兵並軍屬ニシテ其ノ傷痍疾病公務ニ起因セサル者又ハ公務ノ爲傳染病ニ感染シ手當金ヲ受クル者ハ其ノ定額ヲ納付セシム(三十二年勅令第四百十七號及三十三年勅令第二百九十三號ヲ以テ條中加)

第八條 軍人軍屬旅行途上發病シタルトキ其ノ他止ムヲ得サル場合ニ在テハ第一條ノ規定ニ拘ラス附近衛戍病院ニ收療スルコトヲ得現職若クハ現役ヲ離レ又ハ候補生諸生徒ヲ免セラレタル者ニシテ一時收療ヲ要スルトキ亦同シ

前項ノ他廣島衛戍病院ニ在テハ臺灣及海外駐劄部隊ヨリ航送ノ患者ヲ收療ス其手續ハ陸軍大臣之ヲ定ム(三十二年勅令第四百十號ヲ以テ本項追加)

第九條 營外居住タル軍人軍屬ノ患者ハ入院ヲ要スル者ノ外衛戍病院ヨリ藥物療用品ヲ與フルコトナシト雖モ土地ノ情況又ハ救急處置等ノ爲メ止ヲ得サル場合ニ限リ軍醫ノ處方ニ據リ之ヲ與フルコトヲ得但其ノ傷痍疾病公務ニ起因セザル者又ハ公務ノ爲傳染病ニ感染シ手當金ヲ受クル者ハ代價ノ定額ヲ納付セシム(三十二年勅令第四百九號ヲ以テ條中追加)

第十條 第七條及第九條ノ定額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

第十一條 本條例ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

○ 陸軍衛生會議條例(明治三十一年十二月勅令第九十五號)

朕陸軍衛生會議條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍衛生會議條例

第一條 陸軍衛生會議ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省醫務局長ニ隸シ陸軍ノ衛生事項ヲ議定スル所トス

第二條 會議ニ左ノ職員ヲ置ク(三十年勅令第三百九十八號ヲ以テ議長ノ上若ハ云々ノ數字ヲ加フ)

議長 軍醫監若ハ一等軍醫正「一人」

事務官 一等軍醫若ハ二等軍醫「二人」

議員 「若干人」

第三條 議長事務官ハ各本職アル者ヲ以テ兼補ス

第四條 議員ハ衛生部上長官ニシテ本職アル者ヲ以テ兼補ス但第五條第二項ノ事ヲ議スルニ方リ醫務局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ各兵科並ニ監督部獸醫部上長官或ハ高等文官ニ臨時議員ヲ命セラレシコトヲ陸軍大臣ニ具申シ陸軍大臣ニ於テ之ヲ命ス臨時議員ハ其議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス(三十年勅令第三百九十號ヲ以テ條中改正)

第五條 議事ヲ別テ二種トス

- 一 衛生部内又ハ醫學的ニ關スル事項

二 軍部一般ニ渉ル衛生ノ事項

- 第六條 議長ハ議事ヲ整理シ會議諸般ノ事務ヲ總理ス
- 第七條 事務官ハ會議ニ關スル庶務ヲ分擔ス
- 第八條 議事ニ當リ議長不在ナルトキハ議員中衛生部上長官ニシテ高級ノ者議長ノ代理ヲ爲スヘシ
- 第九條 議案ハ醫務局長ヨリ發スルモノ又ハ會議ノ立案ヨリ成ルモノトス但會議ノ立案ニ係ルモノハ豫メ醫務局長ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十條 凡ソ議事ハ過半数ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
- 第十一條 議決ノ上ハ其議決書ヲ醫務局長ニ進達スルモノトス
- 第十二條 物件ノ試験又ハ模範等製造ノ爲メ費用ヲ要スルトキハ其理由ヲ悉シ豫算書ヲ添ヘテ醫務局長ニ具申スヘシ
- 第十三條 會議常川ノ諸物品ハ醫務局ヨリ之ヲ支給ス

○ 軍馬衛生會議條例 明治三十三年五月勅令第二百十八號

朕軍馬衛生會議條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍馬衛生會議條例

第一條 軍馬衛生會議ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省軍務局長ノ管理ニ屬シ軍馬ノ衛生事項ニ關シ諮詢ニ

應スル所トス

第二條 軍馬衛生會議ニ左ノ職員ヲ置ク

- 議長
- 議員
- 事務官
- 臨時議員

臨時議員ハ議事ニ必要ニ應ジ軍務局長ノ稟申ニ由リ陸軍大臣ニ於テ之ヲ命ジ議事了レハ直ニ解任スルモノトス

第三條 前條職員ノ外判任文官ヲ置ク

第四條 議長ハ陸軍省軍務局長ニ隸シ議事ヲ整理シ會議ノ事務ヲ總理ス

第五條 事務官ハ議長ノ命ヲ受ケ會議ノ事務ヲ處理シ審査ヲ分擔ス而シテ分擔ノ事項ニ關シテハ議事ニ列シ説明答辯ノ任ニ當ル

第六條 議事ニ當リ議長不在ナルトキハ議員中高級故參ノ者其代理ヲ爲スヘシ

第七條 軍馬衛生會議ハ軍馬ノ衛生ニ關シ必要ト認ムル事件ハ陸軍省軍務局長ニ建議スルコトヲ得

第八條 議事ハ過半数ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

○陸軍軍醫學校條例明治二十九年五月勅令第百九十四號

朕陸軍軍醫學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍醫學校條例

第一條 陸軍軍醫學校ハ學生ノ練習、生徒ノ教成衛生部ニ關スル教科用書ノ編修若クハ選擇及兵衣、兵食、兵器等ノ軍陣衛生ニ關スル試驗ヲ行フ所トス(三十二年勅令第四百十九號ヲ以テ條中追加)

第二條 學生ハ各部隊附ノ衛生部士官ヲ分遣シテ之ニ充テ其特科ヲ練習セシム但シ時宜ニ依リ三等軍醫正ニ練習ヲ命スルコトアルヘシ(三十二年勅令第四百十九號ヲ以テ二等ヲ三等ニ改メ)

第三條 生徒ハ醫術開業免狀又ハ藥劑師免狀ヲ所持シ衛生部現役士官ニ出身志願ノ者ヲ撰拔シテ採用ス(三十年勅令第二十號ヲ以テ條中改正)

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク  
校長 一、二等軍醫正(三十二年勅令第四百十九號ヲ以テ一ノ次ニニテ加フ)  
副官 一等軍醫  
教官 衛生部上長官、士官

第五條 校長ハ陸軍省醫務局長ニ隸シ校務ヲ掌理シ第一條ノ事項ニ關シテ其責ニ任ス(三十二年勅令第四百十九號ヲ以テ條中改正)

第六條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬ヲ置ク

第七條 教官ハ各専門學科ノ教授ニ任シ兼テ第一條ノ事項ヲ分擔ス(三十二年勅令第四百十九號ヲ以テ條中改正)

第八條 學生ノ練習期ハ四箇月以内トシ生徒ノ教成期ハ一箇年以内トス

第九條 學生及生徒ノ人員、入校時日並ニ生徒採用ニ關スル規定ハ陸軍大臣之ヲ定メテ告達ス

第十條 學分分遣、告達アレハ師團軍醫部長ハ入校期十日前三本ノ兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘ軍醫學校長ヘ送達スルモノトス

第十一條 學生及生徒ハ校外ニ居住セシメ其科業ニ關シ所要ノ書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十二條 學生ノ名籍ハ原所管ヲ離ルルコトナシト雖分遣中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十三條 學生ノ練習ヲ終ルトキハ校長ハ原所管ニ復歸ヲ命シ練習中ノ成績ヲ醫務局長ニ報告シ且所管ノ師團軍醫部長ニ之ヲ通知ス

第十四條 生徒ノ教成ヲ終ルトキハ校長ハ卒業試驗ヲ行ヒ其成績ニ據リ列序ヲ定メ考科表ヲ製シテ醫務局長ニ進達シ其認可ヲ請ケ卒業證書ヲ付與ス

第十五條 學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス

第十六條 學生中疾病又ハ其他ノ事故ニ依リ練習ヲ終ルノ目途ナキ者ハ原所管ニ復歸セシム

第十七條 生徒中左ノ事項ノ一ニ該タル者ハ退校セシム  
其一 學力乏クシテ卒業ノ目途ナキ者  
其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

第二十三類 陸軍軍醫學校條例

其三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者  
其四 疾病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者  
其五 卒業試験ニ落第セシ者

第十八條 第十六條第十七條ニ該タル者アルトキハ校長其事由ヲ悉シ醫務局長ニ上申シ其認可ヲ請ケ復歸若クハ退校ヲ命ス

第十九條 現役豫備役後備役ニ在ル者ニシテ生徒トナリタル者前條ノ處分ヲ受ケタルトキハ原所管ニ復歸セシメ前役ヲ通算入校中ノ日數ヲ含メス現役豫備役後備役ニ編入ス(三十年勅令第二十號ヲ以テ本條追加)

○陸軍獸醫學校條例明治三十三年十月勅令第四百二十號

朕陸軍獸醫學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍獸醫學校條例

第一條 陸軍獸醫學校ハ學生ニ各専門ノ學術ヲ練習セシメ常ニ獸醫及蹄鐵ニ關スル學術ノ調査研究ヲ爲シ軍馬衛生ニ關スル試験ヲ行ヒ且蹄鐵工長候補生ニ蹄鐵工長タルニ必要ノ教育ヲ爲ス所トス

第二條 學生ハ獸醫部士官及隊附騎兵、砲兵、輜重兵蹄鐵工長、候補生ハ騎兵、野戰砲兵、輜重兵隊ヨ

リ分遣スル蹄鐵工長候補生ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 騎兵大中佐

副官 騎兵大中尉

教官 獸醫監 騎兵大尉  
一等獸醫 騎兵中尉

軍醫

軍吏

下士、判任文官

第四條 校長、教官ノ内騎兵中尉及軍醫、軍吏ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補ス

第五條 校長ハ陸軍省軍務局長ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 教官ハ學術ノ教授及其調査研究ヲ分擔シ軍馬ノ衛生ニ關スル試験ニ從事ス

第八條 學期ハ概ネ學生士官ニ在テハ五箇月、同下士ニ在テハ三箇月、候補生ニ在テハ九箇月トス

第九條 學生、候補生ノ人員及入校時日ハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十條 學生、候補生分遣ノ告達アレハ師團長ハ學生士官ニ在テハ獸醫部長、同下士ニ在テハ當該隊長ヲシテ選定セシメ入校期日十日前迄ニ學生士官ニ在テハ兵籍寫、同下士及候補生ニ在テハ兵籍

寫及考科表寫ヲ校長ニ送セテ送シム

第十一條 學生士官ハ校外ニ同下士及候補生ハ校内ニ居住セシム但營外居住ノ下士ニ在テハ校外トス

第十二條 學用品ハ學生士官ニ在テハ自辨トシ同下士及候補生ニハ之ヲ貸與又ハ支給ス但學生士官ト雖モ科業ノ種類ニ由リ之ヲ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

學生下士、候補生ニ在テハ武器被服及器具ヲ其所屬隊ヨリ携行セシム

第十三條 學生、候補生ノ願届其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十四條 學生、候補生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ得ス

第十五條 學生、候補生中左ノ事項ニ該ル者ハ校長其事由ヲ具シ軍務局長ノ認可ヲ請ケ退校歸隊セシム但候補生徒ニ在テハ豫メ所屬隊長ニ通報シ退校ト同時ニ除隊ノ處分ニ附スルコトアリ

其一 學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四 傷病疾病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者

其五 終末試験ニ落第セシ者

候補生ニ在テ傷病疾病其他ノ事故ニ依リ終末試験ヲ受ケサルモ望ミアル者ハ若干日ノ後特ニ受験

セシムルコトヲ得又終末試験ニ落第スルモ尙ホ望ミアル者ハ若干日間學術ノ補修ヲ爲シ卒業セシムルコトヲ得

第十六條 校長ハ學期末ニ於テ學生ニ在テハ教官會議ヲ開キ其成績ヲ審査シテ修得證明書ヲ附與シ候補生ニ在テハ終末試験ヲ施行シ及第者ニハ卒業證書ヲ附與ス

學生及候補生修學ヲ終レハ校長ハ原所管ニ復歸ヲ命シ且其成績ヲ軍務局長ニ報告シ所屬長及所管師團獸醫部長ニ通知ス

第十七條 授業上所要ノ馬匹ハ陸軍騎兵實施學校飼養ノモノヲ以テ之ニ充ツ時宜ニ依リ他ノ學校及軍隊飼養ノ馬匹ヲモ之ニ充ツルコトヲ得

將校及同相當官飼養ノ馬匹ハ本人ノ希望ニ依リ前項ノ所要ニ供スルコトヲ得

附則

第十八條 現在ノ陸軍獸醫學校生徒ニ關シテハ本令施行後ト雖モ尙ホ前從ノ規定ニ依ル

○

○陸軍砲兵工科學校條例明治三十二年十月勅令第四百二十一號

朕陸軍砲兵工科學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵工科學校條例

第一條 陸軍砲兵工科學校ハ東京砲兵工廠ニ置キ同廠提理ノ管理ニ屬シ火工學生ニ火工術ヲ教授シ  
砲兵工長候補生ニ鞍工銃工木工鍛工長タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 火工學生ハ砲兵隊長期下士中ヨリ分遣シ砲兵工長候補生ハ陸海軍豫備役後備役ニ在リサル  
モノ及各兵科初年兵ニシテ召募試験ニ及第シタル者ヨリ採用ス

砲兵工長候補生中兵卒ヨリ採用分遣セシモノヲ砲兵工長候補學生其他ヨリ採用セシモノヲ砲兵工  
長候補生徒ト稱ス

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 砲兵少佐

學校附 砲兵大中尉

軍醫

軍吏

第四條 前條ニ掲クル職員ノ外砲兵科衛生部軍吏部下士及陸軍助教ヲ置ク

第五條 校長ハ東京砲兵工廠提理ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス

第六條 學校附砲兵大中尉ハ訓育及學術ノ教授ニ任シ日常學生生徒ノ躬行ヲ監視シ分擔ノ教育ニ就  
テハ擔保ノ責ニ任ス

助教ハ圖書等ノ教授ヲ擔任ス

第七條 學期ハ火工學生ニ在テハ概ネ一箇年砲兵工長候補生ニ在テハ概ネ二箇年トス

第八條 火工學生及砲兵工長候補生各工科専門ノ實業ハ東京砲兵工廠ニ於テ之ヲ教授ス學校ノ内務  
ハ概ネ軍隊内務ノ規定ニ依ル

第九條 火工學生及砲兵工長候補生ノ人員ハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十條 火工學生ハ告達アレハ師團長ハ砲兵隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期十日  
前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘ提理東京砲兵工廠提理以下之ニ依リニ送達セシムヘシ

第十一條 砲兵工長候補學生ヲ命セラレタルモノモ亦前條ニ準シ其兵籍寫ヲ提理ニ送達スヘシ

第十二條 火工學生及砲兵工長候補學生ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所用ノ書籍器具機械雜具消耗品  
並修業用ノ原料ハ學校ヨリ貸與又ハ支給スルモノトス但武器被服裝具ハ所屬隊ヨリ携行セシム

第十三條 砲兵工長候補生徒ニ關スル一切ノ費用ハ官給トシ且手當金ヲ給ス

第十四條 火工學生及砲兵工長候補學生分遣入校中願屆等ニ關スル諸件ハ總テ提理ノ管理ニ屬ス

第十五條 火工學生及砲兵工長候補生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十六條 學期末ニ於テ終末試験ヲ施行シ及第スル者ニハ卒業證書ヲ附與シ火工學生ニ在テハ原隊  
ニ復歸ヲ命シ其試験成績ヲ提理ヨリ師團長ヲ經テ當該砲兵隊長ニ移ス

第十七條 火工學生及砲兵工長候補生ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ル者ハ學生若クハ工長候補生  
ヲ免ス

- 一 學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者
  - 二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯シ若クハ品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
  - 三 傷痍疾病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者
  - 四 卒業試験ニ落第シタル者
- 第十八條 前條各項ノ一ニ該ルモノアルトキハ學校長其事由ヲ悉シ提理ニ具狀シ認可ヲ受ケ之ヲ處分ス

第十九條 火工學生及砲兵工長候補生中傷痍疾病其他ノ事故ニ依リ終末試験ヲ受ケサルモ望ミアル者ハ若干日ノ後特ニ受験セシムルコトヲ得又第十七條第四項ニ該ルモノニシテ尙ホ望ミアル者ハ若干日間學術ノ補修ヲ爲シ卒業セシムルコトヲ得

附則

本令施行前入校ノ生徒ハ總テ砲兵工長候補生徒ト爲シ尙ホ卒業ノ目途ナキ者ニ就テハ舊條例第十五條ノ規定ニ依ル

本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス

○ 陸軍砲兵會議條例 明治三十二年二月 勅令第十二號

朕陸軍砲兵會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵會議條例

第一條 陸軍砲兵會議ハ砲兵技術及兵器材料工兵會議ニ屬スニ關シ陸軍大臣ノ諮詢ニ應シ且其改良進歩ヲ圖リ審査立案スル所トス

第二條 陸軍砲兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長 少將若クハ砲兵大佐

議員 各兵科佐官

臨時議員 各兵科各部上長官或ハ陸軍技師

審査官 砲兵佐官同大尉

第三條 前條ニ掲クル職員ノ外審査官ノ下ニ准士官、下士、齒屬、技手ヲ置ク

第四條 議長ハ陸軍大臣ニ隸シ議事ヲ整理シ會議一切ノ事務ヲ總理ス

第五條 審査官ハ審査試験ノ事ヲ分擔シ其事項ニ關シテハ議事ニ列シ答辯説明ノ任ニ當リ且會議ノ事務ヲ處理ス

第六條 議員ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補ス

臨時議員ハ議事ノ必要ニ方リ陸軍大臣他ニ本職アル者ヲ以テ之ヲ命シ議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス

第七條 議長不在ノトキハ議事ニ關シテハ議員中高級故參ノ者其代理ヲ爲スヘシ但議員ハ事務ニ關

シ代理スルコトナシ

第八條 陸軍砲兵會議ノ立案ニ係ル事項ハ陸軍大臣ニ建議スルモノトス但輕易ノ事項ニシテ議事ニ附スルノ必要ナシト認ムルモノニ在テハ議長ハ直ニ之ヲ建議スルコトヲ得

第九條 陸軍砲兵會議ハ議事規則ヲ議定シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 歩騎工、輜重兵科ノ議員ハ其兵科ノ議員ハ其兵科ニ關係アル議事ニノミ列セシムルモノトス

第十一條 議事ニ關係アル議員二分ノ一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得

ス但緊急ノ場合ニ在テハ議事ニ關係アル議員三分ノ一以上出席スルトキハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得

第十二條 議長ハ議事表決ノ數ニ與カルコトヲ得ス

第十三條 議事ハ出席議員ノ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ據ル

第十四條 輕易ノ事項ニシテ議事ニ附スルノ必要ナキモノハ陸軍大臣ハ單ニ審査若クハ起案ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 試験ノ爲メ必要ト認ムルモノハ其種類ニ應シ陸軍戸山學校、陸軍騎兵實験學校、陸軍野戰砲兵射擊學校、陸軍要塞砲兵射擊學校ニ於テ實施セシムルモノトス又特ニ要スル場合ニ在テハ議長ハ師團長ニ稟議シ軍隊ヲシテ之ヲ實施セシメ若クハ必要ノ人馬材料ヲ使用スルコトヲ得

第十六條 砲工兵兩科ノ技術ニ跨カル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニアリテハ陸軍大臣之ヲ特達ス

第十七條 合同會議ヲ開クトキハ砲工兵兩會議議長中高級故參ノ者議長トナリ下級ノ者ハ議員ニ列シ表決ニ與カルモノトス本條第二項ノ場合ニ於テハ高級故參ノ者モ亦同シ

議事ノ必要ニ依リ陸軍大臣ハ特ニ他ノ將官ヲ以テ議長ニ命スルコトアルヘシ但其議事了レハ直チニ解任スルモノトス

第十八條 合同會議ハ總テ本會議ノ規定ニ據ル

第十九條 合同會議議長ハ砲工兵兩會議ノ審査官ヲシテ第五條ノ事項ヲ處理セシムルモノトス

○ 陸軍工兵會議條例 明治三十年七月 勅令第二百三十七號

朕陸軍工兵會議條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍工兵會議條例

第一條 陸軍工兵會議ハ工兵技術並兵器材料砲兵會議ニ屬スニ關シ陸軍大臣ノ諮詢ニ應シ且其改良進歩ヲ圖リ審査立案スル所トス(三十二年勅令第十號ヲ以テ改正)

第二條 陸軍工兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長 少將若クハ工兵大佐

議員 工兵佐官

臨時議員 各兵科各部上長官或ハ陸軍技師



審査官 工兵佐官同大尉

第三條 前條ニ掲クル職員ノ外審査官ノ下ニ工兵上等監護、工兵下士並屬、技手ヲ置ク

第四條 議長ハ陸軍大臣ニ隷シ議事ヲ整理シ會議一切ノ事務ヲ總理ス

第五條 審査官ハ審査試験ノ事ヲ分擔シ其ノ分擔事項ニ關シテハ議事ニ列シ答辯説明ノ任ニ當リ且會議ノ事務ヲ處理ス

第六條 審査官ニハ陸軍技師ヲ混用スルコトヲ得

第七條 議員ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補ス

臨時議員ハ議事ノ必要ニ方リ陸軍大臣他ニ本職アル者ヲ以テ之ヲ命シ議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス

第八條 議長不在ノトキハ議事ニ關シテハ議員中高級故參ノ者其ノ代理ヲナスヘシ但議員ハ事務ニ關シ代理スルコトナシ

第九條 陸軍工兵會議ノ立案ニ係ル事項ハ陸軍大臣ニ建議スルモノトス但輕易ノ事項ニシテ議事ニ附スルノ必要ナシト認ムルモノニ在テハ議長ハ直ニ之ヲ建議スルコトヲ得(三十二年勅令第十號ヲ以テ改正)

第十條 陸軍工兵會議ハ議事規則ヲ議定シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十一條 總議員二分一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス但緊急ノ場合ニ在テハ總議員三分一以上出席スルトキハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得

第十二條 議長ハ議事表決ノ數ニ預ルコトヲ得ス

第十三條 議事ハ出席議員ノ過半数ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十四條 輕易ノ事項ニシテ議事ニ附スルノ必要ナキモノハ陸軍大臣ハ單ニ審査若クハ起案ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 試験ノ爲メ軍隊ヲ要スルトキハ議長ハ師團長ニ稟議シテ之ヲ使用スルコトヲ得(三十二年勅令第十三號ヲ以テ改正)

第十六條 砲工兵兩科ノ技術ニ跨ル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ在テハ陸軍大臣之ヲ特選ス

第十七條 合同會議ヲ開クトキハ砲工兵兩會議議長中高級故參ノ者議長トナリ下級ノ者ハ議員ニ列シ表決ニ預ルモノトス第二項ノ場合ニ於テハ高級故參ノ者モ亦同シ

議事ノ必要ニ依リ陸軍大臣ハ特ニ他ノ將官ヲ以テ議長ニ命スルコトヲ得但其議事了レハ直ニ解任スルモノトス

第十八條 合同會議ハ總テ本會議ノ規定ニ據ル

第十九條 合同會議議長ハ砲工兵會議ノ審査官ヲシテ第五條ノ事項ヲ處理セシムルモノトス(三十二年勅令第十三號ヲ以テ追加)

○陸軍監獄官官制(明治二十六年十月)

勅令第四百四十二號

朕陸軍監獄官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍監獄官官制

第一條 陸軍監獄ニ左ノ職員ヲ置ク

陸軍監獄長

陸軍監獄書記

陸軍監獄看守長

陸軍監獄看守

第二條 監獄長ハ奏任トシ監獄書記及監獄看守長ハ判任トシ監獄看守ハ判任官待遇トス

第三條 監獄長ハ衛戍司令官若クハ「屯田兵司令官」ニ隸シ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第四條 監獄長ハ陸軍懲罰令ニ定ムル所ニ從ヒ監獄所屬員ヲ懲戒ス

第五條 監獄書記ハ監獄長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第六條 監獄長事故アルトキハ上席監獄書記其ノ事務ヲ代理ス

第七條 監獄看守長ハ監獄長ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ監獄看守ヲ指揮監督ス

第八條 監獄看守ハ監獄看守長ノ命ヲ承ケ看守、護送及門衛等ノ事ニ服ス

第九條 監獄看守長及監獄看守職務ニ服スルトキハ刀ヲ帶ヒ制服ヲ着ス

第十條 監獄内ノ衛生事務ハ其地所在ノ衛戍病院附軍醫及看護長ヲシテ之ヲ管掌セシム

但札幌ニ在テハ屯田兵軍醫部附軍醫ヲシテ之ヲ管掌セシム

附則

第十一條 本令施行前ヨリ陸軍監獄ニ職ヲ奉スル下士卒ハ本令施行ノ日ヲ以テ現役満期トス

下士ニシテ服役年數七年未滿ノ者ハ豫備役ニ七年以上十二年未滿ノ者ハ後備役ニ服セシム但明治

二十四年勅令第百八十七號施行以前ニ任セラレタル軍吏部下士ニシテ服役九年未滿ノ者ハ豫備役

ニ九年以上十二年未滿ノ者ハ後備役ニ服セシム

第十二條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

本令中監獄看守ニ係ル規程ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

○千住製絨所官制

朕千住製絨所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

千住製絨所官制

第一條 千住製絨所ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍所用ノ絨布製造ノ事ヲ掌ル

官廳又ハ人民ヨリ絨布ノ製造ヲ依頼スルトキハ陸軍所用ノ絨布製造事業ノ妨ケナキ限リハ之ニ應

スルコトヲ得

第二條 千住製絨所ニ左ノ職員ヲ置ク(三十二年勅令第七十九號ヲ以テ定員ヲ改ム)

所長 一人

技師 二人

屬 八人

技手 十二人

第三條 所長ハ奏任トス陸軍大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ所長ノ指揮監督ヲ承ケ製絨ノ事ヲ監理ス

第五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製絨ノ事ニ従フ

附則

第七條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○陸軍ニ通譯生ヲ置ク明治二十九年九月  
勅令第三百六號

朕陸軍通譯生ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 外國語ヲ通譯スルノ必要アル陸軍官衙及各部ニ於テハ判任官定員以内ヲ以テ陸軍通譯生ヲ置クコトヲ得

第二條 陸軍通譯生ハ判任トス

第三條 陸軍通譯生ハ文官任用令ノ規程ニ依ラス文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

○教育總監部條例明治三十三年四月  
勅令第五百七號

朕教育總監部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教育總監部條例

第一條 教育總監部ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍全般教育ノ齊一進歩ヲ規畫スル所トス

第二條 教育總監ハ陸軍大將若クハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ

天皇ニ直隸ス

第三條 教育總監ハ各兵監ヲ統督シ陸軍砲工學校陸軍士官學校陸軍中央幼年學校陸軍地方幼年學校

陸軍戸山學校並ニ陸軍將校生徒試驗委員ヲ管轄ス

第四條 教育總監部ニ幕僚及砲工輜重兵監部ヲ置ク

第五條 參謀長ハ教育總監ヲ輔佐シ幕僚ヲ統ヘ事務整理ノ責ニ任ス

第六條 幕僚將校及軍吏ハ參謀長ノ下ニ在リテ事務ニ服ス

第七條 騎兵監ハ各騎兵團隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項

ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍騎兵實施學校ヲ管轄ス

第八條 野戰砲兵監ハ各野戰砲兵團隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又野戰砲兵

ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍野戰砲兵射擊學校ヲ管轄ス

- 第九條 要塞砲兵監ハ各要塞砲兵隊ノ教育上本科専門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又要塞砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌ル
- 第十條 工兵監ハ各工兵隊ノ教育上本科専門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌ル
- 第十一條 輜重兵監ハ各輜重兵隊ノ教育上本科専門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌ル
- 第十二條 野戰砲兵監、要塞砲兵監及工兵監ハ砲工學校ヲ巡閱シ各本科學生ノ教育上ニ就キ意見アルトキハ之ヲ教育總監ニ具申スヘシ
- 第十三條 各兵監ハ陸軍軍隊檢閱條例ニ依リ臨時ニ當該兵團隊ノ檢閱ヲ行フ
- 第十四條 各兵監部員ハ各其兵監ノ下ニ在リテ事務ヲ分擔ス
- 第十五條 教育總監部ノ編制ハ別ニ定ムル所ニ依ル

○

陸軍將校生徒徒試驗委員條例明治三十一年十月勅令第二百四十五號  
 陸軍將校生徒徒試驗委員條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍將校生徒徒試驗委員ハ將校生徒ノ召募試驗ニ任スルモノニシテ之ヲ分テ常置委員及臨時

委員ノ二トス

第二條 常置委員ハ之ヲ教育總監部ニ置キ士官候補生、地方幼年學校生徒及一年志願兵志願者ノ召募試驗格位試験問題其ノ他試験ニ關スル事項ヲ調査立案シ士官候補生ノ志願書類ヲ審査シ且士官候補生及地方幼年學校生徒召募試驗ノ成績ヲ調査スルモノニシテ其ノ組織左ノ如シ(三十三年勅令第三百十五號ヲ以テ改正)

常置委員長

常置委員

常置委員主事

第三條 常置委員長及委員ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補シ主事ハ之ニ專補ス(三)但シ主事ニハ豫備後備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得

第四條 常置委員長ハ教育總監ニ隸シ委員以下ヲ統督シ試験ノ事ニ關シテハ教育總監ニ對シ責ニ任ス

第五條 常置委員試驗問題ノ起案並ニ試験成績ノ調査ヲ分擔ス

第六條 常置委員主事ハ試験ニ關スル一切ノ事務ヲ處理シ委員長ニ對シ事務整理ノ責ニ任ス

第七條 常置委員主事ノ下ニ書記トシテ判任文官ヲ置ク(三十三年勅令第三百十五號ヲ以テ改正)

第八條 教育總監ハ常置委員長ノ具申ニ依リ常置委員ノ外所管ノ將校同相當官陸軍教授判任文官ヲシテ試驗事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第九條 臨時委員各検査場ニ就キ試験ヲ實施スルモノニシテ其都度各師團長部下將校團長若クハ佐官中ヨリ所要ノ人員ヲ選ンテ之ヲ命ス但第一師團長ハ近衛師團長ニ協議シ近衛師團長ヲ將校團長若クハ佐官若干ヲ臨時委員ニ加フルコトヲ得(三十二年勅令第五十七號ヲ以テ但書追加)

臨時委員ハ試験實施ノ事ニ關シテハ師團長ニ對シ責任ス

第十條 師團長ハ前條臨時委員外受験者ノ數ニ應シ部下大中尉ニ命シ試験ノ事務ヲ補助セシムルコトヲ得但第一師團長ハ近衛師團長ニ協議シ近衛師團長ノ大中尉若干ヲ補助員ニ加フルコトヲ得(三十二年勅令第五十七號ヲ以テ但書追加)

第十一條 臨時委員ハ書記トシテ准士官下士若干ヲ使用スルコトヲ得

第十二條 師團長ハ試験實施ノ事ニ關シテハ教育總監ニ對シ責任ス(三十二年勅令第三百十號ヲ以テ條中改正)

○陸軍士官學校條例明治三十一年十月勅令第二百二十六號

陸軍士官學校條例

第一條 陸軍士官學校ハ陸軍各兵科士官候補生ヲ以テ生徒ト爲シ初級士官タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ教育總監之ヲ定ム(三十二年勅令第二百十號)

第三條 生徒教授ハ實施ハ規則ニ依ル該規則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ク之ヲ定ム

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 少將大佐
- 副官 大中尉
- 教官 中少佐、大中尉、軍醫、獸醫、陸軍教授、陸軍助教
- 生徒隊長 中少佐
- 生徒隊中隊長 大尉
- 生徒隊附 中尉

第五條 校長ハ教育總監ニ隷シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

- 第七條 軍事學教官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ佐官教官ヲ以テ各科ノ科長トス
- 第八條 馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校厩一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル
- 第九條 文官教官ハ外國語學ノ授業ヲ分擔ス
- 第十條 生徒隊長ハ生徒隊ヲ統ヘ生徒ノ訓育ヲ監督シ各中隊長ヲシテ擔任ノ訓育ニ任セシメ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任ス
- 第十一條 中隊長ハ生徒隊附士官ヲ指揮シ中隊生徒ノ訓育ヲ擔任シ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス
- 第十二條 生徒隊附士官ハ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ日常生徒ノ躬行ヲ監視シ分擔ノ訓育ニ就テハ其責ニ任ス
- 第十三條 生徒ノ修學期ハ毎年十二月一日ヨリ翌年十一月下旬ニ至ル十二箇月トス
- 第十四條 生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル
- 第十五條 生徒入校中ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス
- 第十六條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス
- 第十七條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム
  - 一 學術ノ豫習全カラスシテ實際修學ノ能力ニ乏シク卒業ノ目途ナキ者
  - 二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者
  - 三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

四 傷病疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者

五 卒業試験ニ落第セシ者

- 第十八條 前條第一第四及第五項ニ該當シ退校セシメシ士官候補生ニシテ尙望ミアル者ハ次ノ學期ニ於テ再ヒ入校セシムルコトヲ得
- 第十九條 生徒中疾病及其他ノ事故ニ依リ修學期內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者又ハ卒業試験ヲ受ケ得サル者ハ猶滯學ヲ命スルコトヲ得
- 第二十條 本條例第十七條及第十九條ニ該ル者アルトキハ校長其事山ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス
- 第二十一條 生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試験規格ヲ撰シ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試験ヲ行ハシム
- 第二十二條 卒業試験ヲ終レハ校長ハ各教官生徒隊長及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス
- 第二十三條 卒業證書ヲ附與シタル者ニハ校長直ニ歸隊ヲ命ス
- 第二十四條 滯學ヲ命セラレタル生徒修學ヲ終レハ前諸條ニ準シテ取扱フモノトス
- 第二十五條 生徒ニハ三週間以內ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得
- 第二十六條 教官、中隊長及生徒隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルハシ

○陸軍中央幼年學校條例(明治三十一年十月)

朕陸軍中央幼年學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍中央幼年學校條例

第一條 陸軍中央幼年學校ハ陸軍地方幼年學校卒業者ヲ以テ生徒ト爲シ地方幼年學校ノ教育ニ連繫シテ士官候補生タルニ必要ナル普通學科及軍人ノ豫備教育ヲ爲シ陸軍各兵科士官候補生ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ教育總監之ヲ定ム(三十二年勅令第二百一十五號ヲ以テ條中削除)

第三條 生徒教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ謝ケ之ヲ定ム

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 大中佐
- 副官 大中尉
- 教官 大中尉、陸軍教授、陸軍助教
- 生徒隊中隊長 大尉
- 門生徒隊中隊長 中尉

軍醫

獸醫

軍吏

准士官、下士、列任文官

第五條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責任シ東京陸軍地方幼年學校ヲ管轄ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校厩一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第八條 文官教官ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

教官中適任者一名ヲ撰テ教頭ト爲シ教授部全般ノ授業ヲ監視シ校長ニ對シ齊一進歩ノ責任ヲ負フ

第九條 中隊長ハ中隊付士官ヲ指揮シ中隊生徒ノ訓育ヲ擔任シ軍人精神ヲ涵養シ生徒ヲシテ軍紀ニ慣熟セシメ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責任ヲ負フ

第十條 中隊附士官ハ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ日常生徒ノ躬行ヲ監視シ自ラ摸範ト爲リテ之ヲ指導シ分擔ノ訓育ニ就テハ其責任ヲ負フ

第十一條 生徒ノ修學期ハ九月一日ヨリ翌翌年五月下旬ニ至ル二十一月トシ之ヲ二學年ニ分テ各學年ハ毎年九月一日ヨリ開始ス

第十二條 生徒ノ修學ニ所要ノ器具及圖書等ハ貸與又ハ支給スルヲ得(三十二年勅令第二百一十五號ヲ以テ本條ヲ追加シ第十二條以下順次繰下ク)

第十三條 陸軍地方幼年學校條例第十二條乃至第十八條ノ規定ハ本校生徒ノ爲メニモ亦之ヲ適用ス

(三十二年勅令第八十)  
八號ヲ以テ條中改正)

第十四條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十五條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム  
一 學術ノ修得全カラヌシテ卒業ノ前途ナキ者

二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

三 品行不正ニシテ改悛ノ前途ナキ者

四 傷疾疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者

五 卒業試験ニ落第セシ者

第十六條 生徒中各學年ニ於テ所定ノ學術ヲ修メ得サル者或ハ疾病等ニ依リ卒業試験ヲ受ケ得サル者又ハ卒業試験ニ落第セシ者ト雖モ尙望ミアル者ハ滯學補修ヲ爲サシメタル後テ卒業セシメ又ハ一學年延期修學セシムルコトヲ得但滯學日數ハ士官候補生教育ニ支障ナキヲ度トシ又延期ハ全學期ヲ通シテ一回限リトス

第十七條 生徒中卒業試験ニ及第スルモ傷疾疾病等ニテ士官候補生ト爲スヲ得サル者ニハ單ニ卒業證書ヲ附與シテ退校セシム

第十八條 前三條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス

第十九條 生徒修學期末ニ致レハ校長ハ卒業試験規格ヲ撰シ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試験ヲ行ハシム

第二十條 卒業試験ヲ終レハ校長ハ各教官及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十一條 教育總監ハ前條卒業者中士官候補生トナスヘキ者ヲ定メ之ニ士官候補生ヲ命シ各隊ニ配賦ス(三十二年勅令第二十) 五號ヲ以テ條中削除

前項士官候補生ヲ命セラレタル生徒ニハ入隊前ニ於テ一週間以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十二條 滯學ヲ命セラレタル生徒補修終レハ前諸條ニ準シテ取扱フモノトス

第二十三條 毎年生徒ニ五週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十四條 教官、中隊長及中隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルハシ

附則

第二十五條 明治三十二年前入學ノ本校生徒ハ其卒業ニ至ル迄本條例第十一條及第十三條ノ規定ハ左ノ各條ニ據リ取扱フ(三十二年勅令第八十八號ヲ以テ第十二條第十三條ニ改ム)

第二十六條 生徒修學期ハ概ネ三箇年トシ各學年ハ毎年九月始メニ而シテ第三年ニ在リテハ五月ニ終ル

第二十七條 生徒ハ官費、半官費、自費ノ三種ニ分ツ  
官費生徒ハ一切ノ經費ヲ官給シ且手當金ヲ給ス半官費生徒ハ小被服、賄料ノ經費自費生徒ハ被服、糧食一切ノ經費ヲ納メシム其金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十八條 戰死又ハ公務ノ爲メ死亡シタル高等官ノ孤兒ハ官費生徒トス



第二十九條 前條ノ外官費、半官費、自費生徒ヲ區分シ教育總監之ヲ裁定ス

○

○陸軍地方幼年學校條例明治三十一年十月勅令第二百二十九號

朕陸軍地方幼年學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍地方幼年學校條例

第一條 陸軍地方幼年學校ハ陸軍將校ニ出身志願ノ者ヲ選抜シテ生徒ト爲シ軍事上ノ必要ヲ顧慮シテ普通學科ヲ教授シ軍人精神ヲ涵養シ陸軍中央幼年學校生徒ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 陸軍地方幼年學校ハ左ノ六箇所ニ置ク

東京 仙臺 名古屋 大阪 廣島 熊本

第三條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ教育總監之ヲ定ム(三十三年勅令第二百十六號ヲ以テ條中削除)

第四條 生徒教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ニ上申

東京陸軍地方幼年學校長ニ在テハ陸軍中央幼年學校長ヲ經由ス以下做之教育總監之ヲ裁定ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 少佐

副官 中尉

教官 陸軍教授、陸軍助教

生徒監

大中尉

軍醫

軍吏

下士、判任文官

校長以下將校同相當官及下士ハ豫備後備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得其身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第六條 校長ハ教育總監東京陸軍地方幼年學校長ニ在テハ陸軍中央幼年學校長ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

教官中適任者一名ヲ選テ教頭ト爲シ教授部全般ノ授業ヲ監視シ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任セシム

第九條 生徒監ハ生徒ノ訓育ヲ擔任シ軍人精神ヲ涵養シ日常其躬行ヲ監視シ自ラ模範ト爲リテ之ヲ指導シ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス

第十條 生徒ノ修學期ハ九月一日ヨリ第四年ノ八月下旬ニ至ル三十六箇月トシ之ヲ三學年ニ分テ各

學年ハ毎年九月一日ヨリ開始ス

第十一條 生徒ノ修學ニ所要ノ器具及圖書等ハ貸與又ハ支給スルコトヲ得(三十二年勅令第八十九號ヲ以テ本條ヲ追加シ第十一條以下順次繰

下

第十二條 生徒ハ總テ校内ニ寄宿セシム

生徒ハ入學中被服、糧食其他ノ費用トシテ若干ノ納金ヲ爲スモノトス之ヲ自費生ト稱ス

第十三條 生徒中左ノ各項ニ該ル者ハ列記ノ順序ニ從ヒ資産ヲ願慮シ若干名ヲ限リテ特ニ納金ノ全額ヲ免除スルコトヲ得之ヲ特待生ト稱ス

一 戰死及戰傷ニ依リ死歿シ又ハ戰役中危難ヲ冒シタルニ起因シテ死歿シタル陸海軍將校及同相當官並ニ高等文官ノ孤兒

二 現職中公務ノ爲メニ死歿シタル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

三 増加恩給權ヲ得タル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

四 恩給權ヲ得タル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

五 特ニ國家ニ功勞アル高等官ノ孤兒

第十四條 生徒中左ノ各項ニ該ル者ハ列記ノ順序ニ從ヒ資産ヲ願慮シ若干名ヲ限リテ特ニ納金ノ内帽、日覆、絨衣袴夏衣袴、外套及精米料ヲ免除スルコトヲ得之ヲ半特待生ト稱ス但前條ノ各項ニ該ル者ノ内特待生ト爲ササル者ハ之ヲ半特待生ト爲スコトヲ得(三十三年勅令第八號ヲ以テ條中改正)

一 現職ニ在ル陸海軍尉官及同相當官ノ兒子

二 恩給權ヲ得タル陸海軍尉官及同相當官ノ兒子

三 陸海軍少佐及同相當官ニ名譽進級ヲ爲シタル者ノ兒子

第十五條 家督相續者タル養子ハ前二條中ノ孤兒或ハ兒子ニ準ス

第十六條 特待生半特待生ト爲スヘキ人員及其區分ハ教育總監陸軍大臣ニ協議シテ之ヲ定ム(三十三年勅令第二十六號ヲ以テ條中改正)

第十七條 本條例中孤兒及兒子ハ總テ同戶籍内ニ現在スルモノニ限ル又一家ヨリ重複シテ特待ヲ受

クルヲ得サルモノトス

第十八條 特待生、半特待生及自費生ノ納金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十九條 生徒中止ムヲ得サル事故アリテ退校ヲ願出ル者アルトキハ其事情ニ依リ之ヲ許スコトアルヘシ

第二十條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

一 學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ目途ナキ者

二 屢法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

三 傷疾疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者

四 卒業試験ニ落第セシ者

第二十一條 生徒中各學年ニ於テ所定ノ學科ヲ修メ得サル者或ハ疾病等ニ依リ卒業試験ヲ受ケ得サル者又ハ卒業試験ニ落第セシ者ト雖モ尙望ミアル者ハ一學年延期修學セシムルコトヲ得

第二十二條 前二條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス

第二十三條 生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試験規格ヲ撰シ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試験ヲ行ハシム

第二十四條 卒業試験ヲ終レハ校長ハ各教官生徒監ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十五條 教育總監ハ地方幼年學校長ヲシテ前條卒業者ニ中央幼年學校へ入學ヲ命セシム

第二十六條 前條ノ生徒ハ中央幼年學校ニ入校ノ期日ニ至ル迄休暇ヲ與ヘ歸省又ハ他行ヲ許スコトヲ得但此間ニ於ケル生徒ノ身分ハ地方幼年學校ニ屬ス

第二十七條 每年生徒ニ五週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

○陸軍戸山學校條例明治三十一年十月勅令第二百二十七號

朕陸軍戸山學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍戸山學校條例

第一條 陸軍戸山學校ハ學生ニ戰術、射擊、體操、劍術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ諸科學術ノ調査研究ヲ爲シ且攜帶火兵ノ研究及試験ヲ行フ所トス

第二條 學生ヲ分テ左ノ三種トス

一 戰術科學生ハ步兵大中尉ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ步兵少尉或ハ要塞砲兵及工兵士官ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

二 射擊科學生ハ步兵士官及下士ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ騎兵、要塞砲兵、工兵及輜重兵士官及下士ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

三 體操劍術科學生ハ步、騎、砲、工、輜重兵士官及下士ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 戰術及射擊研究ノ爲メ時トシテ佐官ヲ召集スルコトヲ得但修學期日ハ其時々教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ步兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- |             |            |
|-------------|------------|
| 校長          | 大中佐        |
| 副官          | 大中尉        |
| 教官          | 中少佐、大中尉、軍醫 |
| 教導大隊長       | 中少佐        |
| 教導大隊副官      | 中尉         |
| 教導大隊中隊長     | 大尉         |
| 教導大隊附       | 中尉         |
| 軍醫          |            |
| 軍吏          |            |
| 准士官、下士、判任文官 |            |

第六條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任シ陸軍軍樂學校ヲ管轄ス但攜帶火兵ノ研究及試験ニ關シテハ陸軍砲兵會議議長ノ區處ヲ受ク

- 第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル
- 第八條 教官ハ戰術、射擊並體操劍術科學術ノ授業ヲ分擔シ且其各科ニ於ケル學術ノ調査研究並携帶火兵ノ研究及試験ニ任シ佐官ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス
- 第九條 教導大隊ノ大隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス
- 第十條 學生ノ修學期ハ各科共概ネ五箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム
- 第十一條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス
- 第十二條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ各科ノ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘテ戸山學校長ニ送達セシムヘシ
- 第十三條 學生士官ハ校外ニ同下士ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、彈藥、書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但下士學生ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシム
- 第十四條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス
- 第十五條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ退校モシム
- 第十六條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ教育總監ノ認可ヲ請ケ士官ニ在テハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニ在テハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本入所屬ノ隊長ニ送付シ又下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與シ學生ヲ歸隊セシム
- 第十七條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ現役尙一箇年以上ノ期アル下士兵卒中ヨリ選抜スヘシ

- 第十八條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム
- 第十九條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ
- 第二十條 演習上ノ必要ニ依リ砲工學校馬ヲ使用スルコトヲ得

○陸軍軍樂學校條例明治三十一年三月勅令第百二十二號

朕陸軍軍樂學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍樂學校條例

- 第一條 陸軍軍樂學校ハ各軍樂隊ノ樂手補ヲ補充スル爲メ生徒ヲ養成シ又譜調學生ニ賦譜喇叭譜ノ訓練ヲ爲シ且軍樂學術ノ進歩ヲ計ル所トス(三十二年勅令第百二十二號ヲ以テ樂生ヲ樂手補ニ改ム)
- 第二條 生徒ハ華士族平民中軍樂部ニ出身志願ノ者ヲ選抜シテ採用ス
- 第三條 譜調學生ハ步兵隊ノ鼓手長及騎砲工輜重兵隊ノ喇叭長ヲ分遣セシメテ之ニ充ツ
- 第四條 本校ニ生徒隊一隊ヲ置ク
- 第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(三十二年勅令第百二十二號ヲ以テ校長生徒隊長ノ下ヲ改ム)
  - 校長
  - 樂長
  - 生徒隊長
  - 樂長若クハ樂手補

准士官下士

第六條 校長ハ陸軍戸山學校長ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス

第七條 生徒隊長ハ學生ノ訓練及生徒ノ教育ヲ掌リ其成績ニ就キ責ニ任ス

第八條 修學期ハ學生ニ在テハ概ネ二箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシメ生徒ニ在テハ概ネ十二箇月トス

第九條 學生ノ人員及入校時日ハ其時時教育總監之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス(三十三號勅令第二百一十號ヲ以テ條中改正)

第十條 學生分遣ノ告達アレハ隊長ハ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘテ戸山學校長ニ送達スヘシ

第十一條 學生及生徒ハ校內ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給シ學生ニ在テハ武器被服裝具ヲ携帶セシム

生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十二條 學生ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ軍樂學校長ノ管理ニ屬ス

第十三條 學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス

第十四條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

其一 學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢々法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四 傷痍疾病ニ罹リ卒業ノ目途ナキ者

第十五條 校長ハ學生ノ修學期末ニ於テ修學ノ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ戸山學校長ニ具申シ戸山學校長ハ師團長ヲ經テ之ヲ當該隊長ニ交付シ又修學ノ成績ヲ教育總監ニ報告ス

第十六條 校長ハ生徒ノ修學期末ニ於テ卒業試驗ヲ施行シ考科列序ヲ定メ戸山學校長ニ具申シ戸山學校長ハ其及第者ニハ卒業證書ヲ附與ス(三十二年勅令第四百二十二號ヲ以テ條中削除)

第十七條 生徒中疾病事故ニ依リ卒業試驗ヲ受ケサル者又ハ卒業試驗ニ落第シタル者ハ尙ホ滯學セシメ更ニ前條ニ準シ卒業試驗ヲ施行スルコトヲ得

○陸軍騎兵實施學校條例明治三十一年十月勅令第二百三十號

陸軍騎兵實施學校條例ヲ廢シ陸軍騎兵實施學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍騎兵實施學校條例

第一條 陸軍騎兵實施學校ハ學生ニ戰術及馬術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進步ヲ圖リ常ニ諸科學術ノ調査研究ヲ爲シ且乘馬具及馬匹器具ノ研究並ニ試驗ヲ行フ所トス

第二條 學生ヲ分テ左ノ二種トス

- 一 戰術科學生ハ騎兵大中尉ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ少尉ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ
- 二 馬術科學生ハ騎兵中少尉及下士ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ野戰砲兵、輜重兵士官及下士ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

第三條 戰術研究ノ爲メ時トシテ佐官ヲ召集スルコトヲ得但修學期日ハ其時時教育總監ノ上申ニ依

リ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導中隊ヲ置キ騎兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 大中佐

副官 大中尉

教官 中少佐、大中尉、獸醫

教導中隊長 大尉

教導中隊附 中尉

厩長 大尉

調馬手長 中尉

軍醫

獸醫

軍吏

准士官、下士、判任文官

第六條 校長ハ騎兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス但乘馬具及馬匹器具ノ研究及試験ニ關シテハ陸軍砲兵會議議長ノ區處ヲ受ク

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ戰術及馬術科學術ノ授業ヲ分擔シ且其各科ニ於ケル學術ノ調査研究並乘馬具及馬匹器具ノ研究及試験ニ任シ高級故參ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第九條 厩長ハ校厩一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ニ任ス

第十條 調馬手長ハ厩長ニ隸シ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第十一條 教導中隊ノ中隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス

第十二條 學生ノ修學期ハ各科トモ概ネ十一月箇月トス

第十三條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十四條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ各科ノ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其兵籍寫ニ教科表寫ヲ添ヘテ騎兵實施學校長ニ送達セシムヘシ

第十五條 學生士官ハ校外ニ同下士ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、馬匹、馬具、書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但下士學生ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシム

第十六條 學生中ノ願届其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十七條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ騎兵監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十八條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ騎兵監ノ認可ヲ請ケ士官ニ在テハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニ在テハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人

所屬ノ隊長ニ送付シ又下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與シ學生ヲ歸隊セシム

第十九條 教導中隊へ分遣ノ下士兵卒ハ現役尙一箇年以上ノ期アル下士兵卒中ヨリ選抜スヘシ

第二十條 教導中隊へ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、馬具、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム

第二十一條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

附則

第二十二條 當分ノ内必要ニ應シ學生ノ修學期ヲ短縮シ及戰術科學生ヲ一箇年二回召集スルコトヲ得

第二十三條 陸軍乘馬學校條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○

○陸軍砲工學校條例明治三十一年十月  
勅令第二百二十五號

朕陸軍砲工學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲工學校條例

第一條 陸軍砲工學校ハ砲工兵科ノ少尉ヲ以テ學生ト爲シ砲工兵各科ノ勤務ニ必要ナル學術ヲ教授

スル所トス但少尉ニシテ入學シ得サル者ハ中尉又ハ大尉ニ進級ノ後ニ在テモ學生ト爲スコトヲ得

第二條 學生教育ノ綱領ハ教育總監之ヲ定ム(三十三年勅令第二百  
三號ヲ以テ條中刪除)

第三條 學生教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 少將大佐

副官 大中尉

教官 大中少佐、大中尉、陸軍教授

軍醫

獸醫

軍吏

下士、判任文官

第五條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ學生教育ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 砲工兵科教官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ高級故參ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第八條 馬術教官ハ學生ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校厩一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條 文官教官ハ數學物理學化學圖學及外國語學ノ授業ヲ分擔ス

第十條 學生ノ修學期ハ概ネ一箇年トシ之ヲ普通科ト稱ス

第十一條 前條修學ヲ終リタル學生中ヨリ各兵科毎ニ三分ノ一以內ヲ選抜シ更ニ一箇年在學セシメ

尙須要ナル學術ヲ修メシム之ヲ高等科ト稱ス

第十二條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス(三十三年勅令第二百一十三號ヲ以テ修正)

第十三條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ入校期二十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘテ砲工學校長ニ送達セシムヘシ

第十四條 學生ハ校外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ馬匹、馬具、書籍、器具ハ貸與スルコトヲ得

第十五條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十六條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十七條 學生中疾病及其他ノ事故ニ依リ修學ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十八條 普通科學生中左ノ事項ニ該ル者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ滯學ヲ命ス

- 一 疾病及其他ノ事故ニ依リ修學期內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者
- 二 卒業試驗ヲ受ケ得サル者
- 三 卒業試驗ニ落第セシ者

第十九條 高等科學生ニシテ前條第一第二項ニ該ル者アルトキハ校長ハ教育總監ノ認可ヲ請ケ滯學ヲ命スルコトヲ得

第二十條 校長ハ修學期末ニ於テ學生ノ卒業試驗ヲ施行シ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第三十一條 高等科卒業者中學術優等ノ者若干名ヲ選ビ員外學生トシ以テ更ニ一箇年間必要ナル科學ヲ研究セシメ又ハ外國留學ヲ命スルコトヲ得

第三十二條 普通科卒業ノ學生ニシテ高等科ニ入ラサル者及高等科卒業ノ者ハ校長直ニ之ヲ歸隊セシム

第三十三條 普通科學生ニシテ退校ヲ命セラレタル者ハ隊長ノ上申ニ依リ教育上便宜ノ時期ニ於テ再ヒ入學ヲ命スルモノトス

第三十四條 滯學若クハ再ヒ入學ヲ命セラレタル學生修學ヲ終レハ第二十條ニ準シ卒業證書ヲ附與ス

第三十五條 普通科學生ニシテ前條卒業試驗ニ落第セシトキハ歸隊自習ノ上隊長ノ上申ニ依リ更ニ試驗ヲ受ケシメ及第者ニハ卒業證書ヲ附與シ尙落第シタル者ハ特別ノ詮議ニ附ス

第三十六條 毎年學生ニ三週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

○陸軍野戰砲兵射擊學校條例明治三十一年十月勅令第二百三十一號

朕陸軍野戰砲兵射擊學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍野戰砲兵射擊學校條例

第一條 陸軍野戰砲兵射擊學校ハ學生ニ野戰砲兵ノ射擊及戰術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ



圖リ常ニ射擊及戰術ノ調査研究ヲ爲シ且野戰砲兵材料ノ研究並試驗ヲ行フ所トス  
 第二條 學生ハ野戰砲兵大中尉ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ少尉ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ  
 第三條 前條ノ外時トシテ佐官ヲ召集シ所要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得但修學期日ハ其時時教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ定ム  
 第四條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ野戰砲兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 大中佐
- 副官 大中尉
- 教官 中少佐、大中尉
- 教導大隊長 中少佐
- 教導大隊副官 中尉
- 教導大隊中隊長 大尉
- 教導大隊附 中尉
- 軍醫
- 獸醫
- 軍吏

准士官、下士、判任文官

第六條 校長ハ野戰砲兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス但野戰砲兵材料ノ研究及試驗ニ

關シテハ陸軍砲兵會議議長ノ區處ヲ受ク

- 第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル
- 第八條 教官ハ各學術科ノ授業ヲ分擔シ且野戰砲兵ニ關スル學術、材料ノ調査研究及試驗ニ任ス
- 第九條 教導大隊ノ大隊長以下ノ服務ハ軍隊內務ノ定則ヲ適用ス
- 第十條 學生ノ修學期ハ概ネ三箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム
- 第十一條 學生ノ人員及入校期日ハ其時時教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス
- 第十二條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘテ野戰砲兵射擊學校長ニ送達セシムヘシ
- 第十三條 學生ハ校外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、彈藥、馬匹、馬具、書籍器具ハ貸與スルヲ得
- 第十四條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス
- 第十五條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ因リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ野戰砲兵監ノ認可ヲ請ケ退校セシム
- 第十六條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ野戰砲兵監ノ認可ヲ請ケ修得證明書ヲ作り署名捺印シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ學生ヲ歸隊セシム
- 第十七條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ現役尙一箇年以上ノ期アル下士兵卒中ヨリ選拔スヘシ
- 第十八條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム
- 第十九條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ





會務ノ三局主船、水路、兵學、軍醫ノ四寮進兵、武庫ノ二司水兵本部、裁判所ヲ提督府ト爲ス。○同年八月第二十八號  
達ヲ以テ海軍武官等ヲ改正ス。○同年同月海軍省甲第六十七號達ヲ以テ海軍少尉補ヲ改稱ス。○同年九月  
海軍省甲第八十七號達ヲ以テ機關火少監大中少機關士ヲ主船寮ニ屬ス。○同年十一月第三百九十四號達ヲ以テ軍醫秘  
書同計機關科中少尉相當ノ官ヲ以テ委任トス。○同年十二月五日橫濱製鐵所ヲ大磯省ニ屬セシム。○七年一月十二日海  
軍省外達ヲ以テ造船所ヲ廢シ其事務ヲ武庫司ニ屬ス。○同年同月廿八日陸軍所屬ノ鹿兒島器械所ヲ管セシム。○同年二  
月四日海軍省無職達ヲ以テ鹿兒島器械所ヲ改メテ造船所ト稱シ武庫司ノ管轄ト爲ス。○同年四月廿七日海軍機關科中機  
關士補ヲ置ク。○同年五月第四十九號布告ヲ以テ海軍部中車樂隊隊長ヲ廢シ樂隊等級ヲ改正ス。○同年同月海軍省甲第五  
十三號達ヲ以テ秘史軍務ノ二局ヲ廢シ六課ヲ置ク。○同年八月十四日假リニ提督府ヲ鹿兒島ニ設ク。○同年九月廿日海軍  
省外達ヲ以テ水管製造局ヲ兵學寮中ニ置ク。○同年五月第七十五號布告ヲ以テ造兵、武庫ノ二司ヲ廢シ海軍省(龍  
三寮)第六十五號達ヲ以テ兵器局ヲ置キ其事務ヲ管セシム。○同年十月七日海防局ヲ置キ海陸軍兩省ニ屬ス。○九年七  
月第六十九號達ヲ以テ海軍樂隊官等ヲ改正ス。○同年同月海軍省(龍三寮)第六十七號達ヲ以テ鹿兒島製造所ヲ改メテ鹿  
兒島造船所ト稱シ主船寮ニ屬ス。○同年同月海軍省(龍三寮)第七十號達ヲ以テ水夫ヲ改メテ水兵ト稱ス。○同年同月第八  
十三號達ヲ以テ東海西海領守府ヲ置ク。○同年同月第百十三號布告ヲ以テ海軍文武官官等ヲ改正ス。○同年九月海軍省丙  
第十一號達ヲ以テ橫須賀造船所中ニ業生トシテ、巡更鹿兒島造船所ニ工手ヲ置キ等級月俸ヲ定ム。○同年同月第九十五號  
達ヲ以テ海軍省職制章程ヲ更定シ省務ヲ支分シ軍務會計、主船、水路、醫務兵器ノ六局ト爲ス。○同年同月海軍省丙第四  
十七號達ヲ以テ芝罘鎮海兵隊地營ヲ東海鎮守府所轄トシ水兵也所ト改稱ス。○同年十一月海軍省丙第四十九號達ヲ以  
テ會計局其他諸課廢置分合及所轄ヲ更定ス。○同年十二月海軍省丙第七十四號達ヲ以テ長崎海軍出張所ヲ本省直轄トシ  
兵庫海軍出張所ヲ主船局所轄トス。○同年同月海軍省丙第七十七號達ヲ以テ橫須賀水兵屯集所ヲ東海鎮守府ノ所轄トス。○  
十年一月第三號達ヲ以テ諸寮地大小丞以下ヲ廢シ更ニ諸官廳官ヲ置ク。○同年同月第四號達ヲ以テ文官四等以下ノ官  
等ヲ給テ改ム。○同年同月第十五號達ヲ以テ海軍技術官并裁判所官等ヲ更定シ技術官ヲ技監、大中少匠司、補五等工長五  
等ニ分テ裁判官主理書記ト爲シ各五等ニ分ツ權列ヲ以テ八階ニ依ル。○同年同月海軍省丙第十七號達ヲ以テ海軍水病院  
ヲ醫務局所轄トス。○同年九月海軍省丙第九十二號達ヲ以テ橫須賀水兵屯集所ヲ東海水兵屯集所ト改稱シ浦賀水兵屯集所  
ヲ東海水兵分營ト改稱ス。○同年十月海軍省丙第九十八號達ヲ以テ新設水兵假屯集所ヲ廢シ東海水兵假分營ト置ク。○  
同年十一月海軍省丙第百廿二號達ヲ以テ兵學校ニ次長ヲ置ク。○十一年二月海軍省丙第廿四號達ヲ以テ鹿兒島造船所ヲ  
長崎出張所所轄トス。○同年同月海軍省甲第一號布告ヲ以テ主船寮ノ事務ハ造船所及主船局ニ屬シ水兵屯集所ノ事務ハ水路  
局ニ屬シ兵學寮ノ事務ハ兵學校ニ屬シ醫務局ハ醫務局ニ屬シ武庫司ハ兵學校附屬機關學校ヲ兵學寮本部兼管府ノ事務ハ鎮  
守府ノ管轄トス。○同年六月海軍省丙第七十八號達ヲ以テ兵學校橫須賀分校ヲ兵學校附屬機關學校ト改稱ス。○同年十月  
十九日內務省所轄橫濱製鐵所ヲ海軍省ノ管轄ニ屬ス。○十二年六月海軍省丙第四十八號達ヲ以テ東海鎮守府所轄東海水  
兵假分營ヲ廢シ。○同年十月海軍省丙第九十二號達ヲ以テ兵學校教員等級ヲ定ム。○同年同月海軍省丙第九十八號達ヲ以

テ目黒火藥庫ヲ廢シ火藥製造所ヲ設ケ兵器局ノ所轄トス。○同年同月海軍省丙第九十九號達ヲ以テ兵器局ニ業生ヲ置ク。  
○十三年五月海軍省丙第五十號達ヲ以テ橫須賀ニ海軍用所ヲ置キ章程ヲ定ム。○同年六月海軍省丙第五十七號達ヲ以テ  
海軍水病院ヲ東京海軍病院ト改稱ス。○十四年五月第四十八號達ヲ以テ規程局ヲ置ク。○同年七月第六十六號達ヲ以テ海  
軍機關學校ヲ置ク。○同年十月海軍省丙第五十三號達ヲ以テ長崎出張所所轄津海軍石炭用所ヲ主船局ノ所轄トス。○同  
年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務規程通則ヲ定ム。○十五年三月海軍省丙第廿一號達ヲ以テ  
東海鎮守府所轄東海水兵屯集所水兵屯集所ト改稱シ東海水兵分營ヲ水兵練習所ト改稱ス。○同年六月第三十三號達ヲ以テ  
海軍武官官等ヲ改正ス。○同年八月海軍省丙第五十五號達ヲ以テ海軍省丙第十號達ヲ以テ海軍軍樂隊中學生ヲ改稱シ定  
達ヲ以テ鎮守府司令官鎮守府長官ト改稱ス。○同年十二月海軍省丙第十號達ヲ以テ教官ヲ置キ名簿等級ヲ定ム。○  
十六年二月海軍省丙第十三號達ヲ以テ水管局ヲ置ク。○同年八月廿四日無職達ヲ以テ教官ヲ置キ名簿等級ヲ定ム。○  
同年十二月第五十八號達ヲ以テ校務官名稱等級ヲ定ム。○十七年一月海軍省丙第三號達ヲ以テ關度局ヲ置キ統計課ヲ丙  
丙第十八號達ヲ以テ主船局所轄橫須賀兵庫唐津ノ三海軍用所ヲ關度局所轄ニ附ス。○同年同月海軍省丙第二十一號達ヲ  
以テ軍務局ヲ廢シ更ニ軍事部ヲ置ク。○同年同月第廿一號達ヲ以テ工手ヲ置キ等級ヲ定ム。○同年三月海軍省丙第五十二  
號達ヲ以テ兵器局并造船所業生工監職手及造船所巡更ヲ廢シ丙第五十二號達ヲ以テ水路局附屬ヲ廢シ。○同年四月第廿  
九號達ヲ以テ海軍裁判所ヲ廢シ同月海軍省丙第六十三號達ヲ以テ東京軍法會議并東京監獄署ヲ設置ス。○同年五月海軍省丙第八十六  
號達ヲ以テ東海鎮守府刑部課監獄課ヲ廢シ同月海軍省丙第六十三號達ヲ以テ東京軍法會議并東京監獄署ヲ設置ス。○同年五月海軍省丙第八十六  
號達ヲ以テ規程局ヲ廢シ。○同年十二月海軍省丙第六十號達ヲ以テ陸務局ヲ廢シ。○同年五月海軍省丙第八十六  
號達ヲ以テ橫須賀海軍用所ヲ廢シ。○同年同月海軍省丙第七十三號達ヲ以テ水兵屯集所ヲ廢シ更ニ海軍大臣ヲ置ク。  
○十九年二月海軍省丙第十六號達ヲ以テ長崎海軍出張所ヲ廢シ同所ニ橫須賀鎮守府武庫及倉庫ノ分局ヲ置キ丙第十七  
號達ヲ以テ兵庫海軍用所ヲ橫須賀鎮守府倉庫兵庫分局ト改稱ス。○同年同月海軍省丙第七十三號達ヲ以テ海軍省官制ヲ定ム。○同年  
四月勅令第二十四號ヲ以テ海軍條例ヲ定ム。○同年同月勅令第二十五號ヲ以テ鎮守府官制ヲ定ム。○同年同月勅令第二十  
六號ヲ以テ海軍水路部官制ヲ定ム。○同年同月勅令第二十七號ヲ以テ警備部官制ヲ定ム。○同年同月勅令第二十八號ヲ以  
テ衛生部官制ヲ定ム。○同年同月勅令第二十二號ヲ以テ醫學校官制ヲ定ム。○同年同月勅令第三十號ヲ以テ會計檢査部官  
制ヲ定ム。○同年十月勅令第六十八號ヲ以テ海軍諸學校ニ文官教官ヲ置ク。○二十一年二月勅令第三十五號ヲ以テ機關學校  
官制ヲ定ム。○同年十月勅令第五十五號ヲ以テ主理、録事ノ官等俸給ヲ定ム。○二十一年二月勅令第三十五號ヲ以テ機關學校  
海軍會計檢査部ヲ廢シ海軍省會計局ニ檢査課ヲ置キ又同局中總費課ヲ廢シ其事務ヲ整理課ニ屬セシム。○同年五月  
勅令第二十六號ヲ以テ海軍參謀本部條例ヲ定ム。○同年六月勅令第四十四號ヲ以テ海軍兵學校官制ヲ定ム。○同年同月勅  
令第四十九號ヲ以テ水路部官制ヲ廢シ水路部條例ヲ定ム。○同年七月勅令第五十五號ヲ以テ海軍大學校官制ヲ定ム。○二



第四條 海軍軍令部ニ次長ヲ置キ海軍軍令部長ヲ補佐シ部務ヲ整理セシム

第五條 海軍軍令部ニ副官ヲ置キ庶務ヲ掌理セシム

第六條 海軍軍令部ニ第一局第二局及第三局ヲ置ク

第七條 第一局ニ於テハ作戰ノ計畫、艦船ノ配備並其ノ進退役務、艦隊軍隊ノ編制、軍港、要港、防禦港其ノ他軍事上必要ナル地獄ノ撰定並其ノ防禦計畫ニ關スル事ヲ掌ル

第八條 第二局ニ於テハ出師準備、演習檢閱及海運ノ計畫運動法及通信法ノ制定ニ關スル事ヲ掌ル

(三十一年勅令第二百二十三號ヲ以テ檢閲ノ二字ヲ加フ)

第九條 第三局ニ於テハ外國ノ軍事、諜報、翻譯及編纂ニ關スル事ヲ掌ル

第十條 各局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長  
局員

前項ノ外第二局第三局ニ海軍機關官ヲ置ク又第三局ニ海軍編修ヲ置ク

第十一條 各局長ハ海軍軍令部長ノ命ヲ承ケ其ノ局務ヲ掌理ス

第十二條 各局員ハ局長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條 第十條第二項ニ掲クル機關官及編修ハ各其ノ局長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條 海軍軍令部出仕トシテ海軍將校同相當官ヲ置キ海軍軍令部長ノ命ヲ承ケ服務セシム

第十五條 在外帝國公使館ニ公使館附トシテ海軍將校ヲ置キ海軍軍令部長ヲシテ之ヲ管セシム

第十六條 海軍軍令部ニ海軍文庫主管ヲ置キ先任副官ノ命ヲ承ケ秘密圖書ノ保管出納及海軍ニ必要ナル圖書ノ蒐集保存及出納ヲ掌ラシム

第十七條 前諸條ニ掲クル職員ノ外海軍船匠長船匠師海軍編修書記書記及技手ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第十八條 (三十三年勅令第四百九十七號ヲ以テ削除)

附則

第十九條 本令ハ明治三十年十二月一日ヨリ施行ス

(別表)(三十三年勅令第四百九十七號ヲ以テ別表刪除)

○ 海軍區區畫及軍港 明治二十六年五月勅令第三十八號

朕海軍區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 帝國ノ海岸及海面ヲ分チテ五海軍區トス其區畫ハ左ノ如シ

第一海軍區 陸中國南九戶北閉伊郡界ヨリ紀伊國南牟婁牟婁郡界ニ至ルノ海岸海面及小笠原島ノ海岸海面

第二海軍區

紀伊國南牟婁牟婁郡界ヨリ石見長門國界ニ至リ又筑前豐前國界ヨリ九州東海岸ニ沿ヒ日向國南那珂南諸縣郡界ニ至ルノ海岸海面及四國ノ海岸海面並内海

第三海軍區

筑前豐前國界ヨリ九州西海岸ニ沿ヒ日向國南那珂南諸縣郡界ニ至ルノ海岸海面及豊岐對馬沖繩諸島ノ海岸海面

第四海軍區

石見長門國界ヨリ羽後陸奥國界ニ至ルノ海岸海面及隠岐佐渡ノ海岸海面

第五海軍區

北海道陸奥及陸中國北九戸南九戸兩郡ノ海岸海面

第二條 各海軍區ニ軍港ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一海軍區軍港

相模國三浦郡横須賀

第二海軍區軍港

安藝國安藝郡吳

第三海軍區軍港

肥前國東彼杵郡佐世保

第四海軍區軍港

○ 丹後國加佐郡舞鶴

第五海軍區軍港

膽振國室蘭郡室蘭

第三條 各海軍區ノ要港ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 各海軍區ハ其軍港ニ置ク所ノ鎮守府ヲシテ之ヲ管セシム

舞鶴及室蘭鎮守府ヲ設置スルマテノ間第四海軍區中越後以東及第五海軍區ヲ横須賀鎮守府ニ管セシム

シテ第四海軍區中越中以西ヲ吳鎮守府ニ管セシム

○ 鎮守府條例 明治三十三年五月 勅令第九十九號

朕鎮守府條例改正ノ件ヲ載可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎮守府條例

第一條 各軍港ニ鎮守府ヲ置ク

鎮守府ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條 鎮守府ハ出帥ノ準備、防禦ノ計畫、海軍區ノ整備並所轄諸部ノ事務ヲ監督スル所トス

第三條 鎮守府ニ司令長官ヲ置ク

司令長官ハ親補トス

第四條 司令長官ハ

天皇ニ直隸シ麾下ノ艦隊艦船部副隊ヲ統率シ所屬各部ヲ監督シ府務ヲ總理ス  
司令長官ハ軍政人事ニ關シテハ海軍大臣ノ指揮ヲ受ケ出師準備防禦計畫ニ關シテハ海軍々令部長  
ノ區處ヲ承ク

第五條 司令長官ハ麾下ノ軍紀風紀及教育訓練ヲ統監ス

第六條 司令長官ハ麾下ノ艦隊、艇隊若ハ艦船ヲ所管海軍區及鄰區内ニ派遣シ又軍隊ヲ所管海軍區  
内ニ派遣スルコトヲ得

第七條 司令長官ハ其ノ軍港内ニ在ル他ノ所管ノ艦船ヲ指揮スルコトヲ得但シ他ノ司令長官司令官  
現在スルトキ其ノ麾下艦船ニ對シテハ此ノ限ニアラス

第八條 司令長官ハ地方長官ヨリ地方ノ安寧ヲ維持スル爲兵力ヲ請求スルトキ事急ナレハ直ニ之ニ  
應スルコトヲ得其ノ事地方長官ノ請求ヲ待ツノ違無キトキハ便宜兵力ヲ用フルコトヲ得此ノ場合  
ニ當リテハ事後速ニ海軍大臣ニ報告スヘシ

第九條 司令長官ハ疾疫其ノ他緊急ノ場合ニ方リ一時麾下ノ兵員ヲ移轉セシムルヲ必要トスルトキ  
ハ之ヲ處分シテ後海軍大臣ニ報告スヘシ

第十條 司令長官ハ麾下ノ雜役船舟ニ乘員ヲ要スルトキハ麾下人員ニ臨時乘組ヲ命スルコトヲ得

第十一條 司令長官ハ麾下ノ候補生及准士官ヲ麾下艦船團其ノ他各部ニ轉乘若ハ轉勤セシムルコト  
ヲ得

第十三條 司令長官ハ麾下ノ下士卒ヲ所屬艦船團其ノ他各部ニ配付ス

第十三條 司令長官ハ要塞地帶法及軍港要港規則ノ施行ニ關シテハ所在憲兵ヲ指揮スルコトヲ得  
三年勅令第二百八十  
四號ヲ以テ條中改正

第十四條 司令長官ハ麾下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ艦  
下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十五條 司令長官缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ所在麾下首席將校其  
ノ職務ヲ代理ス

第十六條 鎮守府ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

參謀  
參謀長

副官

第十七條 參謀長ハ司令長官ヲ佐ケ幕僚ノ事務ヲ統ヘ府務ヲ整理ス

第十八條 參謀ハ參謀長ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十九條 副官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ庶務及准士官以上並所屬文官ノ人事ヲ掌ル

第二十條 鎮守府ニ望樓監督官ヲ置キ參謀長ノ命ヲ承ケ海軍望樓ニ關スルコトヲ掌ラシム

第二十一條 鎮守府ニ兵事官ヲ置キ參謀長ノ命ヲ受ケ兵籍ヲ主管シ徵兵募兵及艦船團其ノ他各部ノ  
下士卒定員ノ補缺並豫備役兵後備役兵ノ召集簡閱點呼ニ關スルコトヲ掌ラシム

第二十二條 鎮守府ニ艦政部、機關部、醫務部、經理部及司法部ヲ置ク



第二十三條 艦政部ニ於テハ兵器、艦營需品及艦船ノ船體、機關ニ關スルコトヲ掌ル

第二十四條 機關部ニ於テハ艦船ノ機關ノ使用、保存ニ關スルコト及機關官以下ノ勤務ニ關スルコトヲ掌ル

第二十五條 醫務部ニ於テハ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第二十六條 經理部ニ於テハ會計經理、造兵造船ノ材料物件ニ非ラサル通常物品ノ購買供給、鎮守府所管一般及其ノ所屬艦船團並軍港境域内ニ在ル其ノ他ノ諸官衙ノ會計事務ノ監督、管區内ニ在ル艦船團其ノ他各部諸官衙ノ金櫃物件及帳簿ノ監査ヲ掌リ第一課第二課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌ヒシム

經理部ニ衣糧科ヲ置キ衣服糧食ノ準備保存供給ニ關スルコトヲ掌ラシム

經理部ニ建築科ヲ置キ官有財産建築及土木ニ關スルコトヲ掌ラシム

第二十七條 司法部ニ於テハ軍事司法懲罰及監獄ニ關スルコトヲ掌ル

第二十八條 艦政部、機關部、醫務部、經理部及司法部ニ左ノ職員ヲ置ク(三十三年勅令第二百八十四號ヲ以テ經理部ノ中部員ヲ削ル)

艦政部

部長

部員

機關部

部長

部員

醫務部 其ノ職員ノ配置ハ艦政ノ規程ニ依リテ定ム

第一 部長 官制 海軍省令 艦政第一號

部員 官制 海軍省令 艦政第一號

經理部 官制 海軍省令 艦政第一號

部長 官制 海軍省令 艦政第一號

第一課長

第二課長

課員 官制 海軍省令 艦政第一號

衣糧科長

衣糧科員

建築科長

建築科員

司法部

部長 官制 海軍省令 艦政第一號

部員 官制 海軍省令 艦政第一號

第二十九條 各部長、司令長官ノ命ヲ承ケ其ノ部ノ事務ヲ掌理ス

經理部長ハ會計事務ノ監督及金櫃物件帳簿ノ監査ニ就テハ海軍大臣ニ隷ス

第三十條 各部ノ部員ハ各其ノ部長ノ命ヲ掌ケ服務ス  
 第三十一條 經理部課長ハ部長ノ命ヲ承ケ各其ノ課ノ事務ヲ掌ル  
 課員ハ其ノ所屬課長ノ命ヲ承ケ服務ス  
 第三十二條 經理部科長ハ部長ノ命ヲ承ケ各其ノ科ノ事務ヲ掌ル  
 科員ハ科長ノ命ヲ承ケ服務ス

第三十三條 鎮守府ニ臨時艦裝委員ヲ置キ艦裝ニ關スル事務ニ服セシムルコトヲ得  
 第三十四條 前諸條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官並准士官下士卒及書記録事技手ヲ置キ各  
 部ニ分屬シ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○ 海軍港務部條例明治三十三年五月勅令第二百號

朕海軍港務部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍港務部條例

第一條 各軍港ニ海軍港務部ヲ置ク  
 港務部ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條 港務部ハ軍港水域ノ警衛、艦船ノ緊留、出入渠、浚渫船ノ使用、海標、運輸、救難、防火等ノ事  
 及司令官長ノ指定スル軍港防禦ノ一部ニ關スルコトヲ掌ル

第三條 港務部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

副官

部員

軍醫長

主計長

前項ノ外必要ニ應シ海軍軍醫及主計ヲ置クコトヲ得

第四條 部長ハ鎮守府司令官長官ニ隸シ部務ヲ掌理ス

第五條 部長ハ部下ノ職員ヲ所屬船中ニ乘組マシムルコトヲ得

第六條 部長ハ部下ノ職員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部下職員  
 ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第七條 部長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能サルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理  
 ス

第八條 副官ハ部長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌ル

第九條 部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條 軍醫長ハ部長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第十一條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條 主計長ハ部長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十三條 主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條 前諸條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官並准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○要港部條例明治三十三年五月  
勅令第二百六號

朕要港部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

要港部條例

第一條 各要港ニ要港部ヲ置ク

要港部ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條 要港部ハ要港ノ防禦及其ノ附近ノ海岸海面ノ警備ヲ掌リ兼テ軍需品ノ配給、艦船兵器ノ小修理ヲ爲ス所トス

第三條 要港部ニ左ノ職員ヲ置ク

司令官

參謀長

副官

知港事

機關長

工場主管

軍醫長

主計長

前項ノ外必要ニ應シ海軍機關士軍醫及主計ヲ置クニトテ得

參謀長參謀及副官ヲ幕僚ト稱ス

第四條 司令官ハ

天皇ニ直隸シ部下ノ諸隊ヲ統率シ部務ヲ總理ス

司令官ハ軍政人事ニ關シテハ海軍大臣ノ指揮ヲ受ケ防禦計畫ニ關シテハ海軍軍令部長ノ區處ヲ受

第五條 司令官ハ麾下ノ軍紀風紀及教育訓練ヲ統監ス

第六條 司令官ハ艦政、兵事、海岸海面ノ警備ノ任務ニ關シテハ其所在海軍區ヲ管スル鎮守府司令長官ノ區處ヲ受ク

第七條 要港部ニ要スル兵員ノ配付及需品器具材料其ノ他諸物品ノ供給ハ所在海軍區ヲ管スル鎮守府ノ所掌トス

第八條 司令官ハ要港内ニ在ル他管ノ艦船ヲ指揮スルコトヲ得但シ他ノ司令長官司令官現在スルトキ其ノ麾下艦船ニ對シテハ此ノ限ニアラス

第九條 司令官ハ地方長官ヨリ地方ノ安寧ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スルトキ事急ナレハ直ニ之ニ應スルコトヲ得其ノ事地方長官ノ請求ヲ待ツノ違ナキトキハ便宜兵力ヲ用フルコトヲ得此ノ場合ニ當リテハ事後速ニ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十條 司令官ハ要塞地帶法及軍港要港規則ノ施行ニ關シテハ所在憲兵ヲ指揮スルコトヲ得(三十三號ヲ以テ改正)

第十一條 司令官ハ部下ノ機關官、軍醫若ハ主計ヲ水雷艇ニ乗組マシムルコトヲ得

第十三條 司令官ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十三條 司令官缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ首席將校其ノ職務ヲ代理ス

第十五條 參謀ハ參謀長ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十六條 副官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌ル

第十七條 知港事ハ司令官ノ命ヲ承ケ所屬諸船ヲ統轄シ要港ノ警衛ヲ掌リ海運、海標、救難及防火等ニ關スル事ヲ掌ル

第十八條 機關長ハ司令官ノ命ヲ承ケ機關船體及兵器ニ關スル事及機關官以下ノ勤務ニ關スル事ヲ掌ル

第十九條 工場主管ハ船體機關及兵器ノ小修理ニ關スル事ヲ掌ル

第二十條 機關士ハ機關長ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十一條 軍醫長ハ司令官ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第二十二條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十三條 主計長ハ司令官ノ命ヲ承ケ會計給與及軍需品配給ニ關スル事ヲ掌ル

第二十四條 主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十五條 要港部ニ水雷敷設隊及水雷艇隊ヲ置ク

第二十六條 水雷敷設隊及水雷艇隊ノ任務並職員及其ノ職務ニ關シテハ水雷團條例ノ規定ヲ適用ス但シ水雷團長ノ職權ハ司令官之ヲ行フ

第二十七條 要港部ニハ第三條及第二十六條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長及同相當官准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第二十八條 軍港要港ニ非ラサル港灣ニシテ水雷防禦ヲ要スル所ニハ必要ニ應シ附近要港部ヨリ水雷敷設隊、水雷艇隊ヲ分置シ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱セシム  
前項ノ水雷敷設隊、水雷艇隊ハ平時ニ在テハ之ヲ所轄要港部中ニ置クコトヲ得  
前二項ノ場合ニ於テ該港灣ノ防禦ハ要港部司令官之ヲ掌ル

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○

○鎮守府艦隊條例明治三十二年六月  
勅令第三百三十一號

朕鎮守府艦隊條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎮守府艦隊條例

第一條 各鎮守府ニ艦隊ヲ置クコトヲ得  
鎮守府艦隊ハ軍艦二隻以上ヲ以テ編制シ必要ニ應シ水雷艇又ハ水雷艇隊等ヲ附ス  
第二條 鎮守府艦隊ハ管區ノ警備及練習ノ役務ニ任ス  
鎮守府艦隊ハ鎮守府所在ノ地名ヲ冠稱ス  
第三條 鎮守府艦隊ニ司令官ヲ置ク  
司令官ハ鎮守府司令長官ノ命ヲ承ケ麾下ノ艦船ヲ指揮ス

第四條 司令官艦船ヲ引率シテ航行スルトキハ航路ヲ指定シ其ノ安全ニ對シテハ自ラ責ニ任スヘシ  
第五條 司令官ハ其ノ幕僚缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ麾下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得  
第六條 司令官缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ麾下首席將校其ノ職務ヲ代理ス  
第七條 司令官ノ乗ル所ノ軍艦ヲ旗艦ト稱ス  
第八條 鎮守府艦隊ニ幕僚トシテ參謀ヲ置ク  
第九條 參謀ハ司令官ノ命ヲ承ケ服務ス  
第十條 旗艦ノ航海長、機關長、軍醫長、主計長ハ司令官ノ命ヲ承ケ其ノ機務ニ參與ス  
第十一條 二隻以上ノ驅逐艦ヲ鎮守府艦隊ニ編入スル場合ニ在テハ之ヲ以テ特ニ驅逐隊ヲ編制シ驅逐隊司令ヲ置クコトヲ得(三十三年勅令第二百七  
十六號ヲ以テ本條追加)  
前項ノ驅逐隊二隊以上ナルトキハ相互ノ區別ヲナス爲メ第一第二、等ノ字ヲ冠シテ之ヲ區分ス  
第十二條 驅逐隊司令ハ司令官ノ命ヲ承ケ驅逐隊ヲ指揮シ部下ヲ監督訓練シ兵備ヲ監理シ隊務ヲ掌理ス(上令)

附則

本令ハ明治三十二年六月十二日ヨリ施行ス

○海軍艦政本部條例(明治三十三年五月)

朕海軍艦政本部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍艦政本部條例

第一條 海軍艦政本部ハ之ヲ東京ニ置キ兵器、艦營需品及艦船ノ船體機關ニ關スルコトヲ掌ル所トス

第二條 海軍艦政本部ニ第一部第二部第三部及第四部ヲ置ク

第三條 第一部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス(三十三年勅令第二百八十三號ヲ以テ第三號中追加)

一 兵器ニ關スルコト

二 造兵廠、兵器廠及下瀬火藥製造所ニ關スルコト

三 造兵官以下ノ勤務及教育ニ關スルコト

第四條 第二部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 艦營需品ニ關スルコト

二 炭山及炭庫ニ關スルコト

第五條 第三部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス(三十三年勅令第二百八十三號ヲ以テ第二號第三號ヲ改正ス)

一 艦船ノ船體ニ關スルコト

二 造船廠ノ造船事業ニ關スルコト

三 造船ニ從事スル造船官以下ノ勤務及教育ニ關スルコト

第六條 第四部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス(三十三年勅令第二百八十三號ヲ以テ第三號第四號ヲ追加ス)

一 艦船ノ機關ニ關スルコト

二 機關官以下ノ勤務ニ關スルコト

三 造船廠ノ造船事業ニ關スルコト

四 造船ニ從事スル造船官以下ノ勤務及教育ニ關スルコト

第七條 海軍艦政本部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部長

副官

第一部長

第二部長

第三部長

第四部長

部員

第八條 本部長ハ海軍大臣ニ隸シ部務ヲ統理ス

第九條 海軍艦政本部長ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

- 第十條 海軍艦政本部長缺員中若ハ事故アリテ其職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理ス
- 第十一條 副官ハ本部長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス
- 第十二條 各部長ハ本部長ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌ル
- 第十三條 部員ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス
- 第十四條 第七條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官、准士官、書記及技手ヲ置キ各部ニ分屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服セシム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○

○艦隊條例(明治三十二年十月勅令第三百五十六號)ハ、海軍艦政本部長ノ職務ニ關シテ、  
朕艦隊條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

艦隊條例

- 第一條 艦隊ハ軍艦二艘以上ヲ以テ編制ス
- 艦隊ハ編制ノ目的ニ因リ又ハ差遣スル所ノ海洋若ハ地方ノ名ヲ冠シ其艦隊ト稱ス(三十二年勅令第三百五十六號ヲ以テ本項加)

第三條 艦隊ニハ必要ニ應ジ水雷艇水雷隊水雷敷設隊及運送船病院船工作船等ヲ附ス(三十二年勅令第三百五十六號ヲ以テ改正)

第三條 艦隊平時ノ巡航區域ハ帝國周海トス

第四條 艦隊ニ司令長官ヲ置ク(三十二年勅令第三百五十六號ヲ以テ改正)

司令長官ハ親補トス

第四條ノ二 司令長官ハ(三十二年勅令第三百五十六號ヲ以テ追加)

天皇ニ直隸シ麾下ノ艦船ヲ統率シ隊務ヲ總理ス

司令長官ハ軍政人事ニ關シテハ海軍大臣ノ指揮ヲ受ク

第五條 司令長官ハ麾下ノ軍紀風紀及教育訓練ヲ統監ス(三十二年勅令第三百五十六號ヲ以テ追加)

第六條 司令長官ハ麾下ノ艦船ヲ其ノ巡航區域内ニ派遣スルコトヲ得

第七條 司令長官ハ緊急ノ場合ニ方リ指令ヲ仰クノ暇ナキトキハ指令ヲ待タスシテ麾下ノ艦隊若ハ其ノ一部ヲ巡航區域外ニ差遣スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ事後海軍大臣ニ報告スヘシ(三十二年勅令第三百五十六號ヲ以テ追加)

第八條 司令長官ハ麾下ノ艦船ヲ分遣スルトキハ司令官若ハ分遣スル艦船ノ先任艦長ヲシテ其ノ指揮ヲ掌ラシメ自己ノ職權内ノ事ヲ之ニ委任スルコトヲ得

第八條ノ二 司令長官ハ本邦ニ於ケル島嶼等隔絶シタル地方ニ在ルトキ急劇ノ事變アリ鎮定ノ爲メ兵力ヲ用フルヲ必要ト認ムル場合ニ於テハ地方官ト合議シ便宜事ニ從フコトヲ得此ノ場合ニ於テ

ハ事後速ニ海軍大臣ニ報告スヘシ(三十三年勅令第百九十八號ヲ以テ追加)

第九條 司令長官艦船ヲ引率シテ航行スルトキハ航路ヲ指定シ其ノ安全ニ對シテハ自ラ責ニ任スヘシ

司令官若ハ先任艦長艦船ヲ引率スルトキ亦同シ

第十條 司令長官軍港要港ニアラサル港灣ニ在テ所在海軍先任將校タルトキハ同港内ニ在ル他管ノ艦船ヲ指揮スルノ權ヲ有ス但シ他ノ司令長官司令官現在スルトキ其ノ麾下艦船ニ對シテハ此ノ限ニアラス(三十三年勅令第百九十號ヲ以テ條中改正)

前項ハ司令官ニ適用ス

第十一條 司令長官ハ疾疫其ノ他緊急ノ場合ニ方リ一時麾下ノ兵員ヲ移轉セシムルヲ必要トスルトキハ之ヲ處分シテ後海軍大臣ニ報告スヘシ

第十二條 司令長官ハ麾下ノ候補生及准士官以下ヲ麾下各艦船隊ノ間ニ轉勤セシムルコトヲ得

第十三條 司令長官ハ麾下ノ職員事故アルトキ若ハ缺員中ハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十三條ノ二 司令長官缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ麾下首席將校其ノ職務ヲ代理ス(三十二年勅令第百三十二號ヲ以テ追加)

第十四條 艦隊ニ司令官ヲ置キ司令長官ノ命ヲ承ケ艦隊ノ一部ヲ指揮セシム

第十五條 司令長官若ハ司令官ノ乗ル所ノ軍艦ヲ旗艦ト稱ス

第十六條 艦隊ニ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク(三十二年勅令第百三十二號ヲ以テ職員中ヲ加除ス)

參謀長

參謀

副官

航海長

機關長

軍醫長

主計長

前項ノ外必要ニ應シ主理及海軍通譯官ヲ置ク

本條ノ職員ハ艦隊ノ編制上其ノ一部ヲ置カサルコトヲ得

第十七條 參謀長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ機務ニ參シ隊務ヲ整理ス

第十八條 司令長官ノ幕僚タル參謀ハ參謀長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十九條 司令官ノ幕僚タル參謀ハ司令官ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十條 航海長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ艦隊ノ航海事務ヲ掌理シ各艦航海長ノ職務ヲ監視ス

第二十一條 機關長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ艦隊ノ機關船體及兵器ニ關スル事ヲ掌理シ各艦船及諸隊

機關長ノ職務ヲ監視ス

第二十二條 軍醫長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ艦隊ノ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌理シ各艦船及諸隊軍醫長



ノ職務ヲ監視ス

第二十三條 主計長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ艦隊ニ屬スル會計給與ニ關スル事ヲ掌リ又常ニ各艦船諸隊ノ會計給與ノ齊一ヲ規畫シ及各艦船諸隊主計長ノ職務ヲ監視ス(三十二年勅令第二百三十二號ヲ以テ條中削除)

第二十四條 副官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌ル(三十二年勅令第二百三十二號ヲ以テ條中削除)

第二十五條 (三十二年勅令第二百三十二號ヲ以テ削除)

第二十六條 司令長官ノ幕僚ニ航海長機關長軍醫長主計長ヲ置カサルトキハ其ノ旗艦ノ航海長機關長軍醫長主計長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ其ノ職務ニ參與ス

第二十七條 司令官旗艦若ハ分遣艦隊先任艦長艦ノ航海長機關長軍醫長主計長ハ司令官若ハ先任艦長ノ命ヲ承ケ其ノ職務ニ參與ス

第二十八條 主理ハ司令長官ノ命ヲ承ケ軍事司法及懲罰ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十九條 海軍通譯官ハ司令長官ノ命ヲ承ケ服務ス

第三十條 二隻以上ノ驅逐艦ヲ艦隊ニ編入スル場合ニ在テハ之ヲ以テ特ニ驅逐隊ヲ編制シ驅逐隊司令ヲ置クコトヲ得(三十二年勅令第二百三十五號ヲ以テ本條追加)

前項ノ驅逐隊二隊以上ナルトキハ相互ノ區別ヲナス爲メ第一第二三等ノ字ヲ冠シテ之ヲ區分ス

第三十一條 驅逐隊司令ハ司令長官ノ命ヲ承ケ驅逐隊ヲ指揮シ部下ヲ董督訓練シ兵備ヲ監理シ隊務ヲ掌理ス(上)

第二十三類 豫備艦部條例

○

本令○豫備艦部條例 明治三十三年五月 勅令第二百一號

朕豫備艦部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

豫備艦部條例

第一條 各軍港ニ豫備艦部ヲ置ク

豫備艦部ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條 豫備艦部ハ豫備艦ヲ統轄保管シ又其ノ就役準備ヲ掌ル

第三條 豫備艦部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

副官

部員

機關長

軍醫長

軍醫

主計長

主計

第四條 部長ハ鎮守府司令部長官ニ隸シ部務ヲ掌理ス

第五條 部長ハ部下ノ職員ヲ所轄豫備艦ニ乗組マシムルコトヲ得

第二十三類 豫備艦部條例

第六條 部長ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第七條 部長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理ス

第八條 副官ハ部長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌ル

第九條 部長ハ部下ノ命ヲ承ケ服務ス

第九條ノ二 機關長ハ部長ノ命ヲ承ケ機關船體及兵器ニ關スル事及機關官以下ノ勤務ニ關スル事ヲ

掌ル(三十三年勅令第二百八十五號ヲ以テ本條追加)

第十條 軍醫長ハ部長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第十一條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條 主計長ハ部長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十三條 主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條 前諸條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官並准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服

務セシム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍望樓條例明治三十三年五月勅令第二百五號

朕海軍望樓條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍望樓條例

第一條 沿岸ノ諸要所ニ海軍望樓ヲ置ク

望樓ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條 望樓ハ海上見張及通信ヲ掌リ並氣象觀測ヲ行フ

第三條 望樓ニ望樓長ヲ置キ其ノ所在海軍區ヲ管スル鎮守府ノ望樓監督官ニ隸シ其ノ望樓ノ事務ヲ

掌理セシム

第四條 要港部附近ノ望樓ニ於ケル望樓長ハ又其ノ要港部參謀ノ區處ヲ受ク

第五條 望樓ニ望樓手ヲ置キ望樓長ノ命ヲ承ケ服務セシム

第六條 望樓長事故アルトキハ上席ノ望樓手其ノ職務ヲ代理ス

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍下瀬火藥製造所條例明治三十二年四月勅令第四百四十四號

朕海軍下瀬火藥製造所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍下瀬火藥製造所條例

- 第一條 海軍下瀬火藥製造所ハ之ヲ東京ニ置キ下瀬火藥ヲ製造スル所トス
- 第二條 海軍下瀬火藥製造所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

主幹

第三條 所長ハ海軍艦政本部長ニ隸シ所務ヲ總理ス(三十二年勅令第二百三十三號ヲ以テ條中改正)

第四條 主幹ハ所長ヲ助ケ擔任ノ事務ヲ掌理ス

第五條 本所ノ醫務衛生ニ關スル事務ハ東京海軍造兵廠軍醫長ヲシテ掌管セシメ之ニ該廠附看護手及看護ヲ附ス

第六條 製造火藥ノ検査ハ東京海軍造兵廠検査科員ヲシテ之ヲ行ハシム

第七條 第二條ニ掲クル職員ノ外書記及技手ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第八條 (三十二年勅令第二百三十六號ヲ以テ削除)

(別表) (三十二年勅令第二百三十六號ヲ以テ別表削除)

○新原採炭所官制明治二十六年五月勅令第五十五號

朕新原採炭所官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

新原採炭所官制

第一條 新原採炭所 海軍豫備炭山ヲ管轄シ海軍需用ノ石炭ヲ採掘スル所トス

第二條 新原採炭所ニ所長ヲ置ク次ヲ置ク海軍機關少監ヲ以テ之ニ補ス(三十二年勅令第二百一號ヲ以テ改正)

第三條 所長ハ佐世保鎮守府司令長官ノ命ヲ受ケ所務ヲ整理ス

第四條 新原採炭所ニ技師一人ヲ置ク所長ノ命ヲ承ケ服務ス(三十二年勅令第二百一號ヲ以テ改正)

第五條 新原採炭所ニ書記三人技手二人ヲ置ク上官ノ命ヲ承ケ服務ス(上全)

○海軍監獄官制明治三十二年七月勅令第三百三十五號

朕海軍監獄官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍監獄官制

第一條 各軍港ニ海軍監獄ヲ置ク

第二條 海軍監獄ハ現役海軍軍人並生徒其ノ他海軍ニ從事スル者ニシテ輕罪以下ノ刑ニ處セラレタル者及刑事被告人ヲ拘禁留置スル所トス

第三條 各海軍監獄ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

海軍監獄長 專任三人 奏任

海軍監獄書記

專任六人

判任

海軍監獄看守長

專任十人

判任

第四條 監獄長ハ鎮守府司令長官ニ隸シ部下ノ官吏ヲ指揮監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第五條 監獄書記ハ監獄長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第六條 監獄看守長ハ監獄長ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ部下ノ監獄看守ヲ指揮監督ス

第七條 各海軍監獄ヲ通シテ監獄看守三十五人ヲ置ク判任ノ待遇トス上官ノ命ヲ承ケ看守、護送及

門衛等ノ事務ニ服ス

第八條 海軍監獄ノ醫務衛生ニ關スル事項ハ其ノ地所在ノ海軍病院附海軍軍醫ヲシテ管掌セシメ之

ニ該病院附海軍看護手及看護ヲ附ス

附則

第九條 本令ハ明治三十二年七月十一日ヨリ之ヲ施行ス

○

○海軍省官制明治三十三年五月勅令第百九十四號

朕海軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍省官制

第一條 海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ海軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス

第二條 海軍省ニ副官ヲ置ク

副官ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ總務局ノ事務ヲ掌ル

第三條 海軍省ニ編修ヲ置ク

編修ハ上官ノ命ヲ承ケ翻譯編纂ノ事務ニ服ス

第四條 各省官制通則第十條第二項第一號及第三號ノ事務ハ總務局ニ於テ之ヲ管掌ス

第五條 海軍省ニ軍務局人事局醫務局經理局及司法局ヲ置ク

第六條 軍務局ニ第一課及第二課ヲ置キ左ノ事項ヲ管掌セシム

一 建制、編制及役務ニ關スル事項

二 軍紀風紀ニ關スル事項

三 戒嚴及徵發ニ關スル事項

四 儀式、禮式、服制及旗章ニ關スル事項

五 水路、望樓及測器ニ關スル事項

六 海上保安及運輸通信ニ關スル事項

七 艦政ニ關スル事項

八 教育、演習及檢閲ニ關スル事項

第七條 人事局ニ第一課及第二課ヲ置キ左ノ事項ヲ管掌セシム

一 高等武官、候補生、准士官及文官ノ補充、服務、進退、任免、補職、命課、増俸ニ關スル事項